[その他関連施設等研究活動]

（1）附属病院輸血部

1. 研究の概要

輸血療法は現代医療に不可欠な治療手段であるが，その実態は最も普及した「移植医療」である。他人の臓器（造血・免疫系・幹細胞）を最少限の検査で移入するので，致死的な副作用・合併症や難治性（致死性）新興・再興感染症の伝搬など，なお今後も引き続いて克服するべき新たな課題は出現すると予想される。既知のウイルス感染症のウインドウ期献血，スクリーニング法が未開発，あるいは問診の無効性の故に，他方では，最小量の輸血療法あるいは安全な代替療法を模索せざるをえない。自己血輸血療法やサイトカインの利用，人工血液などの開発である。

当院では自己血輸血療法を輸血部主導で拡大した結果，手術患者のうち受血者のおよそ 90% は自己血貯血し，貯血した患者の 90% 以上が同種血を回避でき，安全な輸血療法の一つとして確立し，20 年に渡って指導した結果，輸血療法の一画として代替不能にまで定着した。この事は適正な，最小限の輸血療法を推進する上で基礎となった。当輸血部では特に致死的輸血副作用である輸血後移植片対宿主病の発症メカニズムについて研究を行ってきた結果，現在もなおこの致死的な合併症に対する有効な治療法は確立できず，血液照射という予防以外に対処方法はなく，全ての受血者，総ての細胞製剤に照射して予防している。

2. 名簿

講師：　大塚節子　　Setsuko Otsuka

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 船戸道徳，大塚節子，琴尾泰典．第 5 章　S. 輸血の実際：MFICU 連絡協議会編　[MFICU マニュアル] 大阪：メデイカ出版；2008 年：368－374.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 高橋高喜，稲葉頌一，半田誠，坂本久浩，比留間潔，河原和夫，松崎道男，窪田良次，程原桂子，今中雄一，大塚節子，紀野修一，高松純樹，佐川公矯．2004 年度輸血関連総括アンケート調査報告―輸血管理体制，輸血療法委員会および血液の適正使用推進に関する調査―　日本輸血学会誌　2006 年；52 巻：414－421.

2） 高橋高喜，稲葉頌一，半田誠，坂本久浩，比留間潔，河原和夫，松崎道男，窪田良次，程原桂子，今中雄一，大塚節子，紀野修一，高松純樹，佐川公矯．2005 年度輸血関連総括アンケート調査報告―輸血管理体制，輸血療法委員会および血液の適正使用推進に関する調査―　日本輸血・細胞治療学会誌　2007 年；53 巻：365－373.

原著（欧文）

1） Arai M, Misao Y, Nagai H, Kawasaki M, Nagashima K, Suzuki K, Tsuchiya K, Otsuka S, Uno Y, Takemura G, Nishigaki K, Minatoguchi S, Fujiwara H. Granulocyte colony-stimulating factor –a noninvasive regeneration therapy for treating atherosclerotic peripheral artery disease. Cir J 2006;70:1093-1098.　IF 2.373

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：高橋孝喜，研究分担者：大塚節子；厚生労働科学研究研究費補助金　医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「血液新法に伴う輸血管理体制と安全管理・適正使用マネジメントシステムの構築」；平成 17－18 年度；900 千円(500：400 千円)

2）受託研究
なし

3）共同研究
なし

5. 発明・特許出願状況
なし

6. 学会活動
1）学会役員
大塚節子：
1） 日本輸血・細胞治療学会評議員(～現在)
2） 日本輸血・細胞治療学会倫理委員会(～現在)
3） 日本輸血・細胞治療学会適正委員会 I&A 小委員会(～現在)
4） 日本輸血・細胞治療学会輸血療法委員会 I&A 小委員会(～現在)
5） 輸血・細胞治療学会危機管理・大量出血・産科出血委員会(産科危機的出血への対応ガイドライン作成のための 5 学会合同委員会(平成 19 年度～現在)
6） 輸血・細胞治療学会東海支部会幹事(～現在)
7） 輸血・細胞治療学会東海支部会 I&A 委員会(～現在)
8） 日本アフェレーシス学会中部地方会世話人(～現在)
9） 日本血液代替物学会評議員(～現在)

2）学会開催
なし

3）学術雑誌
なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長
大塚節子：
1） 第 21 回 Transfusion Medicine Conference(平成 18 年 1 月，神奈川，シンポジウム：The Haemovigilance, Section 2. 4) Haemovigilance in Europe，5) 米国における現状，6) Serious Hazard of Transfusion(SHOT，英国)，7) 韓国における現状　座長)
2） 第 48 回日本輸血・細胞治療学会東海地方会(平成 18 年 10 月，名古屋，講演会「輸血をとりまく最近の状況」講演 1.「輸血管理料について」講演 2.「輸血用血液・分画製剤の一元管理について」講演 3.「CD36 抗体陽性ドナーPC 輸血による輸血関連急性肺障害(TRALI)の一症例」座長)
3） 第 50 回日本輸血・細胞治療学会東海支部会学術集会(平成 19 年 11 月，岐阜，シンポジウム「特殊状況下の血液製剤の使用」1.「救急医療」2.「集中治療部」3.「血液疾患」4.「分娩時」 座長)

佐藤弦士朗：
1） 第 46 回中部医学検査学会(平成 19 年 9 月，大垣，シンポジウム「輸血管理料取得に向けてのシステム構築」1～6　座長)
2） 第 50 回日本輸血・細胞治療学会東海支部会学術集会(平成 19 年 11 月，岐阜，教育セッション「電子カルテと輸血管理体制について」演者)

帖佐光洋：
1） 第 47 回中部医学検査学会(平成 20 年 10 月，富山，シンポジウム「輸血管理部門から臨床へのアプローチ」1. 緊急輸血時(危機的出血時)の対応について，演者)

8. 学術賞等の受賞状況
なし

9. 社会活動

大塚節子：

1） 骨髄移植推進財団の調整医師(～現在)
2） 岐阜県輸血懇話会(療法委員会合同委員会)委員(～現在)
3） 岐阜臨床輸血研究会事務局＆世話人(～現在)
4） 認定輸血検査技師制度指定施設(～現在)
5） 輸血医学認定医制度認定施設(～現在)

10. 報告書

1） 大塚節子：平成 18 年度厚生科学研究費補助金分担報告書

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

講師 1 名の定員にて，輸血治療の安全，適正，有効性の担保のために診療・教育・研究を担ってきた。

現状の問題点及び対応策

輸血治療の安全，適正，有効性の担保のためには，まず教育が最重要である。現状では講師 1 名の定員にて，通年，週 5 日の外来診療を担いながら，中央診療部門の管理のみならず，卒前・卒後教育を担当している。この分野における臨床医の知識の欠如と，輸血医学分野における人材（研究者）の少なさは表裏一体である。

致死的な反応を含む輸血による即時型反応の 90%以上が本邦第一の専門研究機関の詳細な検討にもかかわらず，今日でも原因不明のままである。また，輸血による遅延型副作用・合併症の追跡，被輸血患者の適切なるフォロウアップは輸血医療において例外的にしか為されていないのが現状である。歴史的には輸血を原因とする重篤かつ致死的な副作用を他の既知疾患と誤診し見逃してきた可能性がある。しかし，一方で，ヒトでは移植を左右するヒト組織適合抗原（HLA）が輸血の副作用の原因抗原として発見された経緯があることから判るように，有害な副作用を看過せず，研究対象とすることが依然として重要と考えられる。従って，輸血医療の適正・有効・安全性の追求には輸血医学教育・診療・研究の充実が不可欠である。

2002 年 7 月に成立した通称「血液新法」によって輸血による副作用報告が義務化した。（致死的）非溶血性輸血副作用のうち，少数ながら一部では，TRALI（transfusion related acute lung injury）や類似反応において，抗 HLA 抗体や抗顆粒球抗体が原因として検出されるようになってきたが，依然としてその詳細は未解明であるが，種々の未発見の抗体が関与している事が推測されている。21 世紀に入っても尚，欧米の輸血専門誌は言わずもがな，New Engl J Med，JAMA 等の一流臨床医学雑誌に致死的輸血副作用の 1 例報告が掲載される現状が続いている。

岐阜県赤十字血液センターの検査部門と製剤部門が愛知県瀬戸市に統合されて久しい。古典的輸血副作用である溶血反応を最近，立続けに経験した；ABO 型や Rho（D）型以外の抗原抗体反応による即時型及び遅延型溶血反応は，共に輸血前の不規則抗体陽性結果を得ながら抗体の特異性（と臨床的重要性）を同定できず，不適合輸血を防ぎ得ず，後者では致死的転帰を取った。経済的理由による業務の統合によって血液センターの Reference Laboratory 機能は著しく衰退し，検査結果は検体提出後，2 週間後（患者死亡後 2 週間後）に入手され，実効性を欠いている。市販されている細胞試薬は主に USA 製（白人用）であり，遺伝的な背景の異なる日本人用の細胞試薬を常時必要としているにもかかわらず，法的バリアーのため入手不能が数十年続いている現状があり，また輸血部を整備して自ら Reference Laboratory として充実しない限り，安全な輸血療法を提供出来ない事が判った。

今後の展望

近年，癌患者の再発に対して DLT（donor lymphocyte transfusion）などの細胞治療が有効な手段となってきた。輸血医療の安全性に対する国民の強い懸念と関心の高まりに加え，今後は DNA レベルで HLA（human leukocyte antigens）を一致させたドナーのリンパ球輸注による固形癌治療など，更なる治療法の開発，研究の必要性は高い。

当院は非血縁間骨髄採取・移植病院の認定を受けた結果，同種造血幹細胞移植や自己骨髄幹細胞を移

植する血管新生治療等の細胞治療が今後増加することが見込まれる。

更には，再生医科学専攻・組織器官形成分野および口腔外科に若年者の知歯歯髄より抽出された間葉系幹細胞 200 件が保存され，将来の臨床応用（iPS 細胞バンク）を目指して，輸血部にはバンク業務への関与を要請されている。実現には，将来的には細胞プロセッシングセンター運営のガイドライン（作成中）に従い，細胞療法士（仮称）相当の人材が必要であり，かつ　保存にさいして，感染症のチェックのみならず，血液型の一つである組織適合性検査が不可欠であるため，輸血部における人材の確保，検査遂行能力の向上が必須となると思われる。

（2）附属病院病理部

1. 研究の概要

1）モデル動物を用いた固形癌の発生メカニズム解析

実験的化学発癌モデル（大腸・胃など）を用いて，特に肥満・糖尿病・高脂血症関連因子に注目した発がんメカニズム解析を行った。

2）高度先進医療環境における病理診断

臨床各科の高度先進医療（センチネルリンパ節の術中迅速・前立腺癌小線源療法・移植医療・FNA 検体など）に対応して，病理診断技術の向上及び臨床的ニーズを満たす報告様式の改善を行った。

3）病変の morphology-based な分子病理診断

Immunohistochemistory・in situ hybridization・laser capture microdisection などを駆使した癌の総合的分子病態診断を目指し，手始めに乳癌におけるホルモン受容体免疫組織化学・HER2 免疫組織化学・HER2 遺伝子 ISH を院内で施行開始した。

2. 名簿

教授(併任)：	高見　剛	Tsuyoshi Takami
准教授：	廣瀬　善信	Yoshinobu Hirose
臨床講師(併任)：	浅野　奈美	Asano Nami

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 廣瀬善信．膵腫瘍の外科病理　最近の話題．臨床画像　2006 年；22 巻：1306－1313.
2） 後藤裕夫，杉崎圭子，星博昭，廣瀬善信．潰瘍瘢痕？．日本消化器がん検診学会雑誌　2007 年；45 巻：445－449.
3） 近藤浩史，兼松雅之，五島聡，柘植裕介，長田真二，小森充嗣，廣瀬善信．Misdiagnosis に学ぶ　術前診断　粘液産生胆管細胞癌．消化器画像　2007 年；9 巻：91－94.
4） 山口和也，小森充嗣，松井聡，佐々木義之，田中秀典，徳山泰治，坂下文夫，高橋孝夫，長尾成敏，長田真二, 安達洋祐, 荒木寛司, 廣瀬善信. 胃・十二指腸の腫瘍性疾患　稀な組織型の胃の腫瘍, 外科治療　2007 年；96 巻増刊：467－472.

総説（欧文）

1） Kanematsu M, Kondo H, Goshima S, Kato H, Tsuge U, Hirose Y, Kim MJ, Moriyama N. Imaging liver metastases: Review and update. Eur J Radiol. 2006;58:217-228.
2） Kato H, Kanematsu M, Ando K, Mizuta K, Ito Y, Hirose Y, Hoshi H. Ossifying pleomorphic adenoma of the parotid gland: a case report and review. Australas Radiol. 2007;51 Suppl:B173-B175.
3） Mori H, Yamada Y, Hirose Y, Hara A. Precancerous conditions of the colon; multistage carcinogenesis in animal models. Int J Cancer Prev. 2008;2:363-373.

原著（和文）

1） 山崎健路，荒木寛司，大島靖広，白木亮，福島秀樹，安田一朗，永木正仁，加藤則廣，森脇久隆，廣瀬善信．十二指腸陥凹型腺腫の 1 例．日本消化器内視鏡学会雑誌　2006 年；48 巻：1228－1232.
2） 岩下拓司，安田一朗，中井実，大島靖広，白木亮，森脇久隆，松尾浩，関野考史，山田卓也，廣瀬善信．主膵管狭窄をきたした膵内分泌腫瘍の 1 例．肝胆膵治療研究会誌　2006 年；4 巻：63－68.
3） 野中万祐子，丹羽憲司，水野智子，日江井香代子，廣瀬善信，玉舎輝彦．子宮頸部 large-cell neuroendocrine carcinoma の 1 例．東海産科婦人科学会雑誌　2006 年；43 巻：171－174.
4） 田中領，大野貴敏，大野義幸，清水克時，西本裕，廣瀬善信，松永研吾．末節骨骨腫瘍の 1 例．東海骨軟部腫瘍　2006 年；18 巻：43－44.
5） 加藤博基，星博昭，山田南星，青木謙太，水田啓介，伊藤八次，松永研吾，廣瀬善信．一側耳下腺に発生した多発耳下腺内神経鞘腫の 1 例．臨床放射線　2007 年；52 巻：312－317.
6） 松本真介，岩田尚，白橋幸洋，廣瀬善信，水野吉雅，松井雅史，竹村博文．FDG-PET で異なる所見を示した肺硬化性血管腫の 2 例．日本呼吸器外科学会雑誌　2007 年；21 巻：86－91.
7） 徳山泰治，長田真二，佐々木義之，今井寿，松井聡，小森充嗣，高井光治，内木隆文，今井健二，近藤浩史，五島聡，兼松雅之，廣瀬善信．術前に肝細胞癌との鑑別が問題となった肝細胞腺腫の 1 例．肝胆膵治

療研究会誌　2007 年；5 巻：35－40.

8) 佐藤恵理子，丹羽憲司，二宮望洋，水野智子，加藤史門，加藤博基，廣瀬善信，今井篤志．術前診断可能であった子宮肉腫の 2 例．東海産科婦人科学会雑誌　2007 年；44 巻：111－116.

9) 高橋孝夫，徳山泰治，坂下文夫，長尾成敏，山口和也，長田真二，荒木寛司，杉山保幸，富田弘之，廣瀬善信．下部直腸扁平上皮癌が上部直腸に同時性壁内転移をきたした 1 切除例．日本大腸肛門病学会雑誌 2008 年；61 巻：33－38.

10) 鬼頭勇輔，波多野裕一郎，松永研吾，廣瀬善信，斎尾征直，松本真介，白橋幸洋，岩田尚，高見剛．Micronodular thymoma with lymphoid stroma の 1 例．診断病理　2008 年；25 巻：267－271.

11) 菊池美奈，亀井信吾，守山洋司，土屋朋大，三輪好生，横井繁明，仲野正博，江原英俊，出口隆，廣瀬善信．FOLFOX4(オキサリプラチン，ロイコボリン，5-FU)を術前抗癌化学療法に用いた尿膜管癌の 1 例．泌尿器科紀要　2008 年；54 巻：557－559.

原著（欧文）

1) Hata K, Tanaka T, Kohno H, Suzuki R, Qiang SH, Kuno T, Hirose Y, Hara A, Mori H. Lack of enhancing effects of degraded lambda-carrageenan on the development of beta-catenin-accumulated crypts in male DBA/2J mice initiated with azoxymethane. Cancer Lett. 2006;238:69-75. IF 3.398

2) Hata K, Tanaka T, Kohno H, Suzuki R, Qiang SH, Yamada Y, Oyama T, Kuno T, Hirose Y, Hara A, Mori H. eta-Catenin-accumulated crypts in the colonic mucosa of juvenile Apc(Min/+) mice. Cancer Lett. 2006;239:123-128. IF 3.398

3) Kuno T, Hirose Y, Yamada Y, Hata K, Qiang SH, Asano N, Oyama T, Zhi H, Iwasaki T, Kobayashi H, Mori H. Chemoprevention of mouse urinary bladder carcinogenesis by fermented brown rice and rice bran. Oncol Rep. 2006;15:533-538. IF 1.597

4) Tanaka O, Kiryu T, Hirose Y, Fujikake R, Sakurai K, Hoshi H. Chest wall Castleman's disease: CT and MRI findings. Radiat Med. 2006;24:529-533.

5) Suzuki R, Kohno H, Yasui Y, Hata K, Sugie S, Miyamoto S, Sugawara K, Sumida T, Hirose Y, Tanaka T. Diet sypplemented with citrus unshiu segment membrane suppresses chemically induced colonic preneoplastic lesions and fatty liver in male db/db mice. Int J Cancer. 2006;120:252-258. IF 4.555

6) Tomita H, Yamaguchi K, Matsuo M, Ohno T, Nishimoto Y, Hirose Y. Metastatic myxoid liposarcoma in the mesentery: what is debated? Case report and a review of the literature. Am Surg. 2006;72:68-70. IF 1.241

7) Sheng H, Hirose Y, Hata K, Zheng Q, Kuno T, Asano N, Yamada Y, Hara A, Osawa T, Mori H. Modifying effect of dietary sesaminol glucosides on the formation of azoxymethane-induced premalignant lesions of rat colon. Cancer Lett. 2007;246:63-68. IF 3.398

8) Mizuno T, Imai A, Hirose Y. Skeletal muscle metastatic and pelvic leiomyosarcomas following hysterectomy. Int J Gynaecol Obstet. 2007;96:49-50. IF 1.144

9) Kato H, Kanematsu M, Kusunoki Y, Shibata T, Murakami H, Mizuta K, Ito Y, Hirose Y. Nasoalveolar cyst: imaging findings in three cases. Clin Imag. 2007;31:206-209. IF 0.742

10) Manabe T, Hirose Y, Kiryuu T, Koudo H, Hoshi H. Magnetic resonance imaging of endometrial cancer and clear cell cancer. J Comput Assist Tomo. 2007;31:229-235. IF 1.509

11) Zhi H, Yamada Y, Hirose Y, Kato K, Sheng H, Zheng Q, Oyama T, Asano N, Kuno T, Hara A, Mori H. Effect of 2-(carboxyphenyl) retinamide and genistein on the formation of early lesions in 1,2-dimethylhydrazine-induced colon carcinogenesis in rats. Asian Pac J Cancer Prev. 2007;8:33-38.

12) Asano N, Kuno T, Hirose Y, Yamada Y, Yoshida K, Tomita H, Nakamura Y, Mori H. Preventive effects of a flavonoid myricitrin on the formation of azoxymethane-induced premalignant lesions in colons of rats. Asian Pac J Cancer Prev. 2007;8:73-76.

13) Niwa K, Hirose R, Mizuno T, Hirose Y, Tamaya T. Pseudomyxoma peritonei and mucinous pyometral fluid arising from an ovarian borderline mucinous tumor: case report. Eur J Gynaecol Oncol. 2007;28:145-146. IF 0.587

14) Phuoc NB, Ehara H, Gotoh T, Nakano M, Yokoi S, Deguchi T, Hirose Y. Immunohistochemical analysis with multiple antibodies in search of prognostic markers for clear cell renal cell carcinoma. Urology. 2007;69:843-848. IF 2.134

15) Tomita H, Yamada Y, Oyama T, Hata K, Hirose Y, Hara A, Kunisada T, Sugiyama Y, Adachi Y, Linhart H, Mori H. Development of gastric tumors in Apc(Min/+) mice by the activation of the beta-catenin/Tcf signaling pathway. Cancer Res. 2007;67:4079-4087. IF 7.672

16) Mizutani K, Ehara H, Yokoi S, Phunc NB, Deguchi T, Hirose Y. Treatment-related ureteral cancer following stage II testicular seminoma. Int J Clin Oncol. 2007;12:469-471.

17) Niwa K, Onogi K, Yun W, Hirose Y, Tamaya T. Primary lymphoma of the uterine corpus: an unusual location for a common disease—case report. Eur J Gynaecol Oncol. 2007;28:522-523. IF 0.587

18) Kato H, Kanematsu M, Mizuta K, Ito Y, Hirose Y. Carcinoma ex pleomorphic adenoma of the parotid gland: radiologic-pathologic correlation with MR imaging including diffusion-weighted imaging. Am J Neuroradiol. 2008;29:865-867. IF 2.338

19) Doi S, Yasuda I, Iwashita T, Ibuka T, Fukushima H, Araki H, Hirose Y, Moriwaki H. Needle tract implantation on the esophageal wall after EUS-guided FNA of metastatic mediastinal lymphadenopathy. Gastrointest Endosc. 2008;67:988-990. IF 5.888

20) Iwashita T, Yasuda I, Doi S, Kato T, Sano K, Yasuda S, Nakashima M, Hirose Y, Takami T, Moriwaki H. The yield of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for histological diagnosis on patients suspected of stage I sarcoidosis. Endoscopy. 2008;40:400-405. IF 4.166

21) Kato H, Kanematsu M, Kiryu T, Iwata H, Shiraishi K, Matsumoto S, Hirose Y, Matsutomo H, Sasaoka I. Nonfunctional mediastinal parathyroid cyst: imaging findings in two cases. Clin Imag. 2008;32:310-313. IF 0.742

22) Phunc NB, Ehara H, Gotoh T, Nakano M, Kamei S, Deguchi T, Hirose Y. Prognostic value of the co-expression of carbonic anhydrase IX and vascular endothelial growth factor in patients with clear cell renal cell carcinoma. Oncol Rep. 2008;20:525-530. IF 1.597

23) Kato H, Kanematsu M, Furui T, Imai A, Hirose Y, Kondo H, Goshima S, Tsuge Y. Carcinosarcoma of the uterus: radiologic-pathologic correlations with magnetic resonance imaging including diffusion-weighted imaging. Magn Reson Imaging. 2008;26:1446-1450. IF 1.486

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：牛島俊和，研究分担者：廣瀬善信；厚生労働省がん研究助成金：個体レベルにおける多段階発がんに関する研究；平成 18 年度；1,700 千円
2) 研究代表者：高橋真美，研究分担者：廣瀬善信；厚生労働省がん研究助成金：肥満・高脂血症・糖尿病モデル動物の発がん感受性と発がん機構に関する研究；平成 19 年度；1,500 千円
3) 研究代表者：高橋真美，研究分担者：廣瀬善信；厚生労働省がん研究助成金：肥満・高脂血症・糖尿病モデル動物の発がん感受性と発がん機構に関する研究；平成 20 年度；1,500 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

廣瀬　善信：

1) 日本病理学会中部支部幹事(平成 20 年 12 月～現在)
2) 日本臨床細胞学会東海連合会幹事(平成 20 年 12 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

廣瀬　善信：

1) 第 40 回日本婦人科腫瘍学会学術講演(平成 18 年 7 月，岐阜，病理症例検討会 2「子宮体部」座長)
2) 第一回伴侶動物の臨床医学研究会および第 38 回日本比較臨床医学会(平成 19 年 11 月，岡崎，シンポジウム「乳がんの病理学的概要，ヒト乳腺腫瘍の病理」演者)
3) 第二回伴侶動物の臨床医学研究会(平成 20 年 12 月，岡崎，シンポジウム「骨軟骨腫瘍の病理学的概要」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

1) 牛島俊和，塚本徹哉，落合雅子，樋野興夫，鰐淵英機，木南凌，田沼順一，小川勝洋，廣瀬善信，本田浩章，続輝久，伊東文生，織田信弥，今井俊夫：個体レベルにおける多段階発がんに関する研究：厚生労働省がん研究助成金による研究報告集　平成 17 年度(牛島斑)：12－15(2006 年 9 月)
2) 牛島俊和，塚本徹哉，落合雅子，樋野興夫，鰐淵英機，木南凌，田沼順一，小川勝洋，廣瀬善信，本田浩章，続輝久，伊東文生，春田雅之，織田信弥：個体レベルにおける多段階発がんに関する研究：平成 18 年度厚生労働省がん研究助成金　厚生労働省がん研究助成金による研究報告集　平成 18 年度(牛島斑)：11－14(2007 年 9 月)
3) 高橋真美，廣瀬善信，今井俊夫，久野寿也，落合雅子，亀井康冨，沢村達也：肥満・高脂血症・糖尿病モデル動物の発がん感受性と発がん機構に関する研究：平成 19 年度厚生労働省がん研究助成金による研究報告集　平成 19 年度(高橋斑)：279－283(2008 年 9 月)

11. 報道

1) 廣瀬善信：「研究室から　大学はいま」遺伝子変化を加味して診断：岐阜新聞(2007 年 8 月 14 日)
2) 病理部：IT で診療情報を共有　県・県医師会・岐阜大病院：岐阜新聞(2007 年 10 月 17 日)
3) 病理部：岐阜県，19 日から病院と連携三事業：読売新聞(2007 年 10 月 17 日)

12. 自己評価

評価

固形癌（特に大腸癌）における肥満関連因子による修飾作用については，コンスタントに知見を蓄積して，それを業績発表及び外部研究費獲得につなげることができた。

FNA 検体に代表される高度先進医療については，臨床科との協力の下，業績発表を行うことが出来た。

形態診断と分子診断の融合に関しては，HER2 遺伝子の in situ hybridization までを独自で施行し，実績につなげることが出来た。

現状の問題点とその対応策

着実な業績発表ができるようになったが，総じて病理部が発信元になる業績が少ない点が問題としてあげられる。今後は自前での論文発表および学会発表を積極的に行っていくことが必要と思われる。

今後の展望

大腸発がんにおける肥満関連因子の修飾作用については，引き続き動物モデルを用いてその原因因子特定に迫るような展開をしていく。

今後もさらなる高度医療が臨床応用されることが想定されるため，その都度，臨床的ニーズに応じられるような協力関係の構築と不断の準備を心懸けていく。

特に肺・大腸・軟部腫瘍などについて，遺伝子情報を盛り込んだ病理診断の構築に引き続いて努力していく。

(3) 地域医療医学センター（内科系分野）

1. 研究の概要

当センターは，平成 19 年 4 月に新設された。大学院医学系研究科・医学部の一部門ではあるが，その使命は他の臨床系講座・分野と同様に，診療・教育・研究の 3 本柱を基本としている。具体的には，①：当面の地域医療崩壊を避けるために，単に医師数の確保に頼るのではなく，地域医療施設間連携，自治体や地域住民との協力体制などを駆使して「医療の確保」を行う。②：地域枠推薦入試など，医学部定員増を推進するとともに，既存のカリキュラムの中で，地域医療の現場を最大限に活用して卒前～卒後一貫した「地域医療に貢献できる人材育成」を担当する。ここでいう人材は単一の診療科の専門医を育て上げるのみでなく，ある程度幅広い医療技術を身に付けた「横断的総合診療医」のことを指し，また医師のみでなく看護師，その他のコメディカルの育成をも含む。医学部の最大の使命は医療人の育成であり，このことに最大限の資源を投入する。③：①②を実行するにあたっての医療連携システムや，地域医療人育成カリキュラムの開発など，地域医療を確保するための方策を研究するとともに，地域の特異的な疾患に関する研究なども担当していく。

2. 名簿

教授：　村上啓雄　　Nobuo　Murakami

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 村上啓雄．中村　豊編．NST ハンドブック，東京：メディカルビュー社；2006 年.
2) 村上啓雄．森脇久隆．「肝性脳症の診断基準と病型分類」：棟方昭博，小池和彦，田尻久雄編．肝　臨床に役立つ消化器疾患の診断基準・病型分類・重症度の用い方，東京：メディカルセンター社；2006 年：227－231.
3) 村上啓雄．神谷　晃，尾家重治編．薬剤師のための感染制御標準テキスト，東京：じほう；2008 年.
4) 村上啓雄．II 章　主要疾患の栄養管理　7.　特殊な病態での栄養管理　D. 感染症：中屋　豊編．病態栄養専門医ガイドブック，東京：南江堂；2008 年：218－223.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 村上啓雄．ICD 活動報告書 ～ICD's Pearls～，ICT と NST を統合した患者診療支援，INFECTION CONTROL　2006 年；15 巻：181－184.
2) 村上啓雄，福島秀樹，白木　亮，鶴見　寿，松浦克彦，深尾亜由美，木下幸子，村瀬佳代子，鈴木麻希子，森脇久隆．学会レポート，第 21 回日本静脈経腸栄養学会　栄養評価と治療　2006 年；23 巻：174－176.
3) 村上啓雄．第 1 特集　知っておきたい NST の基礎知識―さまざまな領域での取り組みの実際―褥瘡・感染予防をみすえた NST，臨牀看護　2006 年；32 巻：824－830.
4) 村上啓雄，福島秀樹，白木　亮，森脇久隆．特集　栄養投与ルートの工夫と進歩―医療安全管理からみた栄養投与　ルートの変革と有用性，栄養評価と治療　2006 年；23 巻：426－431.
5) 諏訪哲也，木下幸子，深尾亜由美，村上啓雄．知っておきたい新しい医療―医学概論―褥瘡対策チーム，日本内科学会雑誌　2007 年；96 巻：1758－1764.
6) 村上啓雄，森脇久隆．特集：肝不全　2. 慢性肝不全　1）肝性脳症の発症機序と治療，治療学　2007 年；41 巻：363－367.
7) 村上啓雄，深尾亜由美．特集　先進的な病院における感染制御　岐阜大学病院における感染制御活動～電子カルテと電子化サーベイランス～，感染制御　2007 年；3 巻：231－236.
8) 村上啓雄，深尾亜由美．特集　院内感染対策地域ネットワークの構築―岐阜県地域ネットワークの活動，感染制御　2008 年；4 巻：27－32.
9) 村上啓雄．特集　高齢者肺炎　誤嚥性肺炎を中心に基礎と背景因子―　2）高齢者肺炎の宿主要因－顕性誤嚥と不顕性誤嚥，治療学　2008 年；42 巻：1205－1210.
10) 村上啓雄．「勤務医不足(3)」―岐阜大学医学部地域医療医学センター（CRM）の取り組み，岐阜県医師会報　2008 年；683 巻：13.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1) 松橋延壽，八幡和憲，池亀由香，桑原秀次，竹村正男，村上啓雄，豊田　泉，小倉真治．β-D-グルカン値を指標とした深在性真菌症に対するミカファンギンの有効性の検討，日本集中治療医学会誌　2007 年；14

巻：77－80.
2) 熊田恵介，吉田隆浩，豊田泉，小倉真治，山田卓也，村上啓雄，小倉真治．地方における救急医療体制の現状と問題点　今，何が必要であるか，へき地・離島救急医療研究会誌　2008 年；9 巻：75－78.

原著（欧文）
1) Wakahara T, Shiraki M, Murase K, Fukushima H, Matsuura K, Fukao A, Kinoshita S, Kaifuku N, Arakawa N, Tamura T, Iwasa J, Murakami N, Deguchi T, Moriwaki H. Nutritional screening with subjective global assessment predicts hospital stay in patients with digestive deseases. Nutrition. 2007:23;634-639. IF 2.104

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

1) 森脇久隆，村上啓雄，鶴見　寿：HIV 感染者等保健福祉相談推進研究　研究担当者（実務）；平成 13－18 年度；325 千円：エイズ予防財団受託研究
2) 村上啓雄，深尾亜由美：「院内感染対策研究事業(平成 17 年度～)」；平成 18－20 年度；150 千円(500：500：500 千円)：岐阜県医療整備課受託研究

3）共同研究

1) 村上啓雄：国立大学医学部附属病院共通ソフト“感染症管理システム”を用いた全自動全面電子化医療関連感染サーベイランスに関する研究；平成 12 年～現在；0 円；群馬大学

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

村上啓雄：
1) 日本感染症学会評議員(～現在)
2) 日本環境感染学会評議員(平成 19 年 2 月～現在)
3) 日本病態栄養学会評議員(平成 18 年 1 月～現在)
4) 日本病態栄養学会 NST 実施委員会委員，病態栄養専門師認定資格検討委員会委員(平成 19 年 4 月～現在)
5) 日本内科学科東海支部評議員(～現在)
6) 日本感染症学会平成 20 年度施設内感染対策相談窓口回答者(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

村上啓雄：
1) 第 21 回日本静脈経腸栄養学会(平成 18 年 1 月，岐阜，合同シンポジウム「NST のアウトカム評価」座長)
2) 第 21 回日本環境感染学会総会(平成 18 年 2 月，東京，シンポジウム「感染症対策の電子化」座長)
3) 第 3 回リスクマネジメントセミナー(J&J)(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演 1，「手術室における職業感染の現状と対策」2，「当科における手術室での感染防止対策」座長)
4) 第 89 回日本細菌学会関東支部総会ミニシンポジウム(平成 18 年 11 月，群馬，特別講演「国立大学医学部附属病院共通ソフト「感染症管理システム」を用いた電子化病院感染サーベイランスを開始して」演者)

5) 第 22 回日本環境感染学会総会(平成 19 年 2 月，横浜，シンポジウム「NST，創傷ケア，褥瘡チーム，術後感染対策などの院内専門チームと感染制御」座長)
6) 第 5 回京滋サーベイランス研究会(平成 19 年 4 月，京都，特別講演「電子化サーベイランスによる医療関連感染対策」演者)
7) 第 6 回日本救急医学会中部地方会(平成 19 年 11 月，岐阜，招聘講演「救急領域における医療関連感染対策の基本」演者)
8) 第 4 回日本口腔ケア学会学術大会(平成 19 年 11 月，愛知，教育講演「口腔ケアと誤嚥性肺炎」演者)
9) 東海 3 県へき地医療研修会(平成 20 年 2 月，岐阜，特別講演「岐阜県の地域医療の課題と地域医療医学センターの役割について」演者)
10) 第 6 回救急領域感染対策セミナー(平成 20 年 7 月，岐阜，感染対策シリーズ講演「救急外来における感染対策」座長)
11) APIC トピックスセミナー(平成 20 年 8 月，東京，招聘講演「日本からの演題による参加レポート」演者)
12) 第 10 回国立大学附属病院感染対策協議会(平成 20 年 11 月，神戸，特別講演「サイトビジットおよび毅然支援の報告」座長)
13) ジェニナック発売 1 周年記念講演会(平成 20 年 11 月，岐阜，特別講演「呼吸器感染症に対する経口抗菌薬療法－ニューキノロン薬を中心に－新市中肺炎ガイドラインを考慮して」座長)
14) 第 10 回志摩感染症研究会(平成 20 年 11 月，三重，特別講演「日常診療で役立つ感染対策のポイント」演者)
15) 日医生涯教育協力講座セミナー：ウイルス感染症における予防と対策(平成 20 年 11 月，岐阜，特別講演「新しいワクチン－Hib ワクチン，結合型肺炎球菌ワクチン，子宮頸癌ワクチン－」座長)
16) 厚生労働省委託事業：日本感染症学会院内感染対策講習会(平成 20 年 12 月，神戸，招聘講演「院内感染対策のシステム化」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1) 村上啓雄：第 89 回日本細菌学会関東支部総会 Best Presentation 賞(平成 18 年度)

9. 社会活動

村上啓雄：

1) 国立大学医学部附属病院感染対策協議会委員(～現在)
2) 同　ガイドライン作業部会委員長(平成 20 年度～現在)
3) 岐阜地方裁判所専門委員(～現在)
4) 岐阜県感染症予防委員会情報対策部会解析小委員会委員(～現在)
5) 岐阜県感染症予防委員会予防接種部会委員(平成 20 年度～現在)
6) 岐阜県予防接種健康被害調査専門医師集団専門医師(～現在)
7) 岐阜県感染症予防計画検討委員会委員長(平成 19 年度)
8) 岐阜県院内感染対策協議会委員(～現在)
9) 岐阜県院内感染対策相談窓口回答者(～現在)
10) 岐阜県国民健康保険診療報酬審査委員会委員(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

1) 村上啓雄：感染と消毒　Vol.13 No.2：幸書房(2006 年 10 月 30 日)
2) 村上啓雄：中部の医療：インフルエンザ⑤『受験生は予防接種を』：読売新聞(2006 年 11 月 27 日)
3) 村上啓雄：今流行のウイルスについて：岐阜放送（岐阜ラジオ）(2006 年 12 月 7 日)
4) 村上啓雄：家庭医学の時間；インフルエンザの予防：文化放送(2006 年 12 月 10 日)
5) 村上啓雄：今冬のインフルエンザ：岐阜放送（岐阜ラジオ）(2006 年 12 月 10 日)
6) 村上啓雄：県内版『どうなる，どうする』～ノロウイルスに関して：読売新聞(2006 年 12 月 13 日)
7) 村上啓雄：新型インフルエンザ：岐阜放送テレビ(2007 年 3 月 2 日)
8) 村上啓雄：地域医療を支えて　岐阜大学地域医療医学センター：岐阜放送テレビ(2008 年 2 月 13 日)
9) 村上啓雄：新型インフルエンザに備えて：岐阜県保険医新聞(2008 年 12 月 10 日)

12. 自己評価

評価

・ 地域医療医学センターの設立（19 年 4 月，教育・診療・研究を通して地域医療の確保に貢献，学内措置；教授 5 名，助教 2 名）
・ 地域枠推薦入試（20 年 1 月，10 名）の実施
・ 岐阜県との連携強化：
　県寄附講座「地域医療学講座」の設置と地域医療医学センター内部門化（地域・へき地医療部門）（19 年 11 月）
　岐阜県医学生修学資金創設に係る協力支援（義務年限勤務コーディネート）
　全学的な職員交流の一貫としての岐阜県職員である自治医科大学卒業生等との連携（客員教官として地域医療医学センター業務支援，20 年 8 月～）
　岐阜県地域医療対策協議会および飛騨地域医療連携会議へ全面的参加（議長，部会長）・協力
・ 岐阜県総合医療センター，岐阜市民病院との連携によるモデル地区へき地医療拠点病院活性化：（岐阜県立下呂温泉病院，高山赤十字病院）
　初期臨床研修における「地域医療研修」の実施（1 ヶ月毎派遣）
　岐阜大学および岐阜県総合医療センターから，指導医・専門医を派遣し，診療・研修医指導
　サテライト診療所や大学との間の診療連携システムの構築に関する研究（ヘリ移送も含む）
・ 飛騨地域各市の病院・医師会と本学の連携による小児救急診療センター（飛騨地域での夜間・休日診療に対応）設立に係る協力支援
・ 岐阜県総合周産期母子医療センター及び産科救急搬送システム（20 年 2 月設立）への運営支援
・ 在学生に対する岐阜県医学生修学資金受給奨励：（第 1 種；地域枠入学生 10 名中 10 名 100%受給，第 2 種；地域枠入学生以外：1 年生 17 名，2 年生 3 名，3 年生 3 名，4 年生 2 名，5 年生 4 名，6 年生 3 名，合計 33 名受給）
・ 地域医療に関するカリキュラムの充実（地域枠入学生を含んだ全医学科学生が対象）：
　1 年生：初期体験実習（学外医療関連諸施設；聾学校，盲学校，高齢者施設，消防署，血液センター等）および地域診療所実習
　全学年対象地域医療ゼミ（課外授業）
　全学年対象夏季休暇中地域体験実習（岐阜県内へき地医療拠点病院および診療所）
　地域医療医学センター教官による地域枠入学生の「里親制度」実施

現状の問題点及びその対応策

・ センターメンバーは一部専任職員となっているものの，実際は各専門分野の講座業務と兼務している状態であり，実質的な専任職員がいない。当センターの業務をより一層充実するためには，真の専任職員の配置が重要である。
・ 当センターには予算配分が全くない。寄附講座の予算は主に人件費に充当されており，運営・研究費として運用できる状態にない。是非とも予算配分を要求したい。
・ 当センターの業務は，すべての講座，診療科の業務と共通したり，少なからず影響を及ぼしたりすることが考えられる。現在 CRM 運営委員会で調整を図っているところであるが，卒後臨床研修センター，医療連携センターなどをはじめとした病院の部門や教務厚生委員会，入試委員会などのメンバーが一堂に会して討議する委員会であるべきと考えられる。あるいは CRM も含めた地域医療の診療・教育・研究に関わる委員会・会議が必要であろう。
・ 地域医療を担う医療人を育成する指導者の姿勢の統一化が不十分である。学内外の県内各医療施設の指導者が一丸となって地域医療人を育成するマインドを一つにすべく地道な努力が必要である。

今後の展望

○今後の取組み（新たに取り組むものや今後，充実するもの）

・ 「現状の取組み」すべての継続および充実
・ 地域医療に関するカリキュラムのさらなる充実（地域枠入学生を含んだ全医学科学生が対象）：
　3 年生：3 ヶ月間地域医療施設への配属（選択性）
　5－6 年生：学外臨床実習の拡充（拠点病院に加え，へき地診療所へも実習協力要請）
・ 岐阜大学医学部附属病院における初期臨床研修プログラムの質的改善：
　臨床研修プログラムに関するモデル事業で，現在医師不足が深刻な小児科，産婦人科，救急，内科，外科のそれぞれについて，特別コースの研修プログラムを新設

若手教員を中心とした「プロジェクト 30」の立ち上げ；本学での初期臨床研修のマッチング実績を高めるための方策（指導体制の質的向上）の継続検討

・ 後期研修プログラムにおける地域医療フィールドの活用

「岐阜県良医プロジェクト」「飛騨赤かぶ医者プロジェクト」；後期研修プログラムとして，地域医療に関わる各医療施設で幅広い臨床技術を身につけた横断的総合臨床医の育成を行う

・ モデル地区地域中核病院等での診療支援の拡充（中濃・東濃・西濃医療圏へ順次拡充）

・ 学内のみならず，県内医療施設の医療人育成指導者を対象とした FD の実施

・ 全国の地域医療関係講座との連携・協力体制の確立（地域医療関連講座ネットワーク）

（4）地域医療医学センター（外科救急系分野）

1. 研究の概要

地域医療医学センターでは，地方における救急医療体制の現状と問題点，中山間地域をささえるヘリコプター搬送の重要性，腹部大動脈瘤破裂救命のための救急搬送の重要性，地域枠入試学生のキャリアアップのための専門医研修アンケート調査等を研究報告している。

また，消化器外科の研究分野では障害肝の治療や術後肝再生に関する研究を中心に進めている。障害肝の治療は，NASH 肝硬変に対し h-HGF を遺伝子導入することにより肝線維化の抑制が可能であることを確認した。術後肝再生に関する研究は，肝移植時の肝静脈再建不良で問題となるうっ血による肝再生不良部分を G-CSF で改善できることを示した。また，大量肝切除前に行う門脈塞栓術を二段階に分けて行うことにより，より大きな肝再生が得られることを明らかにした。現在 NFκB 阻害剤による NASH 肝の虚血耐容能改善，LPS 感作による術後肝不全予防，大建中湯による大量肝切除後肝再生改善，PGI2 による閉塞性大腸炎の治療，抗菌ペプチドによる体内人工物感染の治療を研究中である。

2. 名簿

教授：　山田卓也　Takuya Yamada
臨床講師：　熊田恵介　Keisuke Kumada

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）

1) 宮原利行，飯田辰美，水谷憲威，安村幹央，山田卓也，竹村博文．3 度の開腹手術により救命した劇症型アメーバ性大腸炎の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：122－126.
2) 宮原利行，飯田辰美，水谷憲威，安村幹央，山田卓也，竹村博文．超音波内視鏡下吸引細胞診が有効であった非機能性膵島細胞腫の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：429－433.
3) 宮原利行，飯田辰美，後藤全宏，水谷憲威，安村幹央，棚橋俊介，山田卓也，竹村博文．鼠径ヘルニアが関与したと考えられる針金による回腸穿孔の 1 例，日本腹部救急医学会雑誌　2006 年；26 巻：455－458.
4) 松尾　浩，山田卓也，關野考史，吉田直優，木山　茂，岩田　尚，白橋幸洋，竹村博文．Hand-assisted laparoscopic surgery(HALS)下に脾臓摘出術を行った脾炎症性偽腫瘍の 1 例，日本内視鏡外科学会雑誌　2006 年；11 巻：185－189.
5) 木村真樹，山田卓也，關野誠史郎，木山　茂，名知　祥，關野考史，阪本研一，竹村博文．術後 4 年間無再発生存中である石灰化胃癌の 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：841－844.
6) 宮原利行，木山　茂，松尾　浩，關野考史，山田卓也，竹村博文．α-fetoprotein 産生結腸癌の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：149－153.
7) 木村真樹，山田卓也，木山　茂，關野考史，松尾　浩，竹村博文．膵内副脾に合併した類上皮腫の 2 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：196－200.
8) 山田卓也，關野考史，松尾　浩，井原　頌，木村真樹，木山　茂，竹村博文．初回手術大量出血後，二期的に切除した骨盤発生 Solitary fibrous tumor の 1 例，日本腹部救急医学会雑誌　2006 年；26 巻：889－892.
9) 關野考史，山田卓也，吉田直優，宮原利行，木山　茂，竹村博文．急性骨髄単球性白血病治療中に発生した肝膿瘍に対し，腹腔鏡下膿瘍開窓術を施行した 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：975－978.
10) 木村真樹，山田卓也，木山　茂，關野考史，竹村博文．ERCP 後膵炎の後に肝左葉切除術を施行し術後膵膿瘍を発生した肝内胆管癌の 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：979－982.
11) 早川麻理子，村瀬佳代子，山田卓也，岩田尚，竹村博文．小児領域における NST(栄養サポートチーム)の現状と問題点― 小児 NST における栄養士の役割　栄養障害患児に対する周術期栄養管理，小児外科　2007 年；39 巻：823－827.
12) 熊田恵介，吉田隆浩，豊田泉，山田卓也，村上啓雄，小倉真治．地方における救急医療体制の現状と問題点　今，何が必要であるか，へき地・離島救急医療研究会誌　2008 年；9 巻：75－78.
13) 熊田恵介，小倉真治，福田充宏．電子カルテは紙カルテを越えることができるか，日本医事新報　2007 年；4360：80－84.
14) 熊田恵介，福田充宏，小倉真治，山崎静夫．消防防災ヘリを利用した救急搬送，日本航空医療学会誌　2007 年；8 巻：15－19.
15) 熊田恵介，小倉真治，福田充宏．空港災害における緊急医療体制の問題点，日本臨床医療学会誌　2007 年；10 巻：603－608.

16） Kumada K, Fukuda F. Successful treatment of penetrating cardiac injury，高知医療センター医学会誌 2008 年；2 巻：23－26.
17） 熊田恵介，豊田　泉，小倉真治．情報技術を利用した救急医療支援・救急情報共有システムの構築―理想とされる脳卒中情報共有システム，日本遠隔医療学会雑誌　2008 年；4 巻：222－223.
18） 熊田恵介，小倉真治，福田充宏．夏によく見られる疾患　熱中症，Emergency care　2008 年；21 巻：36－43.
19） 熊田恵介，小倉真治，福田充宏．夏によく見られる疾患　溺水，Emergency care　2008 年；21 巻：44－50.
20） 熊田恵介，小倉真治，福田充宏．夏によく見られる疾患　食中毒，Emergency care　2008 年；21 巻：51－57.
21） 熊田恵介．呼吸器系の緊急処置　気管挿管，今日の治療指針 2008 版　2008 年：78－80.

総説（欧文）
1） Kumada K, Toyoda I, Ogura S, Fukuda A. A case of traumatic sinus thrombosis. Neurosurg Emerg. 2008;13:94-97.

原著（和文）
なし

原著（欧文）
1） Yoshida N, Iwata H, Yamada T, Sekino T, Matsuo H, Shirahashi K, Miyahara S, Kiyama S, Takemura H. Improvement of the survival rate after rat massive hepatectomy due to the reduction of apoptpsis by caspase inhibitor. J Gastroen Hepatol. 2007;22:2015-2021. IF 1.673
2） Kiyama S, Yamada T, Iwata H, Kimura M, Miyahara T, Umeda Y, Yahida N, Matsuo H, Sekino T, Miyazaki J, Kosugi K, Matsumoto K, Takemura H. Reduction of fibrosis in fatty cirrhosis liver by human HGF gene transfection using electroporation. J Gastroen Hepatol. 2008;23:471-476. IF 1.673

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：山田卓也，研究分担者：岩田 尚，関野考史，木村真樹；科学研究補助金基盤研究(C)：術前化学療法後脂肪性肝炎に対する抗ヒト TNFαモノクロナール抗体療法の開発；平成 19－21 年度；4,820 千円(4,420：300：100 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

山田卓也：
1） 日本外科学会代議員(～平成 20 年 2 月)
2） 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)
3） 日本胃癌学会評議員(～現在)
4） 東海外科学会評議員(～現在)

熊田恵介：
1） 日本救急医学会評議員(～現在)
2） 日本臨床救急医学会評議員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

山田卓也：

1） International College of Surgeons 17th Joint Congress of Asia & Pacific Federations & 53rd Annual Congress of the Japan Section (2007, Kyoto, Simposist)
2） 第 107 回日本外科学会(平成 19 年 4 月，大阪，デジタルポスターセッション「膵(急性膵炎・その他)」座長)
3） 第 108 回日本外科学会(平成 20 年 5 月，長崎，「胃(遺伝子診断)」座長)
4） 消化器癌化学療法シンポジウム-チーム医療(平成 20 年 5 月，岐阜，第 1 部　講演 1　演者　京都大学　松本繁巳)座長)
5） 第 35 回 CNP 研究会(日本臨床栄養療法研究会)(平成 20 年 12 月，愛知，「栄養管理に必要な消化器外科の知識」演者)

熊田恵介：

1） 第 10 回日本臨床救急医学会総会(平成 19 年 5 月，神戸，「ボンバル機胴体着陸における対応」演者)
2） 第 10 回脳卒中シンポジウム(平成 19 年 5 月，高知，「ブレインアタック脳を救おう」演者)
3） 第 14 回日本航空医療学会総会(平成 19 年 11 月，千葉，「空港災害への医療対応」演者)
4） 第 35 回日本集中治療医学会総会(平成 20 年 2 月，東京，「電子カルテシステムの問題点」演者)
5） 平成 20 年度日本遠隔医療学会(平成 20 年 10 月，岐阜，「情報技術を利用した救急医療支援」演者)
6） 第 36 回日本救急医学会(平成 20 年 10 月，北海道，「管理・運営 4 」座長)
7） 第 15 回日本航空医療学会(平成 20 年 11 月，松江，「中山間地域をささえるヘリコプター搬送」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

1） 山田卓也，関野考史，松尾　浩：インピーダンス CT を用いたセンチネルリンパ節検出法の確立に関する研究　平成 15 年度－18 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書(2007 年 3 月)

11. 報道

1） 山田卓也：小林建司，高橋孝夫，山田卓也，荒木寛司，加藤浩樹，足立尊仁，松井康司：「大腸癌化学療法の現状と今後」―岐阜地区における大腸癌化学療法の普及と定着―：MEDICAMENT NEWS(2007 年 9 月 15 日)
2） 山田卓也：小林建司，高橋孝夫，山田卓也，荒木寛司，加藤浩樹，足立尊仁，松井康司：「大腸癌化学療法の現状と今後」―岐阜地区における大腸癌化学療法の普及と定着―：MEDICAMENT NEWS(2007 年 9 月 15 日)
3） 山田卓也：地域医療医学センター　外科救急系分野　教授就任挨拶：岐阜県病院時報第 45 号(2008 年 3 月 31 日)
4） 山田卓也：「研究室から大学は今」肝臓癌手術，再生を考慮：岐阜新聞(2008 年 7 月 22 日)

12. 自己評価

評価

教育活動について

・ 下呂温泉病院研修医外科系カリキュラムを作成した。
・ MEDC の協力のもとに，岐阜大学内の学生と研修医へ向けて，外科学生英語症例発表，Alan Lefor 先生とのフリーディスカッションとレクチャーを行なった。
・ 院外活動として，岐阜県立下呂温泉病院医局セミナーにおいて，下呂温泉病院での研修医教育を行った。内容は「Surgical Site Infection に対する Best Practice」及び，客員教授 Alan Lefor 先生とのフ

リーディスカッションを行った（2007.11.2　下呂）。
・ 第 4 回診療参加型臨床実習導入のためのクリニカル・クラークシップ指導者養成ワークショップに参加，修了した（2007.10.4-6　裾野）。
・ 岐阜大学医学部地域枠入試説明会，岐阜大学一次試験監督，地域枠入試面接を行った（2007.11.5）。
・ 第 20 年度共用試験医学系 CBT 問題　地域医療分野を作成した。
・ 岐阜大学臨床研修指導医講習会を修了した（2008.8.26）。

研究について
・ 第 13 回岐阜大学シンポジウムに参加した（2007.12.15　岐阜）。
・ 第 44 回日本腹部救急医学会総会　パネルディスカッション　腹部救急領域におけるチーム医療において，「腹部大動脈瘤破裂に対するチーム医療戦略」　地域医療でのヘリコプター救急搬送の重要性を発表した（2008.3.14　横浜）。

診療活動について
・ 下呂温泉病院に 1 ヶ月に 1 回の手術協力を定期的に行った。
・ 学会認定施設等アンケート調査を施行した。
・ M4,M5,M6 の学生と研修医を対象とした外科手術手技セミナー（ドライラボ，ウェットラボ）を 2 回開催した。

学内活動について
・ 地域医療医学センター運営委員会，CRM スタッフ会議に定期参加した。
・ M4,M5 進路指導および卒後研修合同委員会（2008.1.9）参加した。
・ 平成 20 年度岐阜大学医学部附属病院後期臨床研修説明会　地域医学センターを紹介した。

社会活動について
・ 地域医療振興協会岐阜県支部会（2007.12.1　岐阜）で地域医学センターを紹介した。
・ 飛騨地域医療連携準備懇談会（2007.9.7　高山），第 3 回飛騨地域医療連携会議・飛騨北部地域医療連携協定締結式（2008.4.25　高山）第 4 回飛騨地域医療連携会議（2008.11.13　高山）に参加した。
・ 地域医療医学センターホームページを開設した。

全体の評価として
・ 教育活動は，全体として順調に行ったと考える。
・ 研究活動は，母体分野の研究のみでなく，地域医療医学センターとしての研究業績を上げていく必要がある。
・ 診療活動は，もう少し外科診療支援の量を増やし，内容として鏡視下手術等も広めていく必要がある。
・ 学内活動，社会活動も，さらに積極的に参加する必要がある。

現状の問題点及びその対応策
・ 地域枠学生を中心とした外科救急系地域研修教育プログラムを策定する必要がある。
・ 論文業績が不足であった。救急搬送等のみでなく，岐阜県内の外科手技の均等化，治療の均等化について，学会発表・論文作成を進めたい。
・ 現在の肝再生の研究については，後進の指導にあたり，すでに，発表している肝切除法，手術部位感染等の臨床研究も論文業績として残すように努めたい。科研費を獲得した術前化学療法後脂肪性肝炎に対する抗ヒト TNFαモノクロナール抗体療法の開発については，短期で業績を残すように努めたい。
・ 下呂温泉病院の手術診療支援は，大学病院と下呂温泉病院の技術交流という意味で有用であったと考えている。今後は定期支援以外に要請があった場合には，全て対応したい。
・ 学会認定施設等アンケート調査は，今後の地域枠学生のキャリアアップの指針が作れるように，さらに進めていきたい。

今後の展望
・ 教育活動は，参加型臨床実習の実践を進めていくと共に，地域枠推薦入試学生を対象に，セミナーや直接指導を通して，実践的な地域医療を教育する。また，現在行っている外科手術手技セミナーを発展させ，動物実験棟を利用してアニマルラボが可能となるように計画している。
・ 飛騨北部地域医療連携協定締結は大学間・病院間を越えた地域医療の教育体制の確立に有用であり，今後も飛騨地域医療改善のため飛騨地域医療連携協議会に継続参加していく予定である。

（5）地域医療医学センター（小児系分野）

1. 研究の概要

多くの疾患は，遺伝的要因と環境要因の両者によりその発症が規定されています。遺伝的要因と比較すると環境要因については，多くの因子が関与することもあり，不明な点が少なくありません。比較的均一な地域を対象に選び比較することで，疾病の遺伝要因，環境要因の関与を明らかにします。感染症，アレルギー，免疫，生活習慣病，悪性腫瘍などほとんどすべての疾患を対象とします。

海外では地域医療情報のネットワーク化がすでに進行していますが，海外の情報も参考に，地域医療における IT 技術等のシステムに関しての研究も行なっています。

2. 名簿

教授：　金子英雄　　Hideo　Kaneko

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）金子英雄．Chediak-Higashi 症候群：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：865－866.
2）金子英雄．Griscelli：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：866.
3）金英英雄．X 連鎖リンパ増殖性疾患：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：866－867.
4）金子英雄．その他の免疫調節不全の疾患：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：867.
5）金子英雄．続発性免疫不全症：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：879－883
6）金子英雄．ベーチェット病：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：910－912
7）金子英雄．シェーグレン症候群：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：912－913.
8）金子英雄．胸膜炎・膿胸：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：865－866.
9）金子英雄．免疫機構：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：1018－1020.
10）金子英雄．複合免疫不全症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：338－339.
11）金子英雄．X 連鎖無ガンマグロブリン血症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：343－344.
12）金子英雄．分類不能型免疫不全症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：345－346.
13）金子英雄．IgA 欠乏症―選択的 IgG サブクラス欠乏症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：347－348.

著書（欧文）

1）Kondo N, Matsui E, Kaneko H, Fukao T, Teramoto T, Kato Z, Ohnishi H, Nishimura A. Genetics of pediatric asthma. In: Pawankar R, Holgate ST, Rosenwasser LJ, eds. Allergy Frontiers, pt1. Epigenetics, Allergens and Risk Factors, Heidelberg : Springer; 2009:S189-203.

総説（和文）

1）金子英雄．液性免疫の異常による免疫不全症―ここまで分かっている免疫不全症候群，小児科診療　2008 年；61 巻：1775－1782.
2）金子英雄．分類不能型免疫不全症―原発性免疫不全症候群，アレルギー・免疫　2008 年；15 巻：48－55.
3）大西秀典，加藤善一郎，李愛蓮，木村豪，名田匡利，徳見哲司，相馬和佳，松井永子，金子英雄，近藤直実，栃尾豪人，白川昌宏．分子生物学的アプローチの臨床へのインパクトーIL-18 及びシグナル伝達系タンパク質構造解析に基づく創薬へのアプローチ．日本小児アレルギー学会誌　2008 年；22 巻：1.
4）金子英雄．Ataxia-telangiectasia とその類縁疾患―小児疾患診療のための病態生理．第 4 版　小児内科 2008 年；40 巻(増刊号)：1314－1317.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 近藤直実，平山耕一郎，松井永子，寺本貴英，金子英雄，深尾敏幸，折居建治，川本美奈子，舩戸道徳，大西秀典，川本典生，森田秀行，木村豪，名田匡利，徳見哲司，堀友博，渡邊倫子．小児気管支喘息患児と親又は保護者の QOL 調査票簡易改訂版 2008(GIFU)，アレルギー　2008 年；57 巻：1022−1033.

原著（欧文）

1） Kondo M, Fukao T, Omoya K, Kawamoto N, Aoki M, Teramoto T, Kaneko H, Kondo N. Protein-losing enteropathy associated with egg allergy in a 5-month-old boy. J Investig Allergol Clin Immunol. 2008;18:63-66. IF 1.252

2） Funato M, Kaneko H, Ozeki M, Kanda K, Fukao T, Kondo N. Anaphylactoid transfusion reactions associated with a positively charged white-cell reduction filter a case report. Transfus Apher Sci. 2008;38:199-201. IF 0.970

3） Jin R, Kaneko H, Suzuki H, Arai T, Teramoto T, Fukao T, Kondo N. Age-related changes in BAFF and APRIL profiles and upregulation of BAFF and APRIL expression in patients with primary antibody deficiency.Int J Mol Med. 2008;21:233-238. IF 1.847

4） Bai CY, Matsui E, Ohnishi H, Kimata K, Kasahara K, Kaneko H, Kato Z, Fukao T, Kondo N. A novel polymorphism in the 5-lipoxygenase gene associated with bronchial asthma in Japanese children. Int J Mol Med. 2008;21:139-144. IF 1.847

5） Kondo M, Kaneko H, Fukao T, Suzuki K, Sakaguchi H, Shinoda S, Kato Z, Matsui E, Teramoto T, Nakano T, Kondo N. The response of bovine beta-lactoglobulin-specific T-cell clones to single amino acid substitutions of T-cell core epitope. Pediatric Allergy Immu. 2008;19:592-598. IF 2.454

6） Funato M, Kaneko H, Ozeki M, Kanda K, Fukao T, Kondo N. Pediatric synovial sarcoma of the right masseter muscle. A case report and review of the literature. Int J Pediatr Otorhi. 2008;3:105-108. IF 0.851

7） Suzuki H, Kaneko H, Rong J, Kawamoto N, Asano T, Matsui E, Kasahara K, Fukao T, Kondo N. Induction of α1 and α2 gene expression in selective IgA deficiency. Mol Med. 2008;1:395-399.

8） Kawamoto M, Matsui E, Kaneko H, Fukao T, Teramoto T, Kasahara K, Kondo N. IL-10 plays an important role as an immune-modulator in the pathogenesis of atopic diseases. Mol Med. 2008;1:837-842.

9） Arai T, Kaneko H, Ohnishi H, Matsui E, Fukao T, Kawamoto N, Kasahara K, Kondo N. Hypothermia augments NF-kappaB activity and the production of IL-12 and IFN-gamma. Allergol Int. 2008;57:4.

10） Taneichi H, Kanegane H, Sira MM, Futatani T, Agematsu K, Sako M, Kaneko H, Kondo N, Kaisho T, Miyawaki T. Toll-like receptor signaling is impaired in dendritic cell from patients with X-linked agammaglobulinemia. Clin Immunol. 2008;126:148-154. IF 3.551

11） Matsukuma E, Kato Z, Orii K, Asano T, Orii K, Matsui E, Kaneko H, Kondo N. Acute mumps cerebellitis .withabnormal findings in MRI diffusion weighted images. EUR J Pediatr. 2008;167:829-830 IF 1.227

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：金子英雄：独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業：食物アレルギー患者の臨床像の解明および新規治療法の開発；平成 17－21 年度；95,000 千円(19,000：19,000：19,000：19,000：19,000 千円)

2） 研究代表者：金子英雄：科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：抗体産生不全症における新たな病態の解明と臨床像との関連；平成 20－22 年度；4,110 千円(2,110：1,000：900 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

金子英雄：

1） 日本アレルギー学会代議員(～現在)
2） 日本アレルギー協会評議員(～現在)
3） 日本小児科学会東海地方会幹事(平成 18 年 4 月～現在)
4） 日本小児科学会代議員(平成 18 年 4 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

金子英雄：

1） Pathogenesis of primary antibody deficiency Symposium for PID in Asia Riken RCAI (2008. 12 Yokohama，演者)
2） 第 18 回岐阜県こどもの健康を考えるつどい(平成 19 年 10 月，岐阜，「岐阜地域の小児医療と小児保健―岐阜県における小児の地域医療と地域保健の確立」演者)
3） 第 45 回日本小児アレルギー学会(平成 20 年 12 月，横浜，ミニシンポジウム 4「牛乳アレルギーにおける経口免疫寛容誘導食品の作成―食物アレルギー診療の新しい展開」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1） 金子英雄：第 9 回小児医学川野賞小児基礎医学分野(平成 20 年度)

9. 社会活動

金子英雄：

1） 岐阜地域小児救急医療体制連絡会議委員(～現在)

10. 報告書

1） 金子英雄，鈴木啓子，金栄，深尾敏幸，近藤直実：IgA 欠損症の病態と病因遺伝子の解析：厚生労働省 難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究　平成 18 年度 第 1 回班会議総会プログラム：6(2007 年 1 月)
2） 金子英雄，鈴木啓子，深尾敏幸，近藤直実：IgA 欠損症の病態と病因遺伝子の解析：厚生科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究　平成 18 年度 総括・分担研究報告書(宮脇班)：41－43(2007 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

小児科研修中の初期研修医が 1－2 週間，下呂温泉病院等の地域中核病院で研修することで，大学病院では経験できない地域の小児医療を経験することができるようになり，地域医療の重要性を認識できるようになってきています。また，指導医も研修医を指導することで，知識の整理や意識の向上などが認められています。飛騨地区の高山日赤，厚生連久美愛病院，飛騨市民病院といった母体分野が異なる病院間で，医師の行き来ができるようにし，医療の確保につなげることができました。岐阜県下の小児医療の再編を，小児科医局と連絡を密にとりながら進めています。また，日本小児科学会が提唱している，小児科センター病院についての策定も進め，岐阜県全体の小児診療体制の基盤づくりを推進しています。今後，具体的な点については，さらに進める必要がありますが，以上の活動を通じて，岐阜県の地域医療に十分貢献していると考えます。

（6）地域医療医学センター（産科系分野）

1. 研究の概要

産婦人科医の現状は，産婦人科医療の特殊性に加え，医療の高度化への対応，患者への説明，同僚医師の減少，さらには民事・刑事訴訟の増加等患者とのトラブルの増加により，労働環境はますます悪化している。幸いなことに，岐阜県では一部の県で生じている「お産難民の発生」「SOS 時の受け皿がない」という状態には至っていないが，その危機に瀕していることも事実である。その対策には，安全な産科医療を維持するためには分娩取り扱い施設集約化が不可欠。

・公的病院だからこそ出来る医療が出来ないため，モチベーションの低下に繋がっている。

正常妊娠・正常分娩というのはあくまで結果論であり，どんなに注意を払っても，一定の確立で母体急変，大量出血，新生児仮死が起こりうる。

従って，常時緊急帝王切開が行える体制，つまり常勤医が 3 名以上必要になる。しかし，現実問題として，この条件をすべての施設でクリアすることは困難なため，過渡期的に「とにかく常勤医 1 名は絶対避ける」ことを目指した。

「限られた牌（人，能力）の無駄遣いを防ぎ，有効活用する」ために，母体搬送のシステムを確立することが必要。

適切な施設に搬送されないと

・母体・胎児にとって不利益
・受け入れ施設の病床・人員の浪費
・施設の得意分野（力量）が生かされない
・搬送先と搬送元との信頼関係の崩壊

という問題が生じる。

診療受診のように一般人が搬送先を選択するのではなく，学会認定専門医・母体保護法指定医師が搬送するので，確立した母体搬送マニュアルがあれば，適切な施設に搬送されないという事態は避けられる。

母体搬送システム，医師の集約化，産後・子育て中の女医支援などを研究課題としたい。

2. 名簿

教授：　今井篤志　　Atsushi Imai

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 今井篤志．日本生殖医学会編，グルココルチコイド投与法：新しい生殖医療技術のガイドライン　第 3 版　東京：金原出版；2007 年：184－187.
2) 古井辰郎，今井篤志．産婦人科外来ベストナビゲーション＜無月経＞：臨床婦人科産科　61　東京：医学書院；2007 年：403－413.
3) 今井篤志．医者がすすめる専門病院―岐阜大学医学部附属病院産科婦人科．東京：ライフ企画；2008 年：324－324.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 古井辰郎，今井篤志，玉舎輝彦．生殖医学におけるリゾホスファチジン酸の役割，東海産科婦人科学会雑誌　2007 年；43 巻：1－7.
2) 今井篤志. 岐阜地区における周産期医療を考える（母体搬送と集約化），いちい　2007 年；49 巻：18－21.
3) 今井篤志．岐阜県産科婦人科医療の問題点(1)，いちい　2007 年：50 巻：23－26.
4) 今井篤志．母体搬送救急マニュアル―産科医からの視点―，岐阜県医師会報　2008 年；676 号：18－20.

総説（欧文）

1) Imai A, Furui T, Yamamoto A. Preservation of female fertility during cancer treatment. Reprod Med Biol. 2008;7:17-27.

原著（和文）

1) 山田新尚，小坂井恵子，日江井香代子，水野智子，小野木京子，田上慶子，佐藤泰昌，横山康宏，今井篤志．妊娠 27 週で子宮破裂に至った前置癒着胎盤の 1 例，臨床婦人科産科　2008 年；62 巻：875－878.

原著（欧文）

1） Imai A, Matsunami K, Takagi H. Preoperative value of CT angiography in the laparoscopic removal of rudimentary uterine horn. Gynecol Surg. 2007;4:199-200.
2） Imai A, Toyoki H, Furui T. Electronic door interference mimicking distress in fetal monitoring. Int J Gynecol Obstet. 2007;60-61.
3） Furui T, Ohno T, Imai A. Preterm labor in cases with high testosterone condition. J Obstet Gnecol 2007;27:155-156. IF 0.779
4） Imai A, Itoh N, Matsusi K. Direct extension of a sigmoid colon cancer to a uterine leiomyoma and adherent small intestine. Oncologie. 2007;4:1-2. IF 1.724
5） Furui T, Imai A, Ohno T. Pre-term labour in cases with high maternal testosterone levels. J Obstet Obstet Gynecol. 2007;27:155-156. IF 0.779
6） Mizuno T, Imai A, Hirose Y. Skeletal muscle metastatic and pelvic leiomyosarcomas following hysterectomy. Int J Gynecol Obstet. 2007;96:49-50. IF 1.078
7） Kato H, Kanematsu M, Furui T, Imai A, Hirose Y, Kondo, H, Goshima S, Tsuge, Y. Carcinosarcom a of the uterus: radiologic-pathologic correlations with magnetic resonance imaging including diffusion-weighted imaging. Magn Resonan Ima. 2008;26:1446-1450. IF 1.486

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：今井篤志；岐阜大学活性化経費（研究）：膜受容体リガンドの細胞毒性アナログを用いた抗癌化学療法とメカニズム；平成 19 年度；1,130 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

1） 今井篤志：郡上市における産科医療の現状と改善；2000 千円：郡上市

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

今井篤志：

1） 日本産科婦人科学会代議員(～現在)
2） 日本生殖医学会代議員(～現在)
3） 日本内分泌学会代議員(～現在)
4） 日本生殖内分泌学会評議員(～現在)
5） 日本婦人科腫瘍学会評議員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

今井篤志：

1） 第 1 回東京乳がんフォーラム(平成 19 年 2 月，東京，特別講演「女性ホルモンと乳がん Q & A」演者)
2） 第 8 回 RMB (Reproductive Medicine and Biology)(平成 19 年 7 月，東京，特別講演「化学療法中の腺保護」演者)
3） 岐阜産科婦人科研究会－生殖医学－(平成 19 年 9 月，岐阜，特別講演「自然閉経への逃げ込み療と生殖医学 Q & A」演者)
4） 岐阜県産婦人科医会・学会合同総会(平成 19 年 12 月，岐阜，特別講演「岐阜岐阜県周産期医療の状と今後」演者)

5） 平成 19 年度岐阜小児救急研修会(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「母体救急搬送システムの今後」演者)
6） 平成 20 年度岐阜看護協会助産師会研修(平成 20 年 6 月，岐阜，特別講演「岐阜県周産期医療の状と今後」演者)
7） 平成 20 年度岐阜薬科大学附属薬局(平成 20 年 11 月，岐阜，特別講演「子宮内膜症:病態,症状,治療」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

今井篤志：
1） 岐阜地方裁判所専門委員(平成 16 年 7 月～平成 20 年 6 月)
2） 岐阜県特定不妊治療助成事業指定医療機関審査委員(平成 19 年 12 月～現在)
3） 岐阜県周産期医療協議会委員(平成 19 年 7 月～現在)
4） 岐阜県医師会母体保護法指定医審査委員会委員(平成 20 年 5 月～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

1） 今井篤志：手術数でわかるいい病院(全国＆地方別ランキング)：週刊朝日臨時増刊号(2007 年 3 月 5 日)
2） 今井篤志：県内 6 病院　産科 3 病院に集約：中日新聞(2007 年 10 月 4 日)
3） 今井篤志：羽島市民病院産科，年内で休止「近隣に病院充実」：岐阜新聞(2007 年 10 月 11 日)
4） 今井篤志：羽島市民病院出産対応：中日新聞(2007 年 10 月 11 日)
5） 今井篤志：羽島市民病院あり方委員会：産科休止，集約:毎日新聞(2007 年 10 月 11 日)
6） 今井篤志：3 病院が産科休止：読売新聞(2007 年 10 月 11 日)
7） 今井篤志：妊婦搬送先　医師が判断　たらい回し防止：朝日新聞(2007 年 10 月 19 日)
8） 今井篤志：医療は今「妊婦受け入れ困難　次の搬送先」：中日新聞(2007 年 10 月 23 日)
9） 今井篤志：お産の安全は：朝日新聞(2007 年 10 月 26 日)
10） 今井篤志：妊婦搬送先，産科医が判断：県内全域に拡大へ：朝日新聞(2007 年 11 月 23 日)
11） 今井篤志：病院の実力（婦人科癌）：読売新聞(2007 年 12 月 23 日)
12） 今井篤志：病院の実力（婦人科癌）：読売新聞(2007 年 12 月 23 日)
13） 今井篤志：県内妊婦搬送システム：岐阜新聞(2007 年 12 月 25 日)
14） 今井篤志：【07 ぎふを振り返る】＜11＞妊婦のたらい回し問題：朝日新聞(2007 年 12 月 28 日)
15） 今井篤志：いい病院 2008：週刊朝日 MOOK(2007 年 12 月 28 日)
16） 今井篤志：専門医が推薦「東海・甲信越の家庭医」25 人：AERA(2008 年 2 月 18 日)
17） 今井篤志：初経(初潮)の遅れ：岐阜県医師会ラジオホームドクター(2008 年 4 月 24 日)
18） 今井篤志：小児期の性器出血：岐阜県医師会ラジオホームドクター(2008 年 4 月 25 日)
19） 今井篤志：命をつなぐ＜不妊治療の空白地帯＞：岐阜新聞(2008 年 5 月 9 日)

12. 自己評価

評価

当初の目的である「産科環境の整備」は整備されつつある。特に母体救急搬送マニュアルは全国的も評価されている。人的集約化（3 施設）も完了した。

現状の問題点及びその対策

一方，その反動で 1）飛騨地区の産科体制の整備が遅れていること，2）腫瘍医療や不妊症のケアにしわ寄せが及んでいることは否定できない。

今後の展望

県全体の地域格差の是正，婦人科診療の平均化が今後の課題である。

（7）地域医療医学センター（総合臨床系分野）

1. 研究の概要

　これまでと同様。地域医療における大学の役割（地域のニーズと大学の関与方法など）について検討する。

2. 名簿

臨床講師：　吉田隆浩　　Takahiro　Yoshida

3. 研究成果の発表

著書（和文）
　なし

著書（欧文）
　なし

総説（和文）
　なし

総説（欧文）
　なし

原著（和文）
　なし

原著（欧文）
　なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金
　なし

2）受託研究
　なし

3）共同研究
　なし

5. 発明・特許出願状況

　なし

6. 学会活動

1）学会役員
　なし

2）学会開催
　なし

3）学術雑誌
　なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

　なし

8. 学術賞等の受賞状況

　なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

学会活動など，教員としての評価では救急災害教員としての，外傷教育を行うなどしているが，地域医療としては，学会活動などはないが，高山，下呂など，実務については月 6 回程度行っており，これは大学での活動と平行しておこなうことは，かなり大変であり，評価されるべきものと考える。

現状の問題点及びその対応策

学会活動・評論などが十分に行えていないので，そちらについては，教育活動のアンケート結果や地域医療の現状をデータ化し，いずれかの場面で発表したい。

今後の展望

総合臨床系が現在一人での活動であり，人材増加ならばもう少し色々なことができると考えるが，現状では，実状報告程度の活動しかできないため，地道に取り組むしかない。

（8）地域医療医学センター（地域へき地総合医療分野）

1. 研究の概要

本部門は岐阜県が設置する寄付講座「地域医療学」と連携しへき地等における医療の確保に関する下記の調査研究を行っている。

1.へき地を含む地域における医療ニーズに関する調査研究
2.総合的な診療能力を持った医師を養成するための教育に関する研究
3.へき地医療を支援するためのシステムに関する研究

【研究等の具体的内容】

現在本県のみならず全国各地で医療崩壊が叫ばれ，地域によって必要な医療が受けられない状況が生まれている。そんな中で地域ごとに限られた医療資源を活用して効率的に医療サービスを提供する仕組み作りが急がれている。本研究では地域医療という視点から具体的な方策を提言することを目指している。

1.へき地を含む地域における医療ニーズに関する調査研究

（1）目的

へき地等を含む地域において必要な医療提供システムを構築するためどのような医療ニーズがあるかを調査する。

（2）内容と手法

①へき地等における健康問題の頻度調査

へき地等において日常的に発生する健康問題について，へき地等の医療機関受診する患者の受診理由，疾病等を調査する。

②へき地を含む地域の二次医療機関の入院患者の疾病調査

地域の二次病院での入院患者の診療録等を調査する。

（3）期待される効果

地域で完結すべき医療ニーズを調査することによって，地域に必要な医療提供のレベルとサービス量を確認する。

2.総合的な診療能力を持った医師を養成するための教育に関する研究

（1）目的

へき地等で少ない医師数で多様な医療ニーズに応えるためには，一人の医師が総合的に対応することが必要で，そういった医師を養成するための方策について研究する。

（2）内容と手法

①へき地診療所医師の実態調査

現在へき地診療所に勤務する医師から，へき地医療を担うための必要な技能，知識について調査する。

②総合的な診療能力を持つ医師を育成する教育研修に関する調査研究

全国で取り組まれている，総合的な診療能力を持つ医師のための卒前教育や卒後研修について実態を調査する。

③総合医育成プログラムの策定

本学において実行できる卒前教育における地域医療実習，卒後研修における地　域医療研修，総合医を目指す後期研修プログラムを策定する。

（3）期待される効果

将来県内の地域医療を積極的に担おうとする医師を養成することが可能となる。

2. 名簿

特任教授：山田　隆　　Takashi　Yamada

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）山田隆司．現場からの提言－医療再生へのビジョン：医師不足と地域医療の崩壊　2，東京：日本医療企画；2008 年：250－266.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）山田隆司．地域医療を守るために－医師の立場から－，国際文化研修　2008 年；60 号：56－60.

2） 山田隆司．老年総合医の展望－家庭医療・へき地医療の立場から－，日本老年医学会誌　2008 年．

総説（欧文）
なし

原著（和文）
なし

原著（欧文）
なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

山田隆司：
1） 日本家庭医療学会代表理事(～現在)
2） 日本プライマリ・ケア学会評議員(～現在)

2）学会開催

山田隆司：
1） 第 29 回医学教育研修セミナー・ワークショップ(平成 19 年 8 月，岐阜)
2） 第 2 回へき地・地域医療学会(平成 20 年 8 月，東京)

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

山田隆司：
1） 医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修(平成 20 年 1 月，埼玉，特別講演別「地域から見た大学の取り組み - 地域医療学講座(岐阜県寄附講座)の役割」演者)
2） 第 34 回千葉東洋医学シンポジウム(平成 20 年 3 月，千葉，特別講演「今なぜ家庭医・総合医が求められているのか」演者)
3） 第 8 回愛媛プライマリケア研究会(平成 20 年 7 月，愛媛，特別講演「地域医療と総合医」演者)
4） COML 医療フォーラム 2008(平成 20 年 5 月，大阪，シンポジウム「第一線での理想の患者・医療者関係」演者)
5） 第 59 回群星沖縄臨床教育セミナー(平成 20 年 11 月，沖縄，招聘講演「離島・へき地医療と総合医」演者)
6） 医療における安心・希望確保のための専門医・家庭医（医師後期研修制度）のあり方に関する研究班(平成 20 年 12 月，東京，特別講演「地域医療と総合医」演者)
7） 21 世紀漢方医学フォーラム(平成 20 年 12 月，東京，シンポジウム「総合医における漢方教育を考える」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

1) 山田隆司：医師と患者の信頼がつちかわれる場所－地域医療の視点から考える医師不足問題：オンラインマガジン(2008 年 1 月 28 日)
2) 山田隆司：患者に適した効率的な医療の提供を目指して－患者・家族・地域を熟知する家庭医を育成－：薬事日報(2008 年 2 月)
3) 山田隆司：福祉ネットワーク：NHK 教育(2008 年 2 月 12 日)
4) 山田隆司：人：日本医事新報(2008 年 10 月 25 日)

12. 自己評価

評価

当部門は開設間もないことから研究について調査研究の業績は少ないことは否めない現在は地域枠学生のカリキュラム外での介，具体的には地域医療に関するゼミナールの定期開催や，学外での地域医療に関する会合への参加などを積極的に行い，将来地域医療に向かう医学生の育成について取り組んでいる。

現状の問題点及びその対応策

研究，教育についてはまだ定型的な取り組みには至っていない。岐阜県，自治医科大学卒業生と連携し，具体的な研究，教育に着手する予定である。

今後の展望

今後医学部地域枠学生が確実に増えてくることからも当部門及び地域医療学講座の重要性は増してくると思われる。また全国の同様の部門とネットワークを構築して地域医療に関する質の高い研究と教育に貢献していきたい。

（9）医学教育開発研究センター（チュトーリアル部門）

1. 研究の概要

医学教育における全国共同利用施設として，(1) 新しい医学教育の開発研究と普及，(2) 医学教育に貢献できる人材育成，(3) 国内外の医学教育機関との連携・共同研究，を大きなミッションとして取り組んでいる。

①PBL テュトーリアル教育：外部に向けた PBL に関するセミナー・ワークショップを企画するとともに，岐阜大学におけるテュトーリアル教育 10 年の経験を検証し，より進化した PBL テュトーリアル教育システムの構築をめざしている。②インターネット PBL：大学や学部の垣根を越え，いつでも，どこからでも参加できる能動的双方向性 Web-PBL システムを，全国の教員・学生と協力しながら開発し，実用化の段階に入っている。学部生コースの他に，英語コース，大学院コース，臨床コースなど，多彩なプログラムを用意している。③医療コミュニケーション・プロフェッショナリズム教育：模擬患者による医療面接教育法の研究と実践を進めている。4 年生・5 年生に対する医療面接実習，外部に向けたセミナー・ワークショップを実施している。平成 20 年度から 1 年生に対する地域体験実習（8 週間），21 年度から 2 年生に対する医師患者関係の授業など，今後，系統的な行動科学教育の導入を目指している。④臨床シュミレーション教育とバーチャル教材の開発：臨床入門から卒後教育に至る幅広い時期に，効果的なシミュレーション教育が行えるように，ハード・ソフト両面からモデルとなりうる臨床スキル・シミュレーションセンターの構築をめざしている。また身体診察や面接が可能な患者ロボット，メディカル・イラスト，Web 自己学習教材などの開発を進めている。平成 19 年度から現代的教育ニーズ取組支援プログラム「臨床医学教育を強化向上させる ICT」が採択され，研究事業の促進が図られている。⑤新臨床実習システムの研究開発：今年から始まった新構想の岐阜大学型クリニカル・クラークシップを推進・検証し，システムとして確立させる研究を行っている。⑥医学教育セミナー＆ワークショップ：年 4 回，通算 30 回開催し，のべ参加者数は 3000 名を越えている。医学教育分野の全国 FD として定評を得，共同研究の推進にも大きな役割を果たしている。⑦医学教育ユニットの会：近年，各大学で設立された医学教育部門（ユニット）の連携組織を形成し，情報交換・共同研究の促進を図っている。医学教育学研究と大学院レベルの教育のコンソーシアム形成をめざしている。⑧情報発信：ホームページを活用して，インターネット・テュトーリアル，医療面接実習，セミナー＆ワークショップ，学務事務情報，インターネット・ジャーナルなどの最新情報を発信している。⑨大学院「医学教育分野」の開設：平成 20 年度（2008 年 4 月）より岐阜大学大学院医学系研究科医療管理学講座に「医学教育学」分野が開講し，大学院生 1 名の入学があった。⑩国際交流：毎年 1 名の客員教授を招聘し，国内における医学教育研究の推進と国際交流に貢献している。

2. 名簿

教授：	鈴木康之	Yasuyuki Suzuki
教授(併任)：	丹羽雅之	Masayuki Niwa
助教：	加藤智美	Tomomi Kato
助教：	若林英樹	Hideki Wakabayashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 冬－第 15 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－94.
2) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 春－第 16 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－124.
3) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 夏－第 17 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－211.
4) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 秋－第 18 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－112.
5) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 冬－第 19 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－110.
6) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 春－第 20 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－185.
7) 鈴木康之．ムコ多糖症 1 型：骨系統疾患マニュアル改訂第 2 版，東京：南江堂；2008 年：120－121.
8) 鈴木康之．ムコ多糖症 2 型：骨系統疾患マニュアル改訂第 2 版，東京：南江堂；2008 年：122－123.
9) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 夏－第 21 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－237.
10) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 秋－第 22 回医学教育セミナーとワークショ

ップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－89.
11） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 冬－第 23 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－120.
12） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 春－第 24 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－152.
13） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 夏－第 25 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－121.
14） 丹羽雅之．中枢神経作用薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：73－101.
15） 丹羽雅之．消化器作用薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：143－153.
16） 丹羽雅之．抗悪性腫瘍薬（抗癌薬）：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：191－203.
17） 丹羽雅之．抗炎症薬・解熱鎮痛薬・抗アレルギー薬・免疫抑制薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：205－224.
18） 鈴木康之．脂質蓄積症（リピドーシス）：講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：230－231.
19） 鈴木康之．核酸代謝異常症（Lesch-Nyhan 症候群）：講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：232－233.
20） 鈴木康之．医学教育：小児科学第 3 版，東京：医学書院；2008 年：309－313.
21） 鈴木康之．adrenoleukodystrophy (ALD)：小児科学第 3 版，東京：医学書院；2008 年：484－486.
22） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 秋－第 26 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－100.
23） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'08 冬－第 27 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－130.
24） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'08 春－第 28 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－152.
25） 丹羽雅之．解熱鎮痛薬・抗炎症薬：野村隆英，石川直久編．シンプル薬理学【改訂第 4 版】，東京：南江堂；2008 年：229－245.

著書（欧文）
1） Suzuki Y, Niwa M, Shibata T, Chirasak K, Ariyawardana A, Ramesh JC, Evans P, Takahashi Y. Internet PBL: International Collaborative Learning Experiences In: Oon-Seng Tan, ed. Problem-based Learning in E-learning Breakthroughs. Singapore: Thomson Learning; 2007:131-146.
2） Hara A, Niwa M, Aoki H, Taguchi A, Yamada Y, Mori H. New research on neuronal networks. In: Neuronal Network Research Horizons, ed. Weiss ML: Nova Science Publish; 2007:99-118.
3） Hara A, Oka N, Aoki H, Taguchi A, Yamada Y, Niwa M, Mori H. OCT-3/4 Expressing Cells as Cancer Stem Cells in Human Immature Teratoma: Cancer Differentiation Potential. In: Saitama H ed. New Cell Differentiation Research Topics. New York: Nova Science Publisher; 2008:1-6.

総説（和文）
1） 下澤伸行，鈴木康之．ペルオキシソーム病-わが国で病院が解明された先天代謝異常症，小児科診療　2006 年；69 巻：1646－1652.
2） 鈴木康之．骨症状で見つかる先天代謝異常症-日常診療での先天代謝異常症，小児科診療　2006 年；69 巻：1590－1594.
3） 下澤伸行，鈴木康之．ペルオキシソーム形成異常症 –Zellweger 症候群を中心に，小児内科　2007 年：39 号：536－538.
4） 鈴木康之．ムコ多糖症，小児内科　2007 年：39 号：503－504.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 鈴木康之．岐阜大学医学部医学教育開発研究センター（全国共同利用施設）・医学教育企画開発室，医学教育　2006 年；37 巻：54－55.
2） 鈴木康之，高橋孝雄，中畑龍俊，奥山眞紀子，松尾雅文，堤　裕幸，五十嵐隆，河野陽一，古川　漸，原寿郎．日本小児科学会教育委員会報告　小児科卒前臨床実習に関するアンケート調査結果，日本小児科学会雑誌　2008 年；112 巻：793－801.

原著（欧文）
1） Kato T, Isogai K, Orii K, Kuratsubo I, Kondo N, Orii T, Suzuki Y. Portal hypertension in a patient with Hunter disease. J Inherit Metab Dis. 2006;29:686.　IF 1.668
2） Funato M, Shimozawa N, Nagase T, Takemoto Y, Suzuki Y, Imamura Y, Matsumoto T, Tsukamoto T, Kojidani T, Osumi T, Fukao T, Kondo N. Aberrant peroxisome morphology in peroxisomal

beta-oxidation enzyme deficiencies. Brain Dev. 2006;28:287-292. IF 1.464

3) Hara A, Niwa M, Kumada M, Aoki H, Kunisada T, Oyama T, Yamamoto T, Kozawa O, Mori H. Intraocular injection of folate antagonist methotrexate induces neuronal differentiation of embryonic stem cells transplanted in the adult mouse retina. Brain Res. 2006;1085:33-42. IF 2.218

4) Hara A, Niwa M, Aoki H, Kumada M, Kunisada T, Oyama T, Yamamoto T, Kozawa O, Mori H. A new model of retinal photoreceptor cell degeneration induced by a chemical hypoxia-mimicking agent, cobalt chloride. Brain Res. 2006;1109:192-200. IF 2.218

5) Niwa M, Hotta K, Hara A, Hirade K, Ito H, Kato K, Kozawa O. TNF-alpha decreases hsp 27 in human blood mononuclear cells: involvement of protein kinase C. Life Sci. 2006;80:181-186. IF 2.257

6) Kato T, Kato Z, Kuratsubo I, Ota T, Orii T, Kondo N, Suzuki Y. Evaluation of ADL in patients with Hunter disease using FIM score. Brain Dev. 2007;29:298-305. IF 1.464

7) Ochiai T, Suzuki Y, Kato T, Shichino H, Chin M, Mugishima H, Orii T. Natural history of extensive Mongolian spots in mucopolysaccharidosis type II (Hunter syndrome): a survey amond 52 Japanese patients. J Eur Acad Dermatol Venereol. 2007;21:1082-1085. IF 1.437

8) Takahashi N, Morita M, Maeda T, Harayama Y, Shimozawa N, Suzuki Y, Furuya H, Sato R, Kashiwayama Y, Imanaka T. Adrenoleukodystrophy: subcellular localization and degradation of adrenoleukodystrophy protein (ALDP/ABCD1) with naturally occurring missense mutations. J Neurochem. 2007;101:1632-1643. IF 4.451

9) Aoki H, Hara A, Niwa M, Motohashi T, Suzuki T, Kunisada T. An in vitro mouse model for retinal ganglion cell replacement therapy using eye-like structures differentiated from ES cells. Exp Eye Res. 2007;84:868-875. IF 2.651

10) Hara A, Taguchi A, Niwa M, Aoki H, Yamada Y, Ito H, Nagata K, Kunisada T, Mori H. Localization of septin 8 in murine retina, and spatiotemporal expression of septin 8 in a murine model of photoreceptor cell degeneration. Neurosci Lett. 2007;423:205-210. IF 2.085

11) Evans P, Suzuki Y. “Beyond Competence”. Why Should Outcomes be Adopted in Favour of Competences? Medical Education (Japan). 2008;39:87-91.

12) Evans P, Suzuki Y. “Beyond Competence”, Assessment for Capability. Medical Education (Japan). 2008;39:93-96.

13) Evans P, Suzuki Y, Begg M, Lam W. Can medical students from two cultures learn effectively from a shared web-based learning environment? Medical Education. 2008;42:27-33. IF 2.562

14) Kuratsubo I, Suzuki Y, Shimozawa N, Kondo N. Parents of Childhood X-linked Adrenoleukodystrophy: High Risk for Depression and Neurosis. Brain Dev. 2008;30:477-482. IF 1.464

15) Morita M, Kanai M, Mizuno S, Iwashima M, Hayashi T, Shimozawa N, Suzuki Y, Imanaka T. Baicalein 5,6,7-trimethyl ether activates peroxisomal but not mitochondrial fatty acid beta-oxidation. J Inherit Metab Dis. 2008;31:442-449. IF 1.668

16) Aoki H, Hara A, Niwa M, Motohashi T, Suzuki T, Kunisada T. Transplantation of cells from eye-like structures differentiated from embryonic stem cells in vitro and in vivo regeneration of retinal ganglion-like cells. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2008;246:255-265. IF 1.590

17) Hara A, Aoki H, Taguchi A, Niwa M, Yamada Y, Kunisada T, Mori H. Neuron-like differentiation and selective ablation of undifferentiated embryonic stem cells containing suicide gene with Oct-4 promoter. Stem Cells Dev. 2008;17:619-627. IF 3.224

18) Taguchi A, Hara A, Saito K, Hoshi M, Niwa M, Seishima M, Mori H. Localization and spatiotemporal expression of IDO following transient forebrain ischemia in gerbils. Brain Res. 2008;1217:78-85. IF 2.218

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：高橋優三；文部科学省特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）：能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育；平成 15－18 年度；60,000 千円(15,000：15,000：15,000：15,000 千円)

2) 研究代表者：高橋優三，研究協力者：丹羽雅之；文部科学省科学研究費基盤研究(B)(2)：コア・カリキュラム対応型の医学実習教材の開発と普及；平成 16－17 年度；12,400 千円(6,200：6,200 千円)

3) 研究代表者：鈴木康之，研究協力者：丹羽雅之；文部科学省科学研究費基盤研究(B)(2)：全国利用可能な能動的小児医学教育システムの構築；平成 16－17 年度；12,800 千円(8,200：4,600 千円)

4) 研究代表者：衛藤義勝，分担研究者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）：ライソゾーム病（ファブリー病含む）に関する調査研究班；平成 16－18 年度；3,550 千円(1,350：1,000：1,200 千円)

5) 研究代表者：西澤正豊，分担研究者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（難治性疾患克服研究事業）：運動失調に関する調査研究班；平成 17－19 年度；3,700 千円(1,300：1,300：1,100 千円)

6) 研究代表者：山口清次，分担研究者：折居忠夫，研究協力者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（子ども家庭総合研究事業）：我が国の 21 世紀における新生児マススクリーニングのあり方に関する研

究；平成 17－19 年度；600 千円(200：200：200 千円)

7) 研究代表者：丹羽雅之；岐阜大学活性化経費：CoCl2 の選択的視神経障害モデルの確立；平成 18 年度；900 千円

8) 研究代表者：松原洋一，分担研究者：奥山虎之，研究協力者：鈴木康之；成育医療委託研究費：先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築；平成 18－19 年度；400 千円(200：200 千円)

9) 研究代表者：山口清次，研究分担者：折居忠夫，研究協力者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（子ども家庭総合研究事業）：わが国の 21 世紀における新生児マススクリーニングのあり方に関する研究班；平成 19－21 年度(200：150 千円：未定)

10) 研究代表者：衛藤義勝，研究分担者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（特定疾患対策研究事業）：ライソゾーム病の病態の解明及び治療法の開発に関する研究班；平成 19－21 年度；4,050 千円(1,350：1,350：1,350 千円)

11) 研究代表者：丹羽雅之；文部科学省科学研究費基盤研究(C)(2)：コバルトクロライド誘発視細胞選択的障害モデルの発現機序解明ならびにその防御・治療；平成 19－20 年度；3,500 千円(2,700：800 千円)

12) 研究代表者：高橋優三，研究協力者：丹羽雅之；知的クラスター創成事業：「テーマⅠ：低侵襲微細手術支援・教育訓練システムの開発：医療教育訓練ロボット」；平成 19－20 年度；46,432 千円(23,200：23,232 千円)

13) 研究代表者：鈴木康之；平成 19 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）：「臨床医学教育を強化向上させる ICT：e-Learning で培う医の心と技」；平成 19－21 年度；69,973 千円(23,993：21,980：24,000 千円)

14) 研究代表者：鈴木康之，研究分担者：加藤智美，阿部恵子；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(一般)：小児領域における客観的臨床能力評価システムの開発；平成 20－22 年度；4,800 千円(2,300：1,100：700 千円)

15) 研究代表者：奥山虎之，分担研究者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（医療技術実用化総合研究事業）：新規治療法が開発された小児希少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立；平成 20 年度；2,000 千円

16) 研究代表者：西澤正豊，研究分担者：鈴木康之；厚生労働省科学研究費（特定疾患対策研究事業）：運動失調に関する調査及び病態機序に関する研究班；平成 20－22 年度；3,000 千円(1,000：1,000：1,000 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

鈴木康之：

1) 日本医学教育学会理事(～現在)
2) 日本小児科学会代議員(平成 20 年 4 月～現在)
3) 日本先天代謝異常学会評議員(～現在)
4) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
5) 東海臨床遺伝・代謝懇話会世話人(～現在)

丹羽雅之：

1) 日本薬理学会評議員(～現在)
2) 日本炎症・再生医学会評議員(～現在)
3) 日本医学教育学会評議員(～現在)

4） 日本臨床薬理学会評議員(～現在)

2）学会開催

鈴木康之：

1） 第 19 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 1 月，岐阜)
2） 第 20 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 4 月，つくば)
3） 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 8 月，岐阜)
4） 第 22 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 10 月，横浜)
5） 第 23 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 1 月，岐阜)
6） 第 24 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 4 月，東京)
7） 第 25 回医学教育セミナーとワークショップ／第 7 回日本小児医学教育研究会(平成 19 年 7 月, 岐阜)
8） 第 26 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 10 月，徳島)
9） 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 1 月，名古屋)
10） 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 5 月，大阪)
11） 岐阜大学模擬患者の会 10 周年記念シンポジウム(平成 20 年 6 月，岐阜)
12） 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 8 月，岐阜)
13） 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 10 月，東京)

3）学術雑誌

鈴木康之：

1） Medical Education: Editor(2008 年～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

鈴木康之：

1） 平成 17 年度大学病院情報マネージメント部門連絡会議分科会 3「病院情報システムの、教育と EBM における価値」(平成 18 年 1 月，浜松,「診療参加型臨床実習と電子カルテ運用に関するガイドライン（案）」座長，演者)
2） 経済産業省助成・医療経営人育成プログラム開発プロジェクト合同 FD 講演会(平成 18 年 2 月，大阪,「医療教育におけるポートフォリオ評価」演者)
3） 6th Asian-Pacific Conference on PBL, Symposium 2 “E-PBL”(2006.05, Tokyo, Introductory remarks for e-PBL; Chairman, Symposist)
4） 第 6 回小児医学教育研究会シンポジウム 2「グローバルスタンダードな小児科専門医養成に向けて何をなすべきか」(平成 18 年 7 月，東京,「大学病院および医学教育専門家としての経験から」演者)
5） 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 8 月，岐阜,「PBL revisited: 基本に立ち返ろう」演者)
6） 第 30 回遺伝カウンセリングリフレッシュセミナー「ムコ多糖症(MPS)の遺伝カウンセリング」(平成 19 年 6 月，東京,「ムコ多糖症の病態・診断・治療」演者)
7） 第 39 回日本医学教育学会大会(平成 19 年 7 月，盛岡，シンポジウム II「地域医療と卒前医学教育の在り方」座長)
8） 第 39 回日本医学教育学会大会(平成 19 年 7 月，盛岡，シンポジウムまとめ「地域医療と医学・医療教育の問題点」演者)
9） 第 111 回日本小児科学会学術集会(平成 20 年 4 月，東京，大学病院の立場から見た教育・研究における病診連携．総合シンポジウム 5「診療・教育・研究をふまえた病診連携の現状と未来」演者)
10） 23rd Annual Meeting of Korean Society of Medical Education. (2008.05, Seoul, Plenary Lecture: Medical Education in Japan: past, present and future; Performer)
11） 東海北陸地区臨床研修病院説明会(平成 20 年 5 月，名古屋,「未来の日本を創る小児科医」演者)
12） 平成 20 年度岐阜県看護教育連絡協議会総会(平成 20 年 6 月，岐阜，特別講演「看護教育における模擬患者導入の意義」演者)
13） 平成 20 年度先天性代謝異常症等検査技術者研修会(平成 20 年 7 月，東京，ライソゾーム病 I（ムコ多糖症）—基礎と臨床、新生児スクリーニングー　演者)
14） 第 40 回日本医学教育学会大会(平成 20 年 7 月，東京，Medical Education in Korea: The Historical background and the influence of U.S. by Myung-Hyun Chung. 座長)
15） 第 122 回日本小児科学会岩手地方会(平成 20 年 12 月，盛岡,「医学教育における小児科医の役割」

演者)

丹羽　雅之：

1) 6th Asia-Pacific Conference on Problem-Based Learning, ・Symposium 2 “E-PBL”(2006.01, Tokyo, Web-based Internet PBL-tutorial 'Rakuichi The Tutorial; Symposist)
2) 第 45 回日本薬学会中国四国支部例会(平成 18 年 6 月，福山，学会招待講演「新しい医療系教育の流れと PBL/テュトーリアル」演者)
3) 先端創薬医療シンポジウム(平成 20 年 10 月，岐阜，講演「細胞死と病気、その再生」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

鈴木 康之：

1) 厚生労働省第 102 回医師国家試験 試験委員(～現在)
2) 日本ムコ多糖症親の会顧問(～現在)
3) ALD 親の会顧問(～現在)

10. 報告書

1) 鈴木康之，加藤智美，倉坪和泉，折居忠夫：ムコ多糖症の重症度と運動・認知面の ADL 評価：平成 17 年度厚生労働省科学研究費（特定疾患対策研究事業）ライソゾーム病（ファブリー病含む）に関する調査研究班　総括研究報告書：12－14(2006 年 3 月)
2) 鈴木康之，下澤伸行：副腎白質ジストロフィーおよびペルオキシソーム病の早期診断システム構築に関する研究：平成 17 年度厚生労働省科学研究費（特定疾患対策研究事業）運動失調症に関する調査研究班研究報告書：21－24(2006 年 3 月)
3) 大西弘高，鈴木康之：第 24 回医学教育セミナーとワークショップ：医学教育 38：282(2007 年 1 月)
4) 丹羽雅之：第 24 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 38：121(2007 年 1 月)
5) 丹羽雅之：第 25 回医学教育セミナーとワークショップ　ニューズ：医学教育 38：334(2007 年 10 月)
6) 丹羽雅之：第 26 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 38：354(2007 年 10 月)
7) 丹羽雅之：第 27 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 38：410(2007 年 12 月)
8) 阿部恵子，藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之，Phillip Evans：独自性豊かな SP 養成プログラム-スコットランド 5 大学視察報告-：医学教育 39：199－204(2008 年)
9) 鈴木康之，倉坪和泉，折居忠夫，加藤智美：ムコ多糖症 II 型重症型の自然歴と BMT の効果に関する検討：厚生労働科学研究費（難治性疾患克服研究事業）ライソゾーム病（ファブリー病含む）に関する調査研究班　平成 19 年度研究報告書：35－36(2008 年 3 月)
10) 鈴木康之，下澤伸行，倉坪和泉：小児大脳型副腎白質ジストロフィーの早期診断治療と家族のメンタルヘルス：厚生労働科学研究費（難治性疾患克服研究事業）運動失調症に関する調査研究班　平成 19 年度研究報告書：27－29(2008 年 3 月)
11) 鈴木康之，下澤伸行，倉坪和泉：副腎白質ジストロフィーの両親のメンタルヘルス：厚生労働科学研究費（難治性疾患克服研究事業）運動失調症に関する調査研究班　平成 17 年度－19 年度総合　総括・分担研究報告書：79－81(2008 年 3 月)
12) 鈴木康之，折居忠夫，田中あけみ，奥山虎之，衛藤義勝，井田博幸：ムコ多糖症 I 型・II 型の全国実態調査―マススクリーニングに向けて―：厚生労働科学研究費（子ども家庭総合研究事業）タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 19 年度総括・分担研究報告書：53－54(2008 年 3 月)
13) 折居忠夫，早坂和子，田部美穂，折居恒治，鈴木康之：ムコ多糖症の尿によるスクリーニング成績「過去 20 数年間の経験」：厚生労働科学研究費（子ども家庭総合研究事業）タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 19 年度総括・分担研究報告書：49－52(2008 年 3 月)

14）戸松俊治，アドリアーナ・モンターニョ，小熊敏広，鈴木康之，折居忠夫，佐倉伸夫，福士　勝，山口清次：ムコ多糖症の新生児スクリーニング開発：厚生労働科学研究費（子ども家庭総合研究事業）タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 19 年度総括・分担研究報告書：55－57(2008 年 3 月)
15）丹羽雅之：第 28 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 38：86(2008 年 3 月)
16）丹羽雅之：第 29 回医学教育セミナーとワークショップ　ニューズ：医学教育 38：359(2008 年 10 月)
17）丹羽雅之：第 30 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 39：346(2008 年 10 月)
18）丹羽雅之：第 31 回医学教育セミナーとワークショップ　アナウンスメント：医学教育 39：469(2008 年 12 月)

11. 報道

1）鈴木康之：スーパー特報「ALD 副腎白質ジストロフィー」：フジテレビ（ズーパーニュース内）(2007 年 4 月 25 日)
2）鈴木康之：特捜「ALD 副腎白質ジストロフィー」：テレビ朝日(2007 年 10 月 20 日)
3）鈴木康之：特集コーナー「ムコ多糖症」：中京テレビ（ニュースリアルタイム内）(2007 年 10 月 31 日)
4）丹羽雅之：「大学はいま-研究室から」：岐阜新聞(2007 年 11 月 13 日)

12. 自己評価

評価

2001 年に医学部として初の全国共同利用施設として設置されて以来，(1) 新しい医学教育の開発研究と普及，(2) 医学教育に貢献できる人材育成，(3) 国内外の医学教育機関との連携・共同研究，を主なミッションとして，地位の確立に努めてきた。幸いなことに医学教育セミナーとワークショップの主催等を通じて，全国の医学部・医療系教育機関に認知され，支持を得られるようになった。また海外の著名な医学教育者を毎年招聘することによって，国際的にも当センターの存在が知られるようになった。近年，各大学に医学教育部門設置の動きが広まっているが，これらの組織との連携も強まりつつある。平成 20 年度から大学院も設置され，人材育成，研究体制が整いつつある。

現状の問題点及びその対応策

医学教育方法の開発研究に関しては，冒頭で個々の取り組みについて述べた。これらを有機的に統合し，新たな医学教育カリキュラムを提案することが今後の課題である。平成 20 年度から導入された新カリキュラムの中で，その実現に努力するとともに，国内外へ発信して行く予定である。全国的な医師不足から医学部学生定員増問題が急浮上しているが，教育の人的・経済的な裏づけは極めて重要な課題となっており，教育を担当する立場から提言して行きたい。人材育成に関しては，現在の教育スタッフ全般の FD 推進と将来の医学教育学を支える人材育成を平行して進める必要がある。後者については，大学院が設置され体制ができたが，国内外の医学教育部門との連携を一層強化させる必要がある。

今後の展望

医学教育の分野で解決すべき課題は山積している。教育の重要性は誰しもが認識しているが，実際には種々の制約によって，それが実現できない現状がある。医学・医療界全体が自己革新を続けながら，教育の重要性を社会に対して発信し，望ましい教育の実現が可能となるよう努力してゆきたい。

（10）医学教育開発研究センター（バーチャルスキル部門）

1. 研究の概要

当部門では，医療コミュニケーション教育，模擬患者トレーニング，身体診察を含めた模擬診察の開発・研究を行っている。また，シミュレーターを用いた身体診察は試行段階に入っている。医学英語は基本からより実践的なレベルの教育ができるよう準備を進めている。また，次年度以降にむけ，行動科学教育として「患者医師」コースおよび，「ライフサイクル」コースの準備・作成を行っている。

2. 名簿

教授：　藤崎和彦　　Kazuhiko Fujisaki
助教：　阿部恵子　　Keiko Abe

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 冬－第 15 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－94.
2) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 春－第 16 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－124.
3) 藤崎和彦，田宮菜奈子，山本秀樹編．社会と健康・疾病との関係：コア・カリキュラム対応 医学・医療と社会，京都：金芳堂；2006 年：1－4.
4) 藤崎和彦．全国患者会障害者団体要覧編集室編．医療における患者会：全国患者会障害者団体要覧　第 3 版，大阪：プリメド社；2006 年：10－13.
5) 藤崎和彦．医学教育学会編．医療の変化と医学教育：医学教育白書 2006 年版：篠原出版新社；2006 年：118－121.
6) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 夏－第 17 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－211.
7) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'05 秋－第 18 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－112.
8) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 冬－第 19 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－110.
9) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 春－第 20 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2006 年：1－185.
10) 藤崎和彦．医学教育と語り：江口重幸，斎藤清二，野村直樹編．ナラティヴと医療：金剛出版；2006 年：107－112.
11) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 夏－第 21 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－237.
12) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'06 秋－第 22 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－89.
13) 野呂幾久子，阿部恵子，石川ひろの．医療コミュニケーション分析の方法—The Roter Method of Interaction Process Analysis System (RIAS)—，名古屋：三恵社；2007 年：1－71.
14) 阿部恵子．第 4 章：患者と医師のコミュニケーション：石川ひろの，武田裕子監訳．in Debra L. Roter, Judith A Hall．医師と患者のコミュニケーションに影響を与える患者の特性，篠原出版新社；2007 年：59－74.
15) 藤崎和彦．shared decision making(意思決定のあり方)を支える医師の能力養成の現状と課題：松田亮三，松島京，棟居徳子編．医療・福祉における地域・住民エンパワメント - 実践編 - ：立命館大学人間科学研究所；2007 年：43－79.
16) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 冬－第 23 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－120.
17) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 春－第 24 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－152.
18) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 夏－第 25 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2007 年：1－121.
19) 藤崎和彦．医師のテクニック（技能）評価：名郷直樹監修．小谷和彦，朝井靖彦，南郷栄秀，尾藤誠司編．診察・検査：羊土社；2007 年：16－23.
20) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'07 秋－第 26 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－100.
21) 藤崎和彦．行動変容をうながすための面接スキル–保健指導対人援助スキルの学習–：日本生活協同組合連合会医療部会；2008 年：1－45.
22) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'08 冬－第 27 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－130.

23） 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'08 春－第 28 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2008 年：1－152.
24） 藤崎和彦．患者－医療者関係－：日本産業カウンセリング学会編．産業カウンセリング辞典：金子書房；2008 年：74.

著書（欧文）
1） Yoshida T, Fujisaki K. Interpersonal Communication Training in Dental Education. In: David I. Mostofsky and Albert G. Forgione eds. Behavioral Dentistry. Iowa: Blackwell Pub Professional; 2006:255-263.

総説（和文）
1） 藤崎和彦．NBM の基礎・理論—医療人類学，診断と治療　2006 年；94 巻：232－236.
2） 藤崎和彦．これからの薬剤師に求められる医療コミュニケーションとは，月刊薬事　2006 年；48 巻：501－506.
3） 藤崎和彦．医療『改革』と医療従事者の役割，月刊国民医療　2007 年；234 巻：2－24.
4） 藤崎和彦．詰め込み型医学教育から課題解決型教育への転換，人間と教育　2007 年；54 巻：112－123.
5） 藤崎和彦．医学部で進む実践的教育への改革，BERD 2007 年；9 巻：22－27.
6） 藤崎和彦．医療社会学について，月刊ナーシング　2007 年；27 巻：63－67.
7） 藤崎和彦．行動変容を生む患者アプローチ，月刊保団連　2007 年；952 巻：70－82.
8） 川上ちひろ，藤崎和彦．模擬患者のための「フィードバックワークシート」の提案，医学教育　2008 年；39 巻：417－420.
9） 樫田美雄，岡田光弘，五十嵐素子，宮崎彩子，真鍋陸太郎，藤崎和彦，北村隆憲，高山智子，太田能，玉置俊晃，寺嶋吉保，阿部智恵子，島田昭仁，小泉秀樹．高等教育改革の相互行為分析－ビデオ・エスノグラフィー研究の狙いと工学部都市工学演習の実際－，大学教育研究ジャーナル　2008 年；5 号：93－104.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 阿部恵子，鈴木富雄，藤崎和彦，伴信太郎．模擬患者の現況及び満足感—全国意識調査第一報—，医学教育　2007 年；38 巻：301－307.
2） 阿部恵子，藤崎和彦，伴信太郎．模擬患者の協力を得た身体診察実習の今後の方向性，日本保険医療行動科学学会年報　2008 年；23 巻：59－73.

原著（欧文）
なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：高橋優三；文部科学省特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)：能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育；平成 15－18 年度；60,000 千円(15,000：15,000：15,000：15,000 千円)
2） 研究代表者：樫田美雄(徳島大学総合科学部)，研究分担者：藤崎和彦；文部科学省科学研究補助金基盤研究(B)(一般)：高等教育改革のコミュニケーション分析－現場における文化変容の質的検討－；平成 18－20 年度；14,500 千円(5,100：4,800：4,800 千円)
3） 研究代表者：鈴木富雄(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)，研究分担者：阿部恵子，伴信太郎；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：日本の医学教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究；平成 18－20 年度；3,400 千円(1,300：900：1,200 千円)
4） 研究代表者：植村和正(名古屋大学医学部医学教育センター)，研究分担者：阿部恵子，茂木七香；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：医学生の「死の教育」への模擬患者導入の教育的効果の研究；平成 19－20 年度；2,870 千円(1,417：1,453 千円)
5） 研究代表者：鈴木康之；平成 19 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)：「臨床医学教育を強化向上させる ICT：e-Learning で培う医の心と技」；平成 19－21 年度；69,973 千円(23,993：21,980：24,000 千円)
6） 研究代表者：鈴木康之，研究分担者：加藤智美，阿部恵子；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：小児領域における客観的臨床能力評価システムの開発；平成 20－22 年度；4,800 千円(2,300：1,100：700 千円)

2）受託研究
なし

3）共同研究
なし

5. 発明・特許出願状況
なし

6. 学会活動
1）学会役員
藤崎和彦：
1） 日本保健医療行動科学会会長(～平成 19 年 10 月)
2） 特定非営利活動法人日本家庭医療学会理事(～平成 20 年 6 月)
3） 日本医学教育学会評議員・理事(～現在)
4） 日本医学教育学会教材開発・SP 小委員会委員長(～現在)
5） 医療コミュニケーション研究会会長(～現在)
6） 日本社会医学会評議員(～現在)
7） 日本医療経済学会幹事(～現在)
8） RIAS 研究会会長(平成 18 年 4 月～現在)

阿部恵子：
1） 日本医学教育学会・行動科学人間関係委員会(～平成 18 年 3 月)
2） Association of Standardized Patient Educators, International committee member (平成 19 年 11 月～現在)
3） RIAS 研究会委員(平成 18 年 4 月～現在)

2）学会開催
医学教育開発研究センター：
1） 第 19 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 1 月，岐阜)
2） 第 20 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 4 月，つくば)
3） 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 8 月，岐阜)
4） 第 22 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 10 月，横浜)
5） 第 23 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 1 月，岐阜)
6） 第 24 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 4 月，東京)
7） 第 25 回医学教育セミナーとワークショップ／第 7 回日本小児医学教育研究会(平成 19 年 7 月, 岐阜)
8） 第 26 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 10 月，徳島)
9） 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 1 月，名古屋)
10） 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 5 月，大阪)
11） 岐阜大学模擬患者の会 10 周年記念シンポジウム(平成 20 年 6 月，岐阜)
12） 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 8 月，岐阜)
13） 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 10 月，東京)

藤崎和彦：
1） 第 10 回医療コミュニケーション研究会(平成 18 年 6 月，名古屋)
2） 第 11 回医療コミュニケーション研究会(平成 18 年 12 月，名古屋)
3） 第 12 回医療コミュニケーション研究会(平成 19 年 6 月，名古屋)
4） 第 13 回医療コミュニケーション研究会(平成 19 年 12 月，名古屋)

藤崎和彦，阿部恵子：
1） 第 1 回 RIAS ワークショップ(平成 18 年 12 月，名古屋)
2） 第 2 回 RIAS ワークショップ(平成 19 年 11 月，名古屋)
3） 第 3 回 RIAS ワークショップ(平成 20 年 10 月，名古屋)

3）学術雑誌

なし

7．学会招待講演，招待シンポジスト，座長

藤崎和彦：

1） 平成 17 年度地域保健総合推進事業発表会(平成 18 年 3 月，東京，パネルディスカッション「地域における新臨床医師研修について」演者　「医学教育の視点から見た地域における新臨床医師研修」演者)
2） 2006 年度日本法社会学会学術大会(平成 18 年 5 月，西宮，シンポジウム「市民と法専門教育－ロースクールにおける実技教育の課題」演者　「医学部における模擬患者の教育参加の現状とその成果」演者)
3） 平成 18 年岐阜大学医学部同窓会(平成 18 年 5 月，岐阜，教育記念講演「世界的な医学教育改革の動向と岐阜大学医学部医学教育開発研究センターの役割」演者)
4） 第 30 回日本医療経済学会大会(平成 18 年 9 月，東京，シンポジウム「医師の不足・偏在、コメディカル養成の現状と問題点」座長，演者)
5） 第 39 回日本薬剤師会学術大会(平成 18 年 10 月，福井，特別プログラム講演「薬剤師として求められる臨床コミュニケーションスキルとその教育」演者)
6） 第 13 回上総国際高度専門職教育研究学会教育・研究集会(平成 18 年 10 月，富山，基調講演「新医師研修制度の光と影」演者)
7） 第 5 回ファーマシューティカルコミュニケーション研究会(平成 18 年 11 月，札幌，基調講演「医療人育成におけるコミュニケーション教育の現在と未来」演者)
8） 日本歯科医学教育学会歯学教育シンポジウム(平成 18 年 12 月，東京，招待講演「医療コミュニケーション教育と模擬患者の養成について」演者)
9） 第 27 回日本医学会総会(平成 19 年 4 月，大阪，パネルディスカッション「医学教育を考える－明日の名医をどう育てるか－」座長)
10） 第 107 回日本外科学会定期学術集会卒後教育セミナー(平成 19 年 4 月，大阪，講演「医療面接とコミュニケーション教育」演者)
11） 第 20 回日本口腔診断学会総会(平成 19 年 4 月，横須賀，特別講演「医学教育における診療録記載」演者)
12） 平成 19 年度全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会総会(平成 19 年 6 月，神戸，講演「臨床実習の評価の信頼性と妥当性（OSCE を含めて）」演者)
13） 第 17 回日本医療薬学会年会ワークショップ(平成 19 年 9 月，前橋市，講演「模擬患者協力型研修におけるフィードバック能力を磨く！」演者)

藤崎和彦，阿部恵子：

1） 5th Asia Pacific Regional Meeting “Mental Health” Agenda of Impaired Healers Workshop (2007. 03, Osaka；Performer)

阿部恵子：

1） 名古屋大学第一回 SP シンポジウム(平成 18 年 3 月，名古屋，「日本と米国における模擬患者活動：現状・問題点・今後の課題」演者)
2） 東京大学 RIAS シンポジウム(平成 18 年 3 月，東京，「日本における RIAS 導入」演者)
3） 第 10 回医療コミュニケーション研究会(平成 18 年 6 月，名古屋，「日米の模擬患者の現状と今後の方向性」演者)
4） 名古屋市立大学病院看護師セミナー(平成 18 年 10 月，名古屋，「これだけは知って欲しいコミュニケーションの基本」演者)
5） 第 11 回医療コミュニケーション研究会(平成 18 年 12 月，名古屋，「イギリスにおける SP 事情」演者)
6） 名古屋市立大学ナラティブ研究会(平成 18 年 12 月，名古屋，「糖尿病患者のナラティブの記述が日常診療に及ぼす影響」演者)
7） 久留米大学 SP セミナー(平成 18 年 12 月，久留米，「SP の現状：日米の意識調査より」演者)
8） 第三回名城大学臨床薬学教育臨床技能トレーニングプログラムコミュニケーションワークショップ「薬学分野のコミュニケーション教育における効果的なフィードバックの方法：ファシリテータ

ー・SP から学生へ何を返すか、どう返すか」(平成 19 年 1 月，名古屋,「フィードバックの基本」演者)

9) 日本コミュニケーション研究者会議(平成 19 年 5 月，名古屋,「医療におけるコミュニケーション教育：基本から専門へ、技能習得から態度教育への揺り戻し」演者)
10) 第 1 回埼模擬患者養成セミナー(平成 19 年 11 月，埼玉,「フィードバックの基本」演者)
11) 第 21 回藤田保健衛生大学医学部医学教育ワークショップ(平成 19 年 12 月，名古屋,「臨床実習や卒業認定のための技能・態度評価 Advanced OSCE の導入の考え方」演者)
12) 第 1 回医療コミュニケーション・ファシリテーター養成セミナー(平成 19 年 12 月，名古屋,「世界の SP 事情」演者)
13) 愛知医科大学 SP 養成セミナー(平成 20 年 8 月，名古屋，講演「日本と世界の SP 事情」演者)
14) Association for Medical Education in Europe, Pre-conference :"High stakes, low stakes, the proof is in the pudding: preparation for quality SP programs" (by ASPE International committee member)(2008.08, in Prague, Czech Republic)
15) International Conference on Communication in Healthcare 2008 by European Association for Communication in Healthcare (2008.09, Oslo, Norway, Symposium: Developing a global network of national RIAS centres; Title "RIAS Japan" Symposiast)
16) 平成 18－20 年日本学術振興会科学研究補助金交付研究「日本の医学部教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究」シンポジウム：卒前医学教育における行動科学教育シンポジウム in NAGOYA(平成 20 年 11 月，名古屋，講演「地域でのコミュニケーション教育が情動に与える影響と家族ライフサイクルという視点の必要性：園児・妊婦との継続的交流から」演者)
17) 第 2 回埼模擬患者養成セミナー(平成 20 年 11 月，埼玉,「フィードバックの基本」演者)
18) 第 11 回日本コミュニケーション学会中部四国支部大会・医療コミュニケーション教育研究セミナー(平成 20 年 11 月，広島,「世界の SP 活動：SP の演技・フィードバック」演者)
19) 第 15 回医療コミュニケーション研究会(平成 20 年 11 月，名古屋,「AMEE・EACH 学会報告」演者)
20) 第 2 回医療コミュニケーション・ファシリテーター養成セミナー(平成 20 年 12 月，名古屋,「世界の SP 活動」演者)

若林英樹：

1) 平成 18－20 年日本学術振興会科学研究補助金交付研究「日本の医学部教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究」シンポジウム：卒前医学教育における行動科学教育シンポジウム in NAGOYA(平成 20 年 11 月，名古屋，講演「日本における今後の統合型行動科学教育を考える」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1) 阿部恵子：ブルーリボン賞／共同研究部門最優秀賞(The 5th Association of Standardized Patient Educators conference：第 5 回模擬患者教育者学会，平成 18 年度)

9. 社会活動

藤崎和彦：

1) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 事後評価解析小委員会委員，学習・評価項目等改訂専門部会委員，課題改訂専門部会委員(～現在)
2) 大学基準協会「特色ある大学教育支援プログラム」ペーパーレフェリー(～現在)
3) 厚生労働省第 101 回医師国家試験 試験委員(～現在)
4) 厚生労働省第 102 回医師国家試験 試験委員(～現在)

10. 報告書

1) 藤崎和彦：健康づくりを住民の手で－住民主体の活動を支える保健師の役割：第 27 回全国地域保健師学術研究会講演収録集：28－60(2006 年 1 月)
2) 伴信太郎，阿部恵子：医療面接及び身体診察に貢献する模擬患者養成に関する研究：平成 15・16・17 年度科学研究費補助金研究　総括・分担報告書：1－214 (2006 年 2 月)
3) 藤崎和彦，阿部恵子：IMPROVING MEDICAL EDUCATION－Enhancing the Behavioral and Social Science Content of Medical School Curricula Institute of Medicine 2005，コミュニケーシ

ョンゲーム：日本医学教育学会行動科学・人間関係教育委員会報告書「行動科学教育を考える－プロフェッショナルの教育をめざして」：18－20，80－81(2006 年 3 月)

4) 藤崎和彦：国家試験 OSCE における模擬患者, Advanced OSCE でのコミュニケーション課題：2005 年度厚生労働科学研究「OSCE トライアルの実施等医師国家試験の改善にかかる研究」分担研究「国家試験 OSCE トライアルの実施に係る研究」2005 Advanced OSCE 報告書：289－293，313－317(2006 年 3 月)

5) 阿部恵子："Student Perception of Feedback from Simulated Patient during Communication Training Sessions" を拝読して、てがみ：医学教育 38：299(2007 年 1 月)

6) 阿部恵子，藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之，Phillip Evans：独自性豊かな SP 養成プログラム-スコットランド 5 大学視察報告-：医学教育 39：199－204(2008 年)

7) 阿部恵子，鈴木富雄，藤崎和彦，伴信太郎：標準模擬患者の練習状況と OSCE に対する意識　全国調査第 2 報：医学教育 39：259－266(2008 年)

8) 藤崎和彦：臨床倫理実践のためのコミュニケーション：日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会第 3 回臨床研修指導者のための倫理教育ワークショップ報告書：55－58(2008 年 1 月)

9) 藤崎和彦，上町亜希子：薬学部 6 年制へ－これからの薬剤師に求められるコミュニケーションスキル：阪神・淡路大震災後の地域社会との共生をめざした大学の新しい役割に関する実践的研究報告書第 27 号：1－50(2008 年 1 月)

11. 報道

1) 藤崎和彦：一緒に歩む医師 教育を：信濃毎日新聞(2006 年 2 月 1 日)
2) 藤崎和彦：住民参加の健康づくり支援：岐阜新聞(2006 年 8 月 8 日)
3) 藤崎和彦：誰もが受けられる医療を：毎日新聞(2006 年 8 月 23 日)
4) 藤崎和彦：薬剤師として求められる臨床コミュニケーションスキルとその教育：薬局新聞(2006 年 10 月 18 日)
5) 藤崎和彦：生かされて生きる喜びの生活と薬剤師：調剤と情報.Vol.12.No.12.(2006 年 11 月)
6) 藤崎和彦：臨床を語れる薬剤師になってほしい：Pharma Next(2007 年 5 月)
7) 藤崎和彦：患者本位へ「医は問診力」：朝日新聞(2007 年 5 月 10 日)
8) 藤崎和彦：患者の想いのサインを見逃していませんか？：S.M.C No.9(2007 年 9 月)
9) 藤崎和彦：教育ルネッサンス「医療人を育てる(5) 患者役「プロ」の心得」：読売新聞(2007 年 12 月 22 日)
10) 藤崎和彦：市民が模擬患者として参加する医学教育：Medical Tribune(2008 年 2 月 21 日)
11) 藤崎和彦：未来の医師が来ない～研修医ゼロの衝撃～：NHK ナビゲーション　スタジオ解説(2008 年 6 月 6 日)
12) 阿部恵子，藤崎和彦：患者を生きる　模擬患者　情報編：朝日新聞(2008 年 10 月 5 日)
13) 藤崎和彦：患者を生きる　模擬患者　情報編：朝日新聞(2008 年 10 月 10 日)

12. 自己評価

評価

医療コミュニケーション教育の実習方法は確立されてきたが，より学習者中心で，より効果的な実習となるよう改良を行ってきた。医学英語は，1 年生対象の基本医療会話の講座および，4～6 年生対象の臨床実践的なレベルの教育セッションを数回持つことができた。シミュレータを用いた身体診察実習のプログラムは，これまで数回のトライアルセッションを行い，教員の間で振返り議論してきた。これらいずれも，マーストリヒト大学（オランダ），グラスゴー大学（英国），自治医科大学，日本大学など国内外の客員教員との交流・議論を重ねながら行ってきた。

現状の問題点及びその対応策

近年，国際的な医学教育分野では，教育のアウトカムを客観的に評価すること，エビデンスに基づいた教育がなされることが重視されている。当センターで開発してきた新しい流れの医学教育は軌道に乗ってきたところであるが，国際的なレベルの評価がまだ十分に公表できていない。これに対してはリサーチの方法論に力点を置くなどの対応が可能である。

また，臨床実践に直結する部分の共通教育，すなわち，医療面接から身体診察，臨床推論，診断治療法の立案にいたる基本的臨床能力は，まだ十分な焦点が置かれるには至っていない。これについては，学内外の臨床教育者との連携を図り，コーディネイターを務めることが有益であろう。

今後の展望

今後も現代社会のニーズに応えられるような医師・医学研究者を養成するために，1）より効果的な医学教育を開発しその効果を客観的に評価していく，2）指導力と人間味のある医学教育の後継者を育成する，3）国内外の医学教育に関わる教員，指導医との交流をさらに深める，ということが今後の展望である。

（11）寄附講座「健康障害半減講座（岐阜県）」

1. 研究の概要

岐阜県と大学が連携し，県内の生活習慣病の調査研究を行うとともに，特に有病率が多いとされる糖尿病については，疫学的な研究と保健指導等による予防により病罹患者の減少を図る。

2. 名簿

准教授相当：　鈴木英司　　Eiji Suzuki
助教相当：　大庭志野　　Shino Oba

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）鈴木英司．基礎編：PWV を知る　臓器・機能障害と PWV．下肢循環と PWV：ハンズオンブック　PWV を知る　PWV で診る　東京：中山書店；2006 年：132－138.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1）鈴木英司．糖尿病マクロアンギオパシーの検査・診断法の進歩　磁気共鳴法による新しい診断法，日本臨床　2006 年；64 巻：2062－2068.
2）鈴木英司．Technics Guide 磁気共鳴を用いたフットプロトコルによる糖尿病足病変の早期発見，Diabetes Journal　2006 年；35 巻：31－35.
3）鈴木英司．末梢循環障害に対する新しいアプローチ，Diabetes In The News (DITN)　2007 年；353 巻：8.
4）鈴木英司．糖尿病患者における末梢循環障害に対する新しいアプローチ，Angiology Frontier　2007 年；6 巻：96－103.
5）鈴木英司．糖尿病と末梢循環障害，一宮医報　2008 年；172 巻：12－17.
6）鈴木英司．C. 糖尿病の疫学・病態・診断学の進歩　V. 糖尿病検査学の進歩　糖尿病関連諸検査－測定法，臨床的意義，評価法－画像検査　MRA，新時代の糖尿病学　2 巻，日本臨床　2008 年；66 巻(増刊号 4)：546－550.

原著（欧文）

1）Oba S, Shimizu N, Nagata C, Shimizu H, Kametani M, Takeyama N, Ohnuma T, Matsushita S. The relationship between the consumption of meat, fat, and coffee and the risk of colon cancer: a prospective study in Japan. Cancer Lett. 2006;244:260-267.　IF 3.398
2）Nagata C, Oba S, Shimizu H. Associations of menstrual cycle length with intake of soy, fat, and dietary fiber in Japanese women. Nutr Cancer. 2006;54:166-170.　IF 2.361
3）Yoshimura T, Suzuki E, Egawa K, Nishio Y, Maegawa H, Morikawa S, Inubushi T, Hisatomi A, Fujimoto K, Kashiwagi A. Low blood flow estimates in lower-leg arteries predict cardiovascular events in Japanese patients with type 2 diabetes with normal ankle-brachial indexes. Diabetes Care. 2006;29:1884-1890.　IF 7.851
4）Oba S, Nagata C, Shimizu N, Shimizu H, Kametani M, Takeyama N, Ohnuma T, Matsushita S. Soy product consumption and the risk of colon cancer: a prospective study in Takayama, Japan. Nutr Cancer. 2007;57:151-157.　IF 2.361
5）Tanaka T, Nagata C, Oba S, Takatsuka N, Shimizu H. Prospective cohort study of body mass index in adolescence and death from stomach cancer in Japan. Cancer Sci. 2007;98:1785-1789.　IF 3.165
6）Oba S, Nakamura K, Sahashi Y, Hattori A, Nagata C. Consumption of vegetables alters morning urinary 6-sulfatoxymelatonin concentration. J Pineal Res. 2008;45:17-23.　IF 4.098
7）Nakamura K, Nagata C, Oba S, Takatsuka N, Shimizu H. Fruit and vegetable intake and mortality from cardiovascular disease are inversely associated in Japanese women but not in men. J Nutr. 2008;138:1129-1134.　IF 3.771
8）Nagata C, Nakamura K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Oba S, Shimizu H. Smoking and risk of cedar pollinosis in Japanese men and women. Int Arch Allergy Immunol. 2008;147:117-124.　IF 2.160
9）Nagata C, Nakamura K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Oba S, Shimizu H. Soy isoflavone intake is

not associated with the development of cedar pollinosis in adults. J Nutr. 2008;138:1372-1376. IF 3.771

10) Oba S, Nagata C, Nakamura K, Takatsuka N, Shimizu H. Self-reported diabetes mellitus and risk of mortality from all causes, cardiovascular disease, and cancer in Takayama: a population-based prospective cohort study in Japan. J Epidemiol. 2008;18:197-203. IF 1.906

11) Yoshimura T, Suzuki E, Ito I, Sakaguchi M, Uzu T, Nishio Y, Maegawa H, Morikawa S, Inubushi T, Hisatomi A, Fujimoto K, Takeda J, Kashiwagi A. Impaired peripheral circulation in lower-leg arteries caused by higher arterial stiffness and greater vascular resistance associates with nephropathy in type 2 diabetic patients with normal ankle-brachial indices. Diabetes Res Clin Pract. 2008;80:416-423. IF 1.823

12) Hirota T, Suzuki E, Ito I, Ishiyama M, Goto S, Horikawa Y, Asano T, Kanematsu M, Hoshi H, Takeda J. Coronary artery calcification, arterial stiffness and renal insufficiency associate with serum levels of tumor necrosis factor-alpha in Japanese type 2 diabetic patients. Diabetes Res Clin Pract. 2008;82:58-65. IF 1.823

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：大庭志野；科学研究費補助金若手研究(C)：乳癌患者の癌の因果関係観と癌への適応度について；平成 17－18 年度；3,400 千円(1,600：1,800 千円)

2) 研究代表者：大庭志野；研究活性化(医)のための支援事業経費：一般住民における受動喫煙と糖尿病境界型の関連；平成 18 年度；200 千円

3) 研究代表者：大庭志野，研究分担者：永田知里，山本眞由美，鈴木英司；科学研究費補助金基盤研究(C)：能動及び受動喫煙と糖代謝能の指標に関する研究；平成 20－22 年度；4,050 千円(1,950：1,400：700 千円)

4) 研究代表者：大庭志野；研究科長・医学部長裁量経費による研究費の重点的配分：一般住民における摂食及び就寝時刻に係る生活習慣と血糖値及び糖代謝能の関連；平成 20 年度；250 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

鈴木英司：

1) 日本糖尿病学会評議員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

1） 大庭志野：乳癌患者の癌の因果関係観と癌への適応度について：平成 17 年度科学研究費補助金報告書：1－2(2006 年 1 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

いわゆる糖尿病予備軍に対する保健指導方法の探索と，糖尿病有病者を減少させることについての研究，糖尿病を含む生活習慣病の効果的な予防方法等の情報収集と研究，主要な生活習慣病に関する先端医療や補完・代替医療についての文献的研究成果の情報提供，などの研究を行った。2006 年 1 月～2008 年 12 月までの本講座の研究成果として，学術論文は和文 6 報と英文 12 報，総説と著書は和文 1 報の報告が行われた。本講座の研究成果は，国内外に向けて非常に活発に報告された。

現状の問題点及びその対応策

平成 21 年 3 月末で，当初予定の講座開設期間が終了する。平成 21 年 4 月以降は，バックアップ講座である疫学・予防医学分野にて研究を継続する予定である。

今後の展望

これまでと同様，生活習慣病の予防方法等を調査研究して着実に成果をあげるとともに，研究成果を分かりやすく一般向けに公開して，県民の健康増進に寄与する。

（12）寄附講座「骨関節再建外科学講座（ジンマー）」

1. 研究の概要

研究は脊椎脊髄再建外科に関するもの(宮本准教授担当)，慢性関節リウマチに関するもの（佐藤正夫助教担当）の 2 つをメインテーマとして行っており，以下が現在進行中のプロジェクトである。

1）椎間板組織におけるカルパインの局在の検証
ウシ及びヒトの椎間板組織において，カルパインの局在の検証を行った。椎間板変性とカルパインの発現が関連していることが明らかとなった。

2）慢性関節リウマチ患者に対する生物製剤を用いた治療における体内サイトカインの変動についての研究

3）椎間板細胞外基質代謝におけるカルパインの役割と解明
ウシ及びヒトの椎間板細胞を用い，炎症・椎間板変性という局面においてカルパインが椎間板基質分解にいかに関与するかについて研究をすすめている。

4）慢性関節リウマチ患者に対する生物製剤を用いた治療における副作用の発現，その予防に関する研究

5）ヒト腰椎荷重負荷における椎間板・椎間関節の形態変化に関する研究
ヒト腰椎の立位荷重状態をシミュレートする装置を使用し，CT 撮影によって得られた腰椎画像を 3 次元解析し，椎間板・椎間関節の 3 次元的形態変化を解析している。

6）腰椎装具の体幹位置覚，スポーツパフォーマンスに与える影響の検討
腰椎装具がもつ体幹位置覚向上効果がスポーツパフォーマンス(ゴルフ，ウォーキング等)にいかなる影響を与えるかを 3 次元動作解析にて検証している。

7）腰椎変性側彎症に対する後方椎体間固定術による変形矯正の 3 次元解析
腰椎変性側彎症に対するブーメラン型スペーサーを用いた後方椎体間固定術による変形矯正が椎間板角，椎間関節形態に与える効果を 3 次元画像解析により検証している。

8）ヒト頸椎の屈曲伸展動態における硬膜管・頸部脊髄の 3 次元的動態解析
脊髄造影検査後のファンクショナル CT を用い，ヒト頸椎の屈曲伸展動態における硬膜管・頸部脊髄の 3 次元的動態解析を各種病態との関連にて検証している。

9）腰椎変性側彎症に対する後方椎体間固定術による変形矯正の 3 次元解析
腰椎変性側彎症に対するブーメラン型スペーサーを用いた後方椎体間固定術による変形矯正が椎間板角，椎間関節形態に与える効果を 3 次元画像解析により検証している。

10）頸椎除圧手術(前方除圧，後方除圧)が硬膜管・頸部脊髄に与える形態変化の検討
頸椎前方除圧術，頚椎後方除圧術の 2 術式が硬膜管・頸部脊髄に与える形態変化の相違について ultrasonography を用いて，臨床成績と関連させて検討している。

11）MRI と脊髄造影後 CT の硬膜管・脊髄・馬尾神経形態評価の相違に関する研究
脊椎脊髄疾患に対する画像診断における 2 つの代表的手法である MRI と脊髄造影後 CT について，硬膜管・脊髄・馬尾神経形態評価の質的・量的相違を明らかにした。

12）ヒト脊髄液における還元型・酸化型アルブミンの動態の研究
ヒト脳脊髄液における還元型・酸化型アルブミンの存在比率について，年齢，疾患等の因子を含めて検証を行っている(分子生理学講座と共同研究)。

2. 名簿

准教授相当：　宮本　敬　　Kei Miyamoto
助教相当：　佐藤正夫　　Masao Sato

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
1）Shimizu K, Miyamoto K. Inflammatory Diseases of the Spine: Juvenile Rheumatoid Arthritis. In: Surgery of the Pediatric Spine. New York: Thieme;2007:375-380.

総説（和文）
なし

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．骨粗鬆症性骨折に対する脊椎短縮術の術後経過，中部整形外科災害外科学会雑誌　2006 年；49 巻：967－968.
2） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．頚椎後縦靱帯骨化症に対する術式選択，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2006 年；17 巻：525.
3） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫，宮本　敬，小原　明．腰椎変性すべり症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術(cantilever-TLIF)－PLIF との比較－，日本整形外科学会雑誌　2006 年；80 巻：S285.
4） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術，中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：353－354.
5） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．頚部脊髄症手術の合併症－前方法、後方法の比較－，中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：579－580.
6） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．骨粗鬆症性椎体骨折に対するネスプロンケーブルを使用した脊椎短縮術，日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　2007 年；6 巻：25－28.
7） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男，福田章二．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2007 年；18 巻：223.
8） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．骨粗鬆症性椎体骨折に対するネスプロンケーブルを使用した脊椎短縮術，日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　2007 年；6 巻：25－28.
9） 四戸隆基，佐藤正夫，馬場岳士，角田　恒．ブシラミンが奏功した高齢発症関節リウマチかの 1 例から今後のリウマチ治療を考える，Pharma Medica　2008 年；26 巻：156－157.
10） 佐藤正夫，四戸隆基，馬場岳士，角田　恒，岡村秀人，鈴木　清．LCS 人工膝関節置換術後に脛骨ベアリングの脱転を来たした 1 例，岐阜人工関節フォーラム誌　2008 年；11 巻：9－12.
11） 岡村秀人，藤墳祐美，田垣敦朗，四戸隆基，佐藤正夫．生物学的製剤とリハビリテーションで著明な ADL の改善が得られた関節リウマチ(class 4)の一例，日本 RA のリハビリ研究会誌　2008 年；22 巻：89－92.
12） 佐藤正夫，四戸隆基，馬場岳士，角田　恒，岡村秀人，清水克時．医療従事者における腰痛有訴率，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：207－208.
13） 四戸隆基，佐藤正夫，馬場岳士，角田　恒．高齢者大腿骨近位部骨折患者の加療状況、近年の変化，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：419－420.
14） 佐藤正夫，竹村正男，四戸隆基，斉藤邦明，清島　満．抗 CCP 抗体は生物学的製剤の効果判定に有用であるか？，中部リウマチ　2008 年；39 巻：24－25.
15） 田中　領, 佐藤正夫, 竹村正男, 四戸隆基, 斉藤邦明, 清島　満, 清水克時. 関節リウマチにおける Infliximab 治療効果と血清キヌレニン濃度の変化，中部リウマチ　2008 年；39 巻：26－27.
16） 四戸隆基，佐藤正夫，馬場岳士，角田　恒．高齢者大腿骨近位部骨折の在院日数に関する地域格差，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：623－624.
17） 佐藤正夫，四戸隆基，竹村正男，清島　満，斉藤邦明．関節リウマチに対するサラゾスルファピリジン低用量投与の検討，臨床リウマチ　2008 年；20 巻：188－193.
18） 佐藤正夫，四戸隆基，馬場岳士，角田　恒，清水克時．生物学的製剤治療における病診連携，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：943－944.
19） 四戸隆基，佐藤正夫，馬場岳士，角田　恒．高齢者大腿骨近位部骨折患者の年齢区分による治療成績，東海整形外科外傷研究会誌　2008 年；21 巻：96－98.
20） 細江英夫，清水克時，宮本敬，田中健一郎，岩井智守男，福田章二．骨粗鬆症性椎体圧潰に対する椎弓をとらえる脊椎短縮術－術後骨折と後弯－，中部整形外科災害外科学会誌　2008 年；51 巻：643－644.
21） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本敬，福田章二，岩井智守男．頚椎亜全摘前方固定術後の腓骨定着と内固定材料の変化－X 線評価－, 脊椎・脊髄神経手術手技　ベストペーパー賞　2008 年；10 巻：117－119.

原著（欧文）
1） Masuda T, Miyamoto K, Hosoe H, Sakaeda H, Tanaka M, Shimizu K.　Surgical treatment with spinal instrumentation for pyogenic spondylodiscitis due to methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA): a report of five cases. Arch Orthop Trauma Surg. 2006;126:339-345.　IF 0.913
2） Masuda T, Miyamoto K, Shimizu K. Intramuscular hemodynamics in bilateral erector spinae muscles in symmetrical and asymmetrical postures with and without loading. Clin Biomecha. 2006;21:245-253.　IF 1.642
3） Ohara A, Miyamoto K, Naganawa T, Matsumoto K, Shimizu K. Sagittal alignment of the cervical spine: comparison of five standard methods of measurement. Spine. 2006;31:2585-2591.　IF 2.499
4） Fushimi K, Miyamoto K, Nishimoto H, Hosoe H, Kodama H, Shimizu K. Clinical outcomes of multilevel anterior corpectomy and fusion as a revision surgery of the cervical spine. Report of seven cases. Spinal Cord. 2006;44:449-456.　IF 1.578
5） Miyamoto K, Masuda K, Inoue N, Okuma M, Meuhlmem C, An HS. Anti-adhesion properties of thrombin-based hemostatic gelatin in a canine laminectomy model. –a biomechanical, biochemical, and histological study. Spine. 2006;31:E91-E97.　IF 2.499

6) Hosoe H, Miyamoto K, Wada E, Shimizu K. A surgical treatment of scoliosis in Larsen's syndrome with bilateral hip dislocation: A case report. Spine. 2006;31:E302-E306. IF 2.499
7) Ohnishi K, Miyamoto K, Hashimoto K, Hosoe H, Shimizu K. Mixed connective tissue disease (MCTD) associated with atlantoaxial subluxation. A case report. Orthopaedics. 2006;29:369-370. IF 0.581
8) Sasaki T, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Transoral Anterior Approach Used for Extensive Anterior Decompression of C3 Vertebrae Level in a Patient with Severe Atlantoaxial Vertical Subluxation and Rheumatoid Arthritis - A Case Report -. Spinal Cord. 2006;44:52-55. IF 1.578
9) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata T, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-521. IF 0.913
10) Hosoe H, Shimizu K, Miyamoto K, Fukuta S, Iwai C. Cantilever-TLIF for patients with degenerative scoliosis. Eur Spine J. 2007;16:S51. IF 2.021
11) Aoki T, Terashima H, Itokazu M, Miyamoto K, Shimizu K. Stimulation of Music Prolonged Disturbance of Consciousness Patients in Early Rehabilitation. J Saitama Kenou Rehabilitation. 2007;7:50-53.
12) Nagano A, Miyamoto K, Fushimi K, Hosoe H, Shimizu K. Failure of reconstruction surgery using anterior fibular strut grafting for postlaminectomy kyphosis A case report. J Clin Neurosci. 2007;14:376-379. IF 0.801
13) Inoue T, Miyamoto K, Kodama H, Hosoe H, Shimizu K. Total spondylectomy for treatment of a symptomatic hemangioma of the lumbar spine - A case report. J Clin Neurosci. 2007;14:806-809. IF 0.801
14) Yamada K, Miyamoto K, Hosoe H, Mizutani M, Shimizu K. Scoliosis associated with Prader-Willi syndrome A case report. Spine J. 2007;7:345-348.
15) Miyamoto K, Shimizu K, Matsumoto S, Sumida H, Iida H, Hosoe H. Surgical treatment of scoliosis associated with central core disease: Minimizing the effects of malignant hyperthermia with provocation tests - Report of a case -. J Pediatric Orthop B. 2007;16:239-242. IF 0.619
16) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata Y, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-521. IF 0.793
17) Shinohe R, Sato M, Takemura M, Shimizu K, Koishi K, Tanaka R, Saito K, Seishima M. Cytokine profiles in mice with arthritis induced by anti-type II collagen monoclonal antibody plus lipopolysaccharide. Jap J Clin Chem. 2008;37:53-62.
18) Oguri K, Fujimoto H, Sugimori H, Miyamoto K, Tachi T, Nagasaki S, Kato Y, Matsuoka T. Pronounced muscle deoxygenation during supramaximal exercise under simulated hypoxia in sprint athletes. J Sport Sci Med. 2008;7:512-519. IF 0.290
19) Kikuike K, Miyamoto K, Hosoe H, Kushima Y, Shimizu K. Double-level posterior spinal shortening for paralytic osteoporotic vertebral collapse of two vertebral bodies with a normal vertebra in between: a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:E221-224. IF 0.913
20) Miyamoto K, Iinuma N, Ueki S, Shimizu K. Effects of Abdominal Belts on the Cross-Sectional Shape of the Trunk during Intense Contraction of the Trunk Muscles Observed by Computer Tomography. Clin Biomecha. 2008;23:1220-1226. IF 1.642
21) Terabayashi N, Miyamoto K, Sakai H, Hosoe H, Shimizu K. Multiple steroid-induced vertebral fracture with paraparesis associated with Wegener's granulomatosis treated with posterior spinal instrumentation. J Neurological Sciences (Turkish). 2008;25:67-71.
22) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Fukuta S, Shimizu K. Two-stage decompression for combined epiconus and cauda equina syndrome due to multilevel spinal canal stenosis of the thoracolumbar spine: a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:955-958. IF 0.913
23) Yamamoto T, Miyamoto K, Iinuma N, Sugiyama S, Nozawa S, Hosoe H, Shimizu K. Segmental Wire Fixation for Lumbar Spondylolysis Associated with Spina Bifida Occulta. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1177-1182. IF 0.913
24) Chi D, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Ohnishi K, Suzuki N, Sumi H, Shimizu K. Symptomatic Lumbar Mobile Segment with Spinal Canal Stenosis in a Fused Spine Associated with Diffused Idiopathic Skeletal Hyperostosis: A Case Report. Spine J. 2008;8:1019-1023.
25) Hirakawa A, Miyamoto K, Ohno Y, Hioki A, Ogawa H, Nishimoto H, Yokoi T, Hosoe H, Shimizu K. Two-Stage (posterior and anterior) surgical treatment of spinal osteomyelitis due to atypical mycobacteria and associated thoracolumbar kyphoscoliosis in a non-immunocompromised patient. Spine. 2008;32:E221-224. IF 2.499
26) Hioki A, Ohnishi K, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Spondylolysis of the Second Lumbar Vertebra Treated with Segmental Wiring and Bone Grafting: A case report. Orthopaedics. 2008;31:287. IF 0.581
27) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Two-staged decompression for thoracic paraparesis due to the combined ossification of the posterior longitudinal ligament and the ligamentum flavum: A case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;127:175-177. IF 0.913
28) Hashimoto K, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Kikuike K, Shimokawa K, Suzuki N, Matsuo M, Kodama H, Shimizu K. Solitary fibrous tumor in the cervical spine with destructive vertebral

involvement: a case report and review of the literature. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1111-1116. IF 0.913

29) Yamamoto T, Iinuma N, Miyamoto K, Sugiyama S, Nozawa S, Hosoe H, Shimizu K. Segmental wire fixation for lumbar spondylolysis associated with spina bifida occulta. Arch Orthop Trauma Surge. 2008;128:1177-1182. IF 0.793

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：大野貴敏，研究分担者：木村正志；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：骨軟部腫瘍のオーロラキナーゼの解析；平成 18－20 年度；3,600 千円(2,600：500：500 千円)
2) 研究代表者：細江英夫，研究分担者：大野貴敏；文部科学省科学研究費補助金萌芽研究：ユーイング肉腫マウスモデルの樹立と解析；平成 18－19 年度；3,300 千円(2,600：700 千円)
3) 研究代表者：増田剛宏：平成 18 年度岐阜大学活性化研究費：骨軟部腫瘍における Aurora Kinase の解析；平成 18 年度；200 千円
4) 研究代表者：増田剛宏：整形災害外科学研究助成財団 平成 18 年度研究助成金科研製薬奨励賞：骨軟部腫瘍におけるオーロラキナーゼの役割；平成 18 年度；1,000 千円
5) 研究代表者：岩井智守男；平成 19 年度岐阜大学活性化経費：ユーイング肉腫に対する血管内皮増殖因子を標的とした分子標的治療の研究；平成 19 年度；1,120 千円
6) 研究代表者：宮本敬，研究分担者：清水克時；平成 19 年度文部科学省科学研究費基盤研究(C)：内因性炎症性サイトカインの制御を図った新しい椎間板再生アプローチ；平成 18－20 年度；2,900 千円(1,100：1,100：700 千円)
7) 研究代表者：松岡敏男，研究分担者：宮本敬；日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)：中高齢者の低酸素環境下(低酸素室)の運動がエネルギー消費量及び筋に及ぼす影響；平成 19－20 年度；2,860 千円(1,560：1,300 千円)

2）受託研究

1) 研究代表者：宮本敬，研究分担者：清水克時；経口リマプロストの腰部脊柱管狭窄症長期投与の日常生活活動性、QOL に対する効果に関する研究；平成 20 年度；1,000 千円：小野薬品工業(株)
2) 研究代表者：宮本敬，研究分担者：清水克時；経口リセドロネート製剤の週一服用製剤及び毎日服用製剤の骨粗鬆患者における服薬コンプライアンスに関する研究；平成 20 年度；1,000 千円：武田薬品工業(株)

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

宮本敬：

1) 岐阜脊椎脊髄懇話会世話人(平成 18 年度～現在)
2) 岐阜脊椎セミナー世話人(平成 18 年度～現在)
3) 東海脊椎外科研究会幹事(平成 20 年度～現在)

佐藤正夫：

1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
2) 日本画像医学会評議員(～現在)
3) 日本リウマチ学会評議員(～現在)
4) 中部日本リウマチ学会評議員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

宮本　敬：

1） 第 9 回岐阜脊椎セミナー(平成 18 年 7 月，岐阜，特別講演「変性椎間板への再生医療アプローチ」演者)
2） 第 21 回日本整形外科学会基礎学術集会 シンポジウム　メカニカルストレスと骨軟骨代謝(平成 18 年 10 月, 長崎, 演題「EXPOSURE TO PULSED LOW INTENSITY ULTRASOUND STIMULATES METABOLISM OF BOVINE INTERVERTEBRAL DISC CELLS CULTURED IN ALGINATE BEADS」演者)
3） 平成 18 年度 岐阜大学整形外科学教室同門会総会(平成 18 年 12 月，岐阜，特別講演「椎間板への再生治療アプローチ- 3 年間の Chicago 留学を終えて -」演者)
4） 痛みと炎症 2007(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「世界をめざせ！岐阜の脊椎臨床」演者)
5） 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「頚椎疾患の病診連携－たかが肩こり、されど肩こり－」演者)
6） ベネット Weeklyjy 錠新発売記念講演会(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症に伴う腰痛の QOL 評価」座長)
7） 京都大学若手脊椎外科医の会(平成 20 年 4 月，大阪市，特別講演「骨粗鬆性脊椎骨折圧潰に対する外科的治療」演者)
8） 平成 20 年度日本材料学会生体・医療材料部門講演会(平成 20 年 12 月，京都市，特別講演「脊椎に対する金属インプラントを用いた手術治療　‐過去・現在・未来‐」演者)

佐藤正夫：

1） 第 10 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 20 年 5 月，岐阜，特別講演「最近の関節リウマチ薬物療法」座長)
2） 第 83 回岐阜県整形外科集談会(平成 20 年 6 月，岐阜，教育研修講演「関節リウマチ手病変に対する治療」座長)
3） 第 18 回下呂市薬剤師会学術講演会(平成 20 年 7 月，下呂，特別講演「関節リウマチにおける薬物療法」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1） 宮本敬：New Investigator Recognition Award/ 52nd Ortopaedic Research Society (2006)
2） 宮本敬：Russell Hibbs Award for the Best Basic Science Paper / The 41st Annual Meeting of Scoliosis Research Society (2006)
3） 宮本敬：CSRS Basic Science Research Award 3rd Prize / The 34th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society (2006)
4） 宮本敬：岐阜脊椎脊髄懇話会 第 5 回大正アワード(平成 18 年度)
5） 喜久生健太，宮本敬，遅大明，清水克時：「椎間板バキューム現象の臨床的意義」第 109 回中部日本整形外科・災害外科学会 会長奨励賞(平成 19 年度)
6） 宮本敬：第 15 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 best paper 賞(平成 20 年度)

9. 社会活動

宮本敬：

1） 岐阜県ラグビーフットボール協会医務委員会副委員長(～現在)
2） 岐阜県学生柔道連盟幹事(平成 18 年度～現在)
3） 岐阜県柔道連盟医務委員会委員(平成 20 年度～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

基礎研究，臨床研究の成果を英文論文として報告してきた。これについては，マンパワーが不足しているなか，十分に健闘していると思われる。

現状の問題点及びその対応策

スタッフが臨床活動と研究活動を並行して行っているので，時間，マンパワーが足りない感がある。これについては各種関連機関との密なチームワーク，共同作業等にて補いたい。

今後の展望

近年の高齢者の占める割合が高い人口比を考えると国民に頻度の高い脊椎疾患，そして高度の専門的医療技術を要する慢性関節リウマチに対する治療をメインテーマとして，研究・教育・診療を行なっていく体制である。スタッフには脊椎疾患，リウマチ性疾患を専門とする 2 名を擁し，基礎研究・教育において岐阜県のセンター的役割を有する機関として機能し，かつ岐阜大学への貢献を行っていきたい。多様なプロジェクトを有しており，多くの臨床医，研究者，医学生，企業などが参加している。チームワーク，相互貢献の精神を重視し，研究の活動性がさらにあがるように尽力を行いたい。基礎研究，臨床研究，及びトランスレーショナルな位置づけの研究を継続して行い，当該分野におけるトップジャーナルへの投稿を目指して努力を重ねたい。また，これまでには比較的手薄であった各種国内国外学会活動も活発に行い，得られた知見を広める努力を行いたい。しいては，岐阜から日本，世界にむけて脊椎骨関節再建治療のスタンダードを発信することを目的としたい。

（13）寄附講座「地域医療学講座（岐阜県）」

1. 研究の概要

本講座は，以下の背景のもと，岐阜県が総務省の同意を得て支出する寄附金により設置され，下記内容について調査・研究・実践を行っている。

【背景】

平成 16 年度から義務化された医師臨床研修制度導入以降，都市部の病院で研修を受ける医師が増加し，大学病院で研修を受けるものが減少した。このため，本県においても大学医学部から地方の病院への医師派遣機能が低下し，地域医療に従事する医師の不足が進み，地域の医療提供体制に深刻な影響が出てきた。このため，限られた医療資源を有効に活用し，医療機関相互の機能分担と連携により医師の効果的な配置を行うとともに，一方で地域医療に熱意を持った医師を養成することが急務となっている。

1）二次医療圏における医療提供体制の課題と解決策に関する調査研究

1）目的

地域の基幹的病院を中心とした医療機関相互の機能分担と連携による効率的な医療提供体制と医師の効果的な配置システムを構築することを目的とする。

2）内容と手法

二次医療圏ごとに次の手法により，課題と解決策を研究する。

① 疾病動向調査と住民ニーズの把握

② 基幹的病院を中心とした地域医療連携体制の構築

③ 適正な医療専門職種配置システムの開発

3）期待される効果

効率的な医療提供体制と効果的な医師配置システムなどにより，限りある医療資源を最大限に有効活用されることにより，地域医療の充実につなげる。

2）地域の基幹的病院をフィールドとした地域医療学の研究と地域医療を担う医師の養成

1）目的

① 地域特有の疾病対策の促進と包括医療の提供を目的とした地域医療学の研究を実施する。

② 地域医療を担う医師の養成を目的として，地域医家学の研究を含めた魅力的な総合臨床医育成プログラムを策定する。

2）内容と手法

①地域医家学の研究

○地域特有の疾病発生要因に関する地域疫学研究

②地域医療を担う医師の養成

○総合臨床医育成カリキュラムの策定

○前記カリキュラムを統合し，都市部の大規模病院での高度専門医療と地域・へき地の医療機関での双方が研修可能な岐阜県方式の総合医育成カリキュラムを策定する。

○上記により，臨床研修医等に地域医療･医学の重要性を認識させ興味を持たせる。

3）期待される効果

地域特有の疾病予防対策と包括医療の提供が促進されるとともに，充実した総合臨床医育成カリキュラムの策定により，地域医療を担う医師の養成の促進につながる。

2. 名簿

教授相当： 宇野嘉弘 Yoshihiro Uno

准教授相当： 川口順敬 Yoshihiro Kawaguchi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）
なし

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 林美佳，岩木博美，森田浩之，湯上英臣，宇野嘉弘，梶田和男，松本雅美，池田貴英，森一郎，松原健治，和田祐爾，石塚達夫．在宅健康管理システムによる降圧効果－健康診断での非利用者との比較研究－，日本遠隔医療学会雑誌　2006 年；2 巻：222－223.
2） 岩木博美，林美佳，森田浩之，湯上英臣，宇野嘉弘，梶田和男，松本雅美，池田貴英，森一郎，松原健治，和田祐爾，石塚達夫．在宅健康管理システムの有用性－心電図による不整脈の月別・年代別変動－，日本遠隔医療学会雑誌　2006 年；2 巻：224－225.
3） 森田浩之，宇野嘉弘，石塚達夫，保住功，犬塚貴．医学生による訪問看護体験実習の評価，医学教育　2006 年；37 巻：311－315.
4） 森田浩之，水野智子，梶田和男，宇野嘉弘，池田貴英，森一郎，松原健治，松本雅美，長井孝太郎，石塚達夫．両側に副腎皮質腺腫が見られた原発性アルドステロン症の 1 例－右アルドステロン産生腺腫と左非機能性腺腫－，日本内分泌学会雑誌　第 16 回臨床内分泌代謝 Update Proceeding　2006 年；82 巻(増刊)：61－63.
5） 野方文雄，宇野嘉弘，森田浩之，石塚達夫，河村洋子，横田康成，下中智，田中靖哲．健康高齢者検査システムの開発，日本コンピュータ外科学会雑誌　2006 年；8 巻：134－135.
6） 松原健治，森一郎，池田貴英，松本雅美，杉山千世，梶田和男，宇野嘉弘，森田浩之，石塚達夫．長寿に影響を与える因子の検討　国府・美山地区比較研究，岐阜県内科医会雑誌　2007 年；21 巻：19－21.
7） 石塚達夫，湊口信也，福沢嘉孝，勝木顕，宇野嘉弘．メタボリックシンドローム－専門領域からのメッセージと討論－日本内科学会専門医部会支部セミナーから，日本内科学会雑誌　2007 年；96 巻：174－180.
8） 森田浩之，林美佳，宇野嘉弘，梶田和男，藤岡圭，森一郎，池田貴英，松原健治，和田祐爾，岩木博美，湯上英臣，石塚達夫．在宅健康管理システム利用による生活習慣病関連指標への効果－健康診断での非利用者との比較研究－，日本遠隔医療学会雑誌　2007 年；3 巻：229－230.
9） 池田貴英，森田浩之，宇野嘉弘，梶田和男，宮内ルミ子，森一郎，藤岡圭，岡田英之，藤掛貴敏，和田祐爾，石塚達夫，大塚尊．遠隔医療のニーズとターゲット－山間地域での在宅健康管理システム契約者へのアンケート調査－，日本遠隔医療学会雑誌　2008 年；4 巻：306－307.

原著（欧文）
1） Takahashi M, Minatoguchi S, Nishigaki K, Kawasaki M, Arai M, Uno Y, Fujiwara H. Long-term and strict blood pressure lowering by imidapril reverses left ventricular hypertrophy in patients with essential hypertension: an evaluation using a novel indicator of burden on the left ventricle. Hypertens Res. 2006;29:89-94.　IF 2.951
2） Lu C, Arai M, Misao Y, Chen X, Wang N, Onogi H, Kobayashi H, Uno Y, Takemura G, Minatoguchi S, Fujiwara T, Fujiwara H. Autologous bone marrow cell transplantation improves left ventricular function in rabbit hearts with cardiomyopathy via myocardial regeneration-unrelated mechanisms. Heart Vessels. 2006;21:180-187.　IF 1.043
3） Suzuki K, Nagashima K, Arai M, Uno Y, Misao Y, Takemura G, Nishigaki K, Minatoguchi S, Watanabe S, Tei C, Fujiwara H. Effect of granulocyte colony-stimulating factor treatment at a low dose but for a long duration in patients with coronary heart disease. Circ J. 2006;70:430-437.　IF 2.373
4） Arai M, Misao Y, Nagai H, Kawasaki M, Nagashima K, Suzuki K, Tsuchiya K, Otsuka S, Uno Y, Takemura G, Nishigaki K, Minatoguchi S, Fujiwara H. Granulocyte colony-stimulating factor: a noninvasive regeneration therapy for treating atherosclerotic peripheral artery disease. Circ J. 2006;70:1093-1098.　IF 2.373
5） Onogi H, Minatoguchi S, Chen XH, Bao N, Kobayashi H, Misao Y, Yasuda S, Yamaki T, Maruyama R, Uno Y, Arai M, Takemura G, Fujiwara H. Edaravone reduces myocardial infarct size and improves cardiac function and remodelling in rabbits. Clin Exp Pharmacol Physiol. 2006;33:1035-1041.　IF 2.038
6） Sugiyama C, Ishizawa M, Kajita K, Morita H, Uno Y, Matsubara K, Matsumoto M, Ikeda T, Ishizuka T. Platelet aggregation in obese and diabetic subjects: association with leptin level. Platelets. 2007;18:128-134.　IF 1.915
7） Chen X, Minatoguchi S, Arai M, Wang N, Lu C, Narentuoya B, Uno Y, Misao Y, Takemura G, Fujiwara T, Fujiwara H. Celiprolol, a selective beta1-blocker, reduces the infarct size through production of nitric oxide in a rabbit model of myocardial infarction. Circ J. 2007;71:574-579.　IF 2.373
8） Ishizuka T, Miura A, Kajita K, Matsumoto M, Sugiyama C, Matsubara K, Ikeda T, Mori I, Morita H, Uno Y, Mune T, Kanoh Y, Ishizawa M. Effect of dehydroepiandrosterone on insulin sensitivity in Otsuka Long-Evans Tokushima fatty rats. Acta Diabetol. 2007;44:219-226.　IF 1.619
9） Kajita K, Mune T, Ikeda T, Matsumoto M, Uno Y, Sugiyama C, Matsubara k, Morita H, Takemura M, Seishima M, Takeda J, Ishizuka T. Effect of fasting on PPARγ and AMPK activity in adipocytes. Diabetes Res Clin Pract. 2008;81:144-149.　IF 1.823

10) Mori I, Ishizuka T, Morita H, Matsumoto M, Uno Y, Kajita K, Ikeda T, Fujioka K, Matsubara K. Comparison of biochemical data, blood pressure and physical activity between longevity and non-longevity districts in Japan. Circ J. 2008;72:1680-1684. IF 2.373

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：森田浩之，研究分担者：石塚達夫，宇野嘉弘；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：長寿と生活習慣－岐阜生活習慣調査・介入プロジェクト－；平成 16－19 年度；14,900 千円(7,600：4,000：1,900：1,400 千円)

2) 研究代表者：野方文雄，研究分担者：森田浩之，宇野嘉弘，飯田宏樹，飯田真美，横田康成，石塚達夫，清島満；知的クラスター創生事業－ロボテック先端医療クラスター－：医療診断支援システムの開発－動脈硬化解析・診断システム－；平成 17－20 年度 50,409 千円(9,500：20,000：7,500：13,409 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

1) 石塚達夫，森田浩之，宇野嘉弘，梶田和男，松原健治，松本雅美，池田貴英，森一郎：岐阜県内の長寿地域と非長寿地域での，身体および生活習慣(食事，運動等)の疫学的調査による原因の解明；平成 18 年度；2,000 千円：イセット(株)

2) 石塚達夫，森田浩之，宇野嘉弘，梶田和男，池田貴英，森一郎，藤岡圭，宮内ルミ子：流動食長期摂取によるメタボリック症候群の予防・改善効果；平成 19 年度；2,970 千円：森永乳業(株)

5. 発明・特許出願状況

1) 野方文雄，森田浩之，宇野嘉弘：補正装置(発明)；平成 19 年(特願 2006-003862)

6. 学会活動

1）学会役員

宇野嘉弘：

1) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)

川口順敬：

1) 日本乳癌学会評議員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

宇野嘉弘：

1) 平成 20 年度日本遠隔医療学会大会(平成 20 年 10 月，岐阜，シンポジウム「地域医療」座長)

川口順敬：

1) 乳癌学会東海地方会(平成 20 年 8 月，金沢，一般演題「化学療法」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

1） 宇野嘉弘，野方文雄：5 分で分かる血管年齢　岐阜大が検査システム開発：中日スポーツ(2006 年 5 月 31 日)

2） 宇野嘉弘，野方文雄：動脈硬化検査 5 分に短縮　岐阜大グループ開発：読売新聞(2007 年 1 月 15 日)

12. 自己評価

評価

平成19年11月に発足した当講座は,まだ開設間もないことから当講座オリジナルの業績は少ないが，今後は地域へき地総合医療分野として社会的な認知や独立性を考え，特色ある論文業績，研究を進めていきたい。

現状の問題点及びその対応策

まだ発足間もなく，研究立案，データ収集・解析，論文記載など研究に費やす時間がかなり不足しているのが現状である。当教室「地域へき地総合医療分野」の役割や魅力を充分に認識してもらえるように努力してゆく。社会的な認知度不足に対しては，今後学会での発表や論文化とともに，寄附講座として岐阜県と協力して地域医療活動に積極的に活動してゆく。

今後の展望

2008 年 4 月から，医学部地域枠入学生 10 人が入学，2009 年 4 月からは同新入生が 15 人に増員され入学してくることより，ますます当講座の教育における重要性が求められてくると考え，学生教育を中心に地域支援・臨床研究を推進してゆきたい。

また，全国的に新設されてきている各県の寄附講座である地域医療学講座とタイアップして多施設での共同研究を行い，全国的に地域医療の改善・発展に関与してゆきたい。

（14）保健管理センター（学内施設）

1. 研究の概要

肥満と生活習慣病，口腔内所見と生活習慣，学生の精神身体調査，大学生の健康実態調査などを中心に研究に取り組んでいる。学生支援 GP（新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム）により，「生涯健康教育の推進と健康支援の充実」のための科学的根拠を追求し，内外へ情報発信している。これを通じて地域貢献にも力を入れている。

2. 名簿

教授(併任)：	清水克時	Katuji Shimizu
教授：	山本眞由美	Mayumi Yamamoto
准教授：	田中生雅	Mika Tanaka
助教：	浅田修市	Syuichi Asada
助教：	佐渡忠洋	Tadahiro Sado

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 細江英夫．腰部脊柱管狭窄症の治療：清水克時編．これだけは知っておきたい 足腰の痛みの自己管理－腰部脊柱管狭窄症の理解のために－，大阪：医薬ジャーナル；2006 年：22－37.
2） 細江英夫，清水克時．脊柱側弯症：菊地臣一，中村利孝，越智光夫編．整形外科専門医をめざすための　経験すべき外傷・疾患 97，東京：メジカルビュー社；2006 年：127－133.
3） 山本眞由美．第Ⅰ節　健康診断：岐阜県大学保健管理研究会編．キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2006 年：8－11.
4） 山本眞由美．第Ⅴ節　感染症：岐阜県大学保健管理研究会編．キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2006 年：89－92.
5） 山本眞由美．付録 1　医療・福祉制度：岐阜県大学保健管理研究会編．キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2006 年：111－113.
6） 細江英夫．腰部脊柱管狭窄症の治療：清水克時編．ポケット版　これだけは知っておきたい　足腰の痛みの自己管理－腰部脊柱管狭窄症の理解のために－，大阪：医薬ジャーナル；2007 年：38－66.
7） 清水克時編著．腰椎変性すべり症－私のインフォームドコンセント：トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント，東京：金原出版；2007 年：212－213.
8） 中村正生，清水克時編著．腰部脊椎脊柱管狭窄症－診断と治療－：老年医学 update 2007-08，東京：メジカルビュー社；2007 年：14－24.
9） 青木隆明，清水克時編著．腰痛の運動療法：腰痛知る診る治す，東京：メジカルビュー社；2008 年：130－155.
10） 山本眞由美．第 7 章組織の活性化①人材管理：医療経営教育協議会編．医療マネジメント - 医療の質向上のための医療経営学 -，東京：日経メディカル開発；2008 年：148－169.
11） 山本眞由美．第 7 章組織の活性化③トータルクオリティマネジメント(TQM)：医療経営教育協議会編．医療マネジメント - 医療の質向上のための医療経営学 -，東京：日経メディカル開発；2008 年：191－205.

著書（欧文）

1） Shimizu K, Miyamoto K. Inflammatory diseases of the spine-juvenile rheumatoid arthritis. In: Surgery of the Pediatric Spine. New York: Thieme;2007:375-380.

総説（和文）

1） 清水克時．特集 手の痛みの診断と治療 序，痛みと臨床　2006 年；6 巻：1.
2） 金森康夫，清水克時．腰痛 急性腰痛と慢性腰痛，臨床と研究　2006 年；83 巻：12－15.
3） 清水克時．シンポジウム 腰部脊柱管狭窄症－最近の進歩－ 緒言，臨床整形外科　2006 年；41 巻：852.
4） 清水克時．日本脊椎脊髄病学会と北米脊椎関連学会との交流 －Spine Across the Sea 報告－，脊椎脊髄ジャーナル　2006 年；19 巻：1174－1175.
5） 清水克時．岐阜美濃自転車生活，整形外科　2006 年；57 巻：1798.
6） 山本眞由美．勤労者の糖尿病の病態と予防，恵那医師会だより　2006 年；50 巻：35－41.
7） 山本眞由美．予防接種について，岐大ひろば　2006 年；47 巻：8－10.
8） 清水克時．一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療，岐阜市医師会だより　2007 年；39 巻：25－27.
9） 福田章二，清水克時．脊椎骨髄炎の診断と治療，骨・関節・靭帯　2007 年；20 巻：455－461.
10） 清水克時．脊椎内視鏡下手術－基本手技から技術認定まで，整形外科　2007 年；58 巻：1656.
11） 清水克時．腰の痛み(腰部脊柱管狭窄症)を防ぐ，クック＆ライフ　2007 年；433 巻：8－9.
12） 山本眞由美．標準的な健診・保健指導プログラムの実施と糖尿病予防対策，恵那医師会だより　2007 年；55 巻：17－20.
13） 前原秀亮，清水克時．カルパインと変性性関節症，別冊整形外科〈変性性関節症－最近の知識〉　2008 年；

53 巻：38－41.
14） 松本守雄，千葉一裕，戸山芳昭，竹下克志，星地亜都司，中村耕三，有水　淳，藤林俊介，平林　茂，平野　徹，岩崎幹季，金岡恒治，川口善治，井尻幸成，前田　建，松山幸弘，三上靖夫，村上英樹，永島英樹，永田見生，中原進之介，野原　裕，岡　史朗，阪本桂造，猿橋康雄，笹生　豊，清水克時，田口敏彦，高橋　誠，田中靖久，谷　俊一，徳橋泰明，内田研造，山本謙吾，山崎正志，横山　徹，吉田宗人，西脇祐司．胸椎後縦靱帯骨化症に対する手術成績に影響を与える因子の検討－他施設後ろ向き研究－　誌上シンポジウム　胸椎後縦靱帯骨化症の治療－最近の進歩，臨床整形外科（別刷）　2008 年；43 巻：531－538.
15） 清水克時．頚椎症，OPLL の手術治療，名古屋：中部接骨学会誌　2008 年；89 巻：19.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫．頚椎後縦靱帯骨化症に対する新しい軸椎部後方除圧法，脊椎・脊髄神経手術手技　2006 年；8 巻：79－82.
2） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫，小原明．腰椎変性すべり症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術(cantilever－TLIF)の経験，中部整災誌　2006 年；49 巻：31－32.
3） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．骨粗鬆症性骨折に対する脊椎短縮術の術後経過，中部整災誌　2006 年；49 巻：967－968.
4） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．頚椎後縦靱帯骨化症に対する術式選択，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2006 年；17 巻：525.
5） 田中領，大野貴敏，大野義幸，清水克時，西本裕，廣瀬善信，松永研吾．末節骨骨腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2006 年；18 巻：43－44.
6） 鈴木直樹，金森康夫，杉山誠一，細江英夫，清水克時．上位腰椎椎間板ヘルニア後方摘出術後に前方固定を要した 1 例，東海脊椎外科　2006 年；20 巻：5－9.
7） 鈴木直樹，金森康夫，杉山誠一，細江英夫，清水克時．腰椎変性側弯に前方固定を行った 2 症例，東海脊椎外科　2006 年；20 巻：102－108.
8） 清水克時，細江英夫，杉山誠一，若林　英，野々村諭香．Informed Consent の実際，日整会誌　2006 年；80 巻：33－34.
9） 増田剛宏，清水克時．感染性脊椎炎に対する脊椎インスツルメンテーション手術，Orthopaedics　2006 年；19 巻：25－32.
10） 野澤　聡，清水克時．スポーツ選手における腰椎分離症に対する手術療法－segmental wire fixation 法－，Orthopaedics　2006 年；19 巻：15－21.
11） 伏見一成，清水克時．変形性関節症軟骨におけるカルパインの発現，岐阜県医師会医学雑誌　2006 年；19 巻：81－84.
12） 松本　和，伊藤芳毅，糸数万正，武内章二，清水克時．陳旧性剥離骨片により生じた膝蓋骨亜脱臼の 1 例，整形外科　2006 年；57 巻：1623－1625.
13） 松本　和，伊藤芳毅，福田　雅，糸数万正，清水克時．Smith-Petersen 進入法が有用であった人工股関節再置換術の 2 例，Hip Joint 別刷　2006 年；32 巻：411－414.
14） 青木隆明，寺島宏明，糸数万正，清水克時，丹羽政美，小野塚實．腰部脊柱管狭窄症患者の経口 PGE1 誘導体製剤投与におけるトレッドミル評価，新薬と臨床　2006 年；55 巻：74－76.
15） 大野義幸，平川明弘，清水克時．手関節結核の手術治療の経験，日本骨・関節感染症学会雑誌　2006 年；20 巻：29－31.
16） 大野義幸，平川明弘，清水克時．末節骨が露出した指尖部皮膚欠損に対する遊離皮弁移植の経験，日本手の外科学会雑誌　2006 年；23 巻：209－212.
17） 御田村相模，長瀬江利，本多恭子，田中生雅，浅田修市，武田純，山本眞由美．岐阜大学における禁煙対策の有効性の検討－ニコチンパッチの学生無償提供を試みて－，Campus Health　2006 年；43 巻：160.
18） 本多恭子，御田村相模，長瀬江利，田中生雅，浅田修市，牧田浩樹，土井田誠，柴田敏之，武田純，山本眞由美．大学生の口腔健診結果の検討，Campus Health　2006 年；43 巻：211.
19） 長瀬江利，御田村相模，本多恭子，田中生雅，浅田修市，武田純，山本眞由美．大学生の頭痛の実態調査－管理指導体制に関する検討－，Campus Health　2006 年；43 巻：238.
20） 田中生雅，梶川幸世，本多恭子，御田村相模，長瀬江利，植木啓文，武田純，山本眞由美．UPI と GHQ60 の同時調査結果より，学生健康調査における UPI 有用性の検討，Campus Health　2006 年；43 巻：269.
21） 山本眞由美，武田純，紀ノ定保臣．糖尿病診療の新時代と IT－全機種の自己血糖測定器のデータを岐阜大学病院の電子カルテ上で運用させる試み，肥満と糖尿病　2006 年；5 巻：47－51.
22） 田中生雅，山本眞由美．大学生活とメンタルヘルスサポート－2005 年岐阜大学定期健康診断時 UPI 調査より考察，ぎふ精神保健福祉　2006 年；42 巻：47－52.
23） 山本眞由美．岐阜県における糖尿病対策の取り組みについて－糖尿病のマネージメントを中心に，岐阜県医師会医学雑誌　2006 年；19 巻：63－68.
24） 岡安伸二，武田純，山本眞由美．インスリンの安全管理体制改善を目的とした院内標準書の作成とその評価，プラクティス　2006 年；23 巻：464－468.
25） 田中生雅．心気障害に対して，バイオフィードバック法を併用した受動的音楽療法が有効であった一症例，岐阜県医師会医学雑誌　2006 年；19 巻：95－99.

26） 大島康司，三宅智，清水克時，大野貴敏，西本裕．骨原発血管肉腫の一剖検例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；3 巻：463－464.
27） 福田章二，大野貴敏，西本裕，清水克時．足背に発生した石灰化を伴った巨大な血管平滑筋腫の一例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；3 巻：515－516.
28） 永野昭仁，大野貴敏，西本裕，山田一成，清水克時．骨外性骨肉腫の 1 剖検例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；3 巻：525－526.
29） 大野貴敏，大島康司，清水克時，西本裕．人工骨を用いた良性骨腫瘍の術後成績，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；4 巻：627－628.
30） 横田治，大野貴敏，大野義幸，清水克時，西本裕，廣瀬善信，松永研吾．大腿軟部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2007 年；19 巻：1－2.
31） 大島康司，斉藤満，大野義幸，清水克時，大野貴敏，西本裕，高見秀一郎，松永研吾，廣瀬善信．左殿部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2007 年；19 巻：37－38.
32） 大野義幸，平川明弘，清水克時．抑制帯により発生した手に限局した阻血性拘縮の 1 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：861－862.
33） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術，中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：353－354.
34） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．頚部脊髄症手術の合併症－前方法，後方法の比較－　中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：579－580.
35） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．骨粗鬆症性椎体骨折に対するネスプロンケーブルを使用した脊椎短縮術，日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　2007 年；6 巻：25－28.
36） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男，福田章二．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2007 年；18 巻：223.
37） 青木隆明，渡辺和子，丹羽政美，藤田雅文，糸数万正，清水克時，小野塚實．functionalMRI が有用であった慢性期脳梗塞片麻痺の 1 症例，J Clin Rehabil　2007 年；6 巻：558－561.
38） 石丸大地，大野貴敏，小川寛恭，西本裕，清水克時．後頚部に発生した infantile fibromatosis の一例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：90－91.
39） 松本　和，糸数万正，伊藤芳毅，福田　雅，川井　豪，清水克時．透析患者に対する人工股関節手術の周術期合併症，整形外科　2007 年；58 巻：511－515.
40） 青木隆明，渡辺和子，丹羽政美，藤田雅文，糸数万正，清水克時，小野塚　実．Functional MRI が有用であった慢性期脳梗塞片麻痺の 1 症例，J Clin Rehabil　別刷　2007 年；16 巻：558－561.
41） 田中　領，佐藤正夫，竹村正男，四戸隆基，斉藤邦明，清水　克時，清島　満．関節リウマチに対する生物学的製剤治療とトリプトファン代謝について，中部リウマチ　別刷　2007 年；38 巻：12－13.
42） 久島泰仁，石井光一，清水克時，佐々木晃，山本憲司，武内章二，日比野光男，楊　中仁，清水敏人，大橋勉，臼井正明，菱田　豊，今井秀治，常田昌弘，鈴木誉，平松哲，益田和明，尾下佳史，福田雅，上村修一，渡辺数人，森健太郎，羽場理彦，西堀弘記．原発性骨粗鬆症に対するリセドロネートとビタミン K2 の併用効果に関する多施設共同研究－1 年経過症例の中間解析－，Osteoporosis Japan　2007 年；15 巻：104－107.
43） 永野昭仁，鈴木直樹，金森康夫，細江英夫，清水克時．急性骨髄性白血病化学療法中に発症した脊椎骨髄炎の 1 例，整形外科　2007 年；58 巻：1699－1702.
44） 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．骨粗鬆症性椎体骨折に対するネスプロンケーブルを使用した脊椎短縮術，日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　2007 年；6 巻：25－28.
45） 山本真由美．地域医療連携と生活指導の介入，内分泌・糖尿病科　2007 年；24 巻：32－37.
46） 山本真由美，武田純，紀ノ定保臣．SMBG データの電子カルテ上での運用は？－自己血糖測定器のデータを電子カルテ上で運用させる試みについて教えてください－，肥満と糖尿病「IT でどこまでわかるか？」2007 年；6 巻：475－477.
47） 山本眞由美，御田村相模，長瀬江利，田中生雅，浅田修市，佐橋文仁，牧田浩樹，土井田誠，柴田敏之，武田純．岐阜大学生に歯科健康診断を実施して，Campus Health　2007 年；44 巻：109－114.
48） 本多恭子，佐橋文仁，御田村相模，長瀬江利，臼井るり子，田中生雅，牧田浩樹，土井田誠，柴田敏之，武田純，山本眞由美．大学生における口腔の健康状態と生活習慣との関連について，学校保健研究　2007 年；49 巻：112－116.
49） 山本眞由美，田中生雅，武田純，黒木登志夫．大学の学生・職員全員に施行した敷地内全面禁煙に関する無記名自記式調査，禁煙科学　2007 年；1 巻：10－15.
50） 山本眞由美，田中生雅，武田純，黒木登志夫．大学職員の喫煙者を対象に実施した喫煙の実態調査－敷地内全面禁煙施行 2 年を経過して－，禁煙科学　2007 年；1 巻：18－24.
51） 臼井るり子，田中生雅，佐橋文仁，御田村相模，長瀬江利，武田純，山本眞由美．健康診断の質の向上を目指して－学生の受診満足度の観点から－，Campus Health　2007 年；44 巻：125.
52） 佐橋文仁，田中生雅，御田村相模，長瀬江利，臼井るり子，武田純，山本眞由美．学生，職員全員に施行した学内禁煙のアンケート調査－敷地内禁煙実施 2 年を経過して－，Campus Health　2007 年；44 巻：149.
53） 田中生雅，梶川幸世，本多恭子，御田村相模，長瀬江利，臼井るり子，武田純，山本眞由美．学生生活で求められる保健管理センター－メンタルヘルスサポートの役割に関する検討－，Campus Health　2007

年；44 巻：196.

54) 梶川幸世，田中生雅，川島恵子，川辺敬子，佐橋文仁，御田村相模，長瀬江利，武田純，山本眞由美．UPI 得点と生活習慣調査の関連について，Campus Health　2007 年；44 巻：198.

55) 中村正生，清水克時．腰下肢痛を伴う骨粗鬆症症例に対する日本語版 Roland－Morris　Disability Questionnaire を用いた QOL 評価－エルカトニン製剤投与下での疼痛に関連する QOL 改善についての検討－，Osteoporosis Japan (別刷)　2008 年；16 巻：207－215.

56) 山本眞由美，紀ノ定保臣，高塚直能．医療専門職のマネジメント教育における IT 活用の可能性，新医療 2008 年；35 巻：54－57.

57) 田中生雅，梶川幸世，御田村相模，長瀬江利，小出浩之，武田純，山本眞由美．岐阜大学大学生メンタルヘルス相談の変遷と最近の動向－岐阜大学保健管理センターアンケート調査および学生の健康白書 2005(本学結果)より－，岐阜大学医学部紀要　2008 年；55 巻：43－50.

58) 岡安伸二，下田浩欣，紀ノ定保臣，武田純，山本眞由美．インスリンの安全管理に関する電子カルテ機能の有用性と問題点，肥満と糖尿病「Chronic illness としての糖尿病の自己管理」2008 年；7 巻：28－35.

59) 山本眞由美，川出靖彦，戸谷理英子，武田純，梅本敬夫，紀ノ定保臣．岐阜県医師会病診連携システムにおける，糖尿病病診連携サポートシステムの試作，肥満と糖尿病「Chronic illness としての糖尿病の自己管理」　2008 年；7 巻：56－61.

60) 下田浩欣，岡安伸二，紀ノ定保臣，武田純，山本眞由美．電子カルテ情報から分析する大学病院の糖尿病病棟患者の特徴分析の試行～業務を可視化する有用性について～，肥満と糖尿病「Chronic illness としての糖尿病の自己管理」　2008 年；7 巻：89－93.

61) 山本眞由美，武田純，紀ノ定保臣．糖尿病の遠隔病診連携を支援する岐阜県医師会病診連携システム構築の報告，日本遠隔医療学会雑誌　2008 年；4 巻：325－327.

62) 長瀬江利，御田村相模，田中生雅，武田純，山本眞由美．大学生を対象に実施した頭痛実態調査，学校保健研究　2008 年；50 巻：264－269.

63) 佐渡忠洋．イメージ豊かな女子高校 2 年生との関わり - セラピストとしてのイニシエーション - ，岐阜大学心理教育相談研究　2008 年；7 巻：31－40.

64) 佐渡忠洋，鈴木壯．競技者の自我の強さと自我境界の検討 - ロールシャッハ法による一般学生との比較から - ，臨床心理身体運動学研究　2008 年；10 巻：1－10.

65) 田中生雅，梶川幸世，御田村相模，長瀬江利，浅田修市，山本貴子，武田純，山本眞由美．大学生のうつ病に関する学習機会と保健管理センター利用に関する検討, Campus Health　2008 年；45 巻：295－297.

66) 山本眞由美，田中生雅，梶川幸世，川島恵子，川辺敬子，御田村相模，長瀬江利，山本貴子，武田純．歯科相談・肥満指導・学生相談等の業務ニーズのある学生における UPI 得点の特徴について, Campus Health 2008 年；45 巻：268－270.

原著（欧文）

1) Hosoe H, Miyamoto K, Wada E, Shimizu K. A surgical treatment of scoliosis in Larsen's syndrome with bilateral hip dislocation- A case report. Spine. 2006;31:E302-306.　IF 2.499

2) Morita M, Banno Y, Dohjima T, Nozawa S, Fushimi K, Fan D, Ohno T, Miyazawa K, Liu N, Shimizu K. μ-Calpain is involved in the regulation of TNF-α-induced matrix metalloproteinase-3 release in a rheumatoid synovial cell line. Biochem Biophys Res Commun. 2006;343:937-942.　IF 2.749

3) Ohnishi K, Miyamoto K, Hashimoto K, Hosoe H, Shimizu K. Surgical Treatment for Atlantoaxial Subluxation Associated With Mixed Connective Tissue Disease. Orthopedics. 2006;29:369-370.　IF 0.581

4) Masuda T, Miyamoto K, Shimizu K. Intramuscular hemodynamics in bilateral erector spinase muscles in symmetrical and asymmetrical postures with and without loading. Clin Biomecha. 2006;21:245-253.　IF 1.642

5) Matsumoto K, Kamiya N, Suwan K, Atsumi F, Shimizu K, Shinomura T, Yamada Y, Kimata K, Watanabe H. Identification and Characterization of Versican/PG-M Aggregates in Cartilage. J Biol Chem. 2006;281:18257-18263.　IF 5.581

6) Yoshida M, Kida K, Kodama H, Itokazu M, Shimizu K. Calcitonin treatment for calcifying tendinitis of the shoulder. J Orthopaed Traumatol. 2006;7:6-11.

7) Masuda T, Miyamoto K, Hosoe H, Sakaeda H, Tanaka M, Shimizu K. Surgical treatment with spinal instrumentation for pyogenic spondylodiscitis due to menthicillin-resistant Staphylococcus aureus(MRSA): a report of five cases. Arch Orthop Trauma Surg. 2006;126:339-349.　IF 0.913

8) Kamiya N, Watanabe H, Habuchi H, Takagi H, Shinomura T, Shimizu K, Kimata K. Versican/PG-M Regulates Chondrogenesis as an Extracellular Matrix Molecule Crucial for Mesenchymal Condensation. J Biol Chem. 2006;281:2390-2400.　IF 5.581

9) Matsumoto K, Wakahara K, Sumi H, Shimizu K. Central Cord Syndrome in Patients With Klippel-Feil Syndrome Resulting From Winter Sports. Am J Sports Med. 2006;34:1685-1689.　IF 3.397

10) Wakahara K, Matsumoto K, Sumi H, Sumi Y, Shimizu K. Traumatic Spinal Cord Injuries From Snowboarding. Am J Sports Med. 2006;34:1670-1674.　IF 3.397

11) Ogawa H, Itokazu M, Ito Y, Fukuta M, Shimizu K. The therapeutic outcome of minimally invasive synovectomy assisted witharthroscopy in the rheumatoid knee. Mod Rheumatol. 2006;16:360-363.

12) Matsumoto K, Itokazu M, Uemura S, Takigami I, Naganawa T, Shimizu K. Successful joint arthroplasty after treatment of destructive MRSA arthritis of the knee using antibiotic-loaded hydroxyapatite blocks: a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2006;127:47-50.　IF 0.913

13) Ogawa H, Itokazu M, Ito Y, Fukuta M, Simizu K. An unusual meniscal ganglion cyst that triggered recurrent hemarthrosis of the knee. Arthroscopy. 2006;22:455.e1-4. IF 2.296
14) Ohara A, Miyamoto K, Naganawa T, Matsumoto K, Shimizu K. Sagittal alignment of the cervical spine: comparison of five standard methods of measurement. Spine. 2006;31:2585-2591. IF 2.499
15) Fushimi K, Miyamoto K, Nishimoto H, Hosoe H, Kodama H, Shimizu K. Clinical outcomes of multilevel anterior corpectomy and fusion as a revision surgery of the cervical spine. Report of seven cases. Spinal Cord. 2006;44:449-456. IF 1.578
16) Sasaki T, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Transoral Anterior Approach Used for Extensive Anterior Decompression of C3 Vertebrae Level in a Patient with Severe Atlantoaxial Vertical Subluxation and Rheumatoid Arthritis - A Case Report. Spinal Cord. 2006;44:52-55. IF 1.578
17) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata T, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-21. IF 0.913
18) Aoki T, Terashima H, Itokazu M, Miyamoto K, Shimizu K. Stimulation of Music Prolonged Disturbance of Consciousness Patients in Early Rehabilitation. J Saitama Kenou Rehabilitation. 2007;7:50-53.
19) Ogawa H, Nishimoto H, Hosoe H, Suzuki N, Kanamori Y, Shimizu K. Clinical outcome after segmental wire fixation and bone grafting for repair of the defects in multiple level lumbar spondylolysis. J Spinal Disord Tech. 2007;20:521-525. IF 1.303
20) Nagano A, Miyamoto K, Fushimi K, Hosoe H and Shimizu K. Failure of reconstruction surgery using anterior fibular strut grafting for postlaminectomy kyphosis A case report. J Clin Neurosci . 2007;14:376-379. IF 0.801
21) Inoue T, Miyamoto K, Kodama H, Hosoe H and Shimizu K. Total spondylectomy for treatment of a symptomatic hemangioma of the lumbar spine - A case report. J Clin Neurosci. 2007;14:806-809. IF 0.801
22) Yamada K, Miyamoto K, Hosoe H, Mizutani M and Shimizu K. Scoliosis associated with Prader-Willi syndrome A case report. Spine J. 2007;7:345-348.
23) Miyamoto K, Shimizu K, Matsumoto S, Sumida H, Iida H and Hosoe H. Surgical treatment of scoliosis associated with central core disease: Minimizing the effects of malignant hyperthermia with provocation tests - Report of a case -. J Pediatric Orthop B. 2007;16:239-242. IF 0.619
24) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata Y, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-521. IF 0.913
25) Fushimi K, Nakashima S, You F, Takigawa M, Shimizu K. Prostaglandin E2 Downregulates TNF-α-Induced Production of Matrix Metalloproteinase-1 in HCS-2/8 Chondrocytes by Inhibiting Raf-1/MEK/ERK Cascade Through EP4 Prostanoid Receptor Activation. J Cell Biochem. 2007;100:783-793. IF 3.381
26) Maehara H, Suzuki K, Sasaki T, Oshita H, Wada E, Inoue T , Shimizu K. G1-G2 Aggrecan Product that can be Generated by M-calpain on Truncationat 709-Ala710 is Present Abundantly in Human Articular Cartilage. J Biochem. 2007;141:469-477. IF 2.020
27) Takeuchi A, Yamamoto Y, Tsuneyama K, Cheng C, Yonekura H, Watanabe T, Shimizu K, Tomita K, Yamomoto H, Tsuchiya H. Endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts as a novel prognostic marker in chondrosarcoma. Cancer. 2007;9:2532-2540. IF 4.632
28) Ogawa H, Nishimoto H, Hosoe H, Suzuki N, Kanamori Y, Shimizu K. Clinical outcome after segmental wire fixation and bone grafting for repair of the defects in multiple level lumbar spondylolysis. J Spinal Disord Tech. 2007;20:521-525. IF 1.303
29) Matsumoto K, Itokazu M, Uemura S, Takigami I, Naganawa T, Shimizu K. Successful joint arthroplasty after treatment of destructive MRSA arthritis of the knee using antibiotic-loaded hydroxyapatite blocks -a case report-. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:47-50. IF 0.913
30) S Kuriyama, Y Miwa, H Fukushima, H Nakamura, K Toda, M Shiraki, M Nagaki, M Yamamoto, E Tomita, H Moriwaki. Prevalence of diabetes and incidence of angiopaathy in patients with chronic viral liver disease. J Clin Biochem Nutr. 2007;40:116-122. IF 0.630
31) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Two-staged decompression for thoracic paraparesis due to the combined ossification of the posterior longitudinal ligament and the ligamentum flavum a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:175-177. IF 0.913
32) Yamamoto T,Inoue N, Miyamoto K, Sugiyama S, Nozawa S, Hosoe H, Shimizu K. Segmental wire fixation for lumbar spondylolysis associated with spina bifida occulta. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1177-1182. IF 0.913
33) Hashimoto K, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Kikuike K, Shimokawa K, Suzuki N, Matsuo M, Kodama H, Shimizu K. Solitary fibrous tumor in the cervical spine with destructive vertebral involvement:A case report and review of the literature. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1111-1116. IF 0.913
34) Takigami I, Itoh Y, Itokazu M, Shimizu K. Radio-opaque marker of a surgical sponge appearing as an intra-articular foreign body after total hip arthroplasty. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1167-1168. IF 0.913

35) Chi D, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Ohnishi K, Suzuki N, Sumi H, Shimizu K. Symptomatic lumbar mobile segment with spinal canal stenosis in fused spine associated with diffused idiopathic skeletal hyperostosis A case report. Spine J. 2008;8:1019-1023.
36) Hioki A, Ohnishi K, Miyamoto K, Hosoe H and Shimizu K. Spondylolysis of the second lumbar vertebra treated with segmental wiring and bone grafting:a case report. Orthopaedics. 2008;31:287. IF 0.581
37) Terabayashi N, Miyamoto K, Sasaki H, Hosoe H, Shimizu K. Multiple steroid-induced vertebral fracture with paraparesis associated with Wegener's granulomatosis treated with posterior spinal instrumentation. Journal of Neurological Sciences(Turkish). 2008;25:67-71.
38) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Fukuta S, Shimizu K. Two-stage decompression for combined epiconus and cauda equina syndrome due to multilevel spinal canal stenosis of the thoracolumbar spine-a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:955-958. IF 0.913
39) Kawaguchi A, Chiba K, Tanimura Y, Motohashi T, Aoki H, Takeda T, Hayashi S, Shimizu K and Kunisada T. Isolation and characterization of Kit-independent melanocyte precursors induced in the skin of Steel factor transgenic mice. Dev Growth Differ. 2008;50:63-69. IF 1.908
40) Shinohe R. Sato M, Takemura M, Shimizu K, Koishi H, Tanaka R, Saito K, Seishima M. Cytokine profiles in mice with arthritis induced by anti-type Ⅱ collagen monoclonal antibody plus lipopolysaccharide. Japanese Journal of Clinical Chemistry. 2008;37:53-62.
41) Hirakawa A, Miyamoto K, Ohno Y, Hioki A, Ogawa H, Nishimoto H, Yokoi H, Shimizu K. Two-stage (posterior and anterior) surgical treatment of spinal osteomyelitis due to antypical mycobacteria and associated thoracolumbar kyphoscoliosis in a nonimmunocompromised patient. Spine. 2008;33:E221-224. IF 2.499
42) Takigami I, Itokazu M, Itoh Y, Matsumoto K, Yamamoto T, Shimizu K. Limb-length measurement in total hip arthroplasty using a calipers dual pin retractor. Bulletin of the NYU Hospital for Joint Diseases. 2008;66:107-110.
43) Matsumoto M, Chiba K, Toyama Y, Takeshita K, Seichi A, Nkamura K, Arimizu J, Fujibayashi S, Hirabayashi S, Hirano T, Iwasaki M, Kaneoka K, Kawaguchi Y, Ijiri K, Maeda T, Matsuyama Y,Mikami Y, Murakami H, Nagashima H, Nagata K, Nakahara S, Nohara Y, Oka S, Sakamoto K, Saruhashi Y, Sasao Y, Shimizu K, Taguchi T, Takahashi M, Tanaka Y, Tani T, Tokuhashi Y, Uchida K, Yamamoto K, Yamazaki M, Yokoyama T, Yoshida M,and Nishiwaki Y. Surgical results and related factors for ossification of prosterior longitudinal ligament of the thoracic spinea multi-institutional retrospective study. Spine. 2008;33:1034-1041. IF 2.499
44) Miyamoto K, Iinuma N, Ueki S, Shimizu K. Effects of abdominal belts on the cross-sectional shape of the trunk during intense contraction of the trunk muscles observed by computer tomography. Clin Biomech (Bristol, Avon). 2008;23:1220-1226. IF 1.642

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：中村耕三，研究分担者：清水克時；厚生労働科学研究費補助金：脊椎柱靭帯骨化症に関する調査研究；平成 17－18 年度；1,300 千円(500：800 千円)
2) 研究代表者：山本眞由美；（財)岐阜県健康長寿財団研究事業助成金：青年期における肥満者対策のための調査研究；平成 17－18 年度；700 千円(350：350 千円)
3) 研究代表者：山本眞由美，研究分担者：武田純，田中生雅，大庭志野；科学研究補助金基盤研究(C)：大学生の肥満と体質の関係調査：将来の生活習慣病の発症を予防するために；平成 17－19 年度；3,640 千円(1,200：1,400：1,040 千円)
4) 研究代表者：山本眞由美，研究分担者：川岸與志男；岐阜大学活性化経費(教育)：健康科学・保健体育(全学共通教育)；平成 18 年度；500 千円
5) 研究代表者：山本眞由美；岐阜大学技術交流研究会活動支援費：自己血糖測定値を電子カルテ上で運営するシステム開発；平成 18 年度；150 千円
6) 研究代表者：山本眞由美；岐阜県医師会勤務医部会研究助成金：岐阜県の大学生の肥満に関する実態調査－将来の健康障害を防ぐための青年期の健康サポートはどうあるべきか－；平成 18 年度；300 千円
7) 総括事業代表者：山本容正(大阪大学)，総括副代表者：山本眞由美(岐阜大学)；研究担当者：紀ノ定保臣，高塚直能，梅村将夫：経済産業省「医療経営人材育成プロジェクト」医療経営人材育成プログラム開発プロジェクト；平成 18 年度；5,000 千円
8) 研究代表者：山本眞由美，研究分担者：紀ノ定保臣，武田純；岐阜大学産官学融合センター重点研究助成：自己測定健康管理データを電子カルテ上で運用するシステムの開発；平成 18－20 年度；2,150 千円(1,000：650：500 千円)
9) 研究代表者：中村耕三(東京大学)，研究分担者：清水克時；厚生労働科学研究費補助金：脊柱靭帯骨

化症に関する調査研究；平成 19 年度；1,000 千円

10） 研究代表者：山本眞由美；(財)岐阜県健康長寿財団研究事業助成金：青年期における肥満者減少の調査研究；平成 19 年度；350 千円

11） 研究代表者：山本眞由美；経済産業省「医療経営人材育成事業におけるケーススタディ教材開発プロジェクト」：高度医療教育コンソーシアム　医療経営教育実証プロジェクト；平成 19 年度；2,380 千円

12） 研究代表者：速水悟，研究分担者：山本眞由美；財団法人岐阜県研究開発財団平成 19 年度知的クラスター創成事業：医療診断支援システムの開発‐マルチモーダル医療診断支援システムの開発‐；平成 19 年度；2,820 万円

13） 研究代表者：田中生雅，研究分担者：山本眞由美；岐阜大学活性化経費(研究)：大学生のメンタルヘルスに関する追跡調査−精神医療機関利用と修学状況について−(環境，教育)；平成 19 年度；1,000 千円

14） 研究代表者：山本眞由美，研究分担者：川岸與志男；岐阜大学活性化経費(教育)：健康科学・全スポーツ演習(全学共通教育)；平成 19－20 年度；1,000 千円(500：500 千円)

15） 事業推進代表者：森秀樹，事業推進責任者：古田善伯，実行委員：山本眞由美，田中生雅；新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム：生涯健康を目指した学生健康支援プログラム；平成 19－20 年度；48,972 千円

16） 研究代表者：前田利之(阪南大学経営情報学部)，研究分担者：山本眞由美；科学研究費補助金基盤研究(A)：医療組織で携帯端末の活用による医療リスク防止のための研究；平成 19－21 年度；15,860 千円

17） 研究代表者：山本眞由美；岐阜大学活性化経費(地域連携：一般)：岐阜県における大学保健管理業務ならびに研究の発展プロジェクト；平成 20 年度；1,000 千円

18） 主研究担当者：速水悟，分担研究者：山本眞由美；財団法人岐阜県研究開発財団平成 20 年度知的クラスター創成事業：医療診断支援システムの開発－マルチモーダル医療診断支援システムの開発－；平成 20 年度；29,819 千円

19） 研究代表者：武田純，研究分担者：山本眞由美；厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)：循環器リスクと耐糖能障害の効率的な健診マーカーの探索；平成 20－23 年度；18,945 千円

2）受託研究

1） 山本眞由美：自己測定健康管理データを電子カルテ上で運用するシステムの開発；平成 18 年度；1,000 千円：PBJ 株式会社

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

清水克時：

1） 日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 18 年 5 月～現在)
2） 日本手の外科学会評議員(平成 18 年 5 月～現在)
3） member scientific committee of inspiration　6th INSPIRATION MEETING(2006.10.13~10.14)
4） 日本整形外科学会第 19 回専門医試験口頭試験委員(平成 18 年 10 月 18 日)
5） 第 5 回整形外科長良リバーサイドフォーラム代表世話人(平成 19 年 1 月 20 日)
6） 日本脊椎脊髄病学会評議員(平成 19 年 4 月～現在)
7） 日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 19 年 5 月)
8） 日本脊椎脊髄病学会指導医制度検討委員会委員(平成 19 年 6 月)
9） 日本脊椎脊髄病学会国際委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
10） 日本脊椎脊髄病学会倫理委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
11） 日本脊椎脊髄病学会財務委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)

12） Fighting Vascular Events in Gifu 平成 19 世話人(平成 19 年 6 月 9 日)
13） 第 37 回日本脊椎脊髄病学会プログラム委員(平成 19 年 10 月～平成 20 年 4 月)
14） 日本整形外科学会第 20 回専門医試験口頭試験委員(平成 19 年 10 月 24 日)
15） 第 1 回東海静脈血栓塞栓症(VTE)予防ネットワークシンポジウム世話人(平成 19 年 12 月 8 日)
16） 平成 20 年度日本手の外科学会評議員(平成 20 年 5 月～現在)
17） 平成 20 年度日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 20 年 5 月～現在)
18） 日本整形外科学会筋骨格系 TAG 組織委員会委員(平成 20 年 11 月～現在)
19） 日本整形外科学会第 21 回専門医試験口頭試験委員(平成 20 年 10 月～現在)

山本眞由美：
1） 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)
2） 日本内分泌学会代議員(～現在)
3） 日本臨床栄養学会評議員(～現在)
4） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
5） 日本油化学会東海支部常任幹事(～現在)
6） 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)
7） 東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会実行委員会委員(平成 18 年度)
8） 油化学会講演会「機能性食品の科学と展望」日本油化学会担当幹事(平成 18 年度)
9） 日本静脈経腸栄養学会 TNT 岐阜研修会実行委員(平成 19 年度)
10） 平成 20 年度全国大学保健管理協会東海北陸地方部会実行委員(平成 20 年度)
11） 全国大学保健管理研究会評議員(平成 20 年 12 月～現在)

田中生雅：
1） 平成 18 年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会実行委員長(平成 18 年度)
2） 平成 19 年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会実行委員(平成 19 年度)
3） 平成 20 年度全国大学保健管理協会東海北陸地方部会実行委員(平成 20 年度)
4） 平成 20 年度メンタルヘルス研究協議会運営委員(平成 20 年度)

佐渡忠洋：
1） 日本臨床心理身体運動学会第 11 回大会実行委員(浜松大学)(平成 19 年 1 月～平成 20 年 1 月)

2）学会開催

清水克時：
1） 第 8 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2006(平成 18 年 7 月，岐阜)
2） 第 9 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2007(平成 19 年 7 月，岐阜)
3） 第 10 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2008(平成 20 年 7 月，岐阜)

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

清水克時：
1） 岐阜県医師会健康スポーツ医学研修会(平成 18 年 1 月，岐阜，特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症」演者)
2） 岐阜県外傷救命救急セミナー(平成 18 年 1 月，岐阜，特別講演「現代の高度外傷医療」座長)
3） 沖縄腰痛・下肢痛フォーラム 2006(平成 18 年 1 月，沖縄，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
4） 宮崎県腰部脊柱管狭窄症フォーラム(平成 18 年 2 月，宮崎，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
5） 第 16 回福島県整形外科医の集い(平成 18 年 2 月，福島，特別講演「脊椎インストゥルメンテーションによる変形矯正」演者)
6） 腰痛・下肢痛疾患フォーラム in 熊本(平成 18 年 2 月，熊本，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
7） 岐阜県臨床整形外科医会講演会(平成 18 年 3 月，岐阜，特別講演「小児の脊柱変形」演者)

8) 第 392 回岩手整形災害外科懇談会(平成 18 年 4 月，岩手，特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
9) 第 35 回開放型病床カンファレンス(平成 18 年 4 月，岐阜，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
10) 第 79 回日本整形外科学会学術総会(平成 18 年 5 月，神奈川，教育研修講演「肩こりの医学」座長)
11) 第 8 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 18 年 5 月，岐阜，特別講演「変形性関節症の病態と治療」座長)
12) 腰痛セミナーin 城南(平成 18 年 6 月，東京，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
13) 群馬県腰・足のしびれ痛みセミナー(平成 18 年 6 月，群馬，特別講演「腰部治療の病診連携」演者)
14) 筑後臨床整形外科医会学術講演会(平成 18 年 7 月，福岡，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
15) 第 33 回スポーツ医学研修会(平成 18 年 8 月，東京，特別講演「脊柱，胸・腰椎の外傷と障害」演者)
16) 腰痛・下肢痛疾患フォーラム熊本(平成 18 年 9 月，熊本，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
17) オステオポローシスセミナー(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症性脊椎骨折の治癒過程からみた戦略的保存・手術治療の実際と展望」座長)
18) 骨粗鬆症最新講演会(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症のグローバルスタンダードと我国の現状」座長)
19) 岐阜県腰痛フォーラム(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
20) 第 107 回中部日本整形外科災害外科学会(平成 18 年 10 月，兵庫，「骨粗鬆症性圧迫骨折に対する治療」座長)
21) 阪神 LCS フォーラム(平成 18 年 10 月，兵庫，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
22) 第 5 回岐阜リハビリテーション研究会(平成 18 年 11 月，岐阜，特別講演「筋力増強効果のエビデンス」座長)
23) 第 87 回和歌山臨床整形外科医会研修会(平成 18 年 11 月，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
24) 第 34 回東海地区整形外科教育研修会(平成 18 年 11 月，愛知，特別講演「股関節と脊椎における手術手技の工夫と実際」座長)
25) プライマリ・ケアセミナー(平成 18 年 12 月，京都，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)
26) 腰痛疾患セミナー2006(平成 18 年 12 月，滋賀，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
27) 第 8 回 Latest Orthopedics 研究会(平成 18 年 12 月，岡山，特別講演「脊椎骨髄炎の診断と治療」演者)
28) 第 166 回福山外科会(平成 18 年 12 月，広島，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
29) 第 5 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「ピットホールに嵌らない足疾患・外傷の見方」座長)
30) 第 6 回岐阜骨粗鬆症フォーラム(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「高齢者における服薬指導の実践～骨粗鬆症治療薬を中心に～」座長)
31) 韓日脊椎外科懇話会(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「韓国における脊椎外科トピックス」座長)
32) 2 月内科会(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療」演者)
33) 第 5 回七隈 LCS セミナー(平成 19 年 2 月，福岡，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
34) 第 3 回岐阜運動器プライマリーケアセミナー(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「日常遭遇する軟部腫瘍－診療の要点と盲点－」座長)
35) 函館整形外科会学術講演会(平成 19 年 3 月，函館，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
36) 第 10 回岐阜脊椎セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「脊椎骨髄炎の診断と治療」演者)
37) Medical Tribune プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，名古屋，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)
38) プライマリ・ケアセミナー(平成 19 年 3 月，名古屋，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)
39) 自転車による健康づくり講演会(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「自転車と健康」演者)
40) 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「頚椎疾患の病診連携－たかが肩こり，されど肩こり－」座長)
41) 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「腰痛診断の落とし穴」座長)
42) 第 108 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 19 年 4 月，広島，特別講演「上位頚椎部傷

病の診療の要点」座長)
43) 羽島郡メディカルセミナー(平成 19 年 4 月，岐阜，特別講演「一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療」演者)
44) 第 6 回びわこスポーツ障害フォーラム(平成 19 年 4 月，大津，特別講演「腰の痛みとスポーツ障害」演者)
45) シカゴ･岐阜　脊椎脊髄病セミナー(平成 19 年 4 月，岐阜，特別講演「変性椎間板の治療　米国での最近の話題から」座長)
46) 第 9 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 19 年 5 月，岐阜，特別講演「膝スポーツ障害治療のトピックス」座長)
47) Inspiration Asia(2007.06，Bali，Long term complications after cervical fusion; chairperson)
48) Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「腰部脊柱管狭窄症診断の視点からみた，ABI の捉え方」座長)
49) Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「PAD に対する外科治療戦略－他科との連携による integrated therapy－」座長)
50) 第 63 回西日本脊椎研究会(平成 19 年 6 月，福岡，特別講演「腰椎変性側彎症の手術」演者)
51) 岐阜 Biological 研究会(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「新しい RA 治療の可能性－生物学的製剤と軟骨破壊－」座長)
52) 第 7 回 ATST ミーティング(平成 19 年 6 月，東京，特別講演「腰椎変性疾患へのロープロファイルシステムについて」座長)
53) The 17th Korean-Japanese Combined Orthpaedic Symposium(2007.07, Soul, Free paper 12:Spine 1; chairperson)
54) 大分腰部脊柱管狭窄症フォーラム 2007(平成 19 年 7 月，大分，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
55) 岐阜骨粗鬆症治療研究会特別講演会(平成 19 年 7 月，岐阜，特別講演「中下位頚椎の前方手術」演者)
56) SICOT 国際整形外科学会(2007.08, Morocco, Surgical treatment for spondylolysis in young athletes; Lecturer)
57) SICOT 国際整形外科学会(2007.08, Morocco, Session 05: Spine degenerative; chairperson)
58) 第 14 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(平成 19 年 9 月，名古屋，特別講演「高齢者頚髄症の病態および前方除圧固定術の成績-dynamic plate の有用性について-」座長)
59) 第 14 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(平成 19 年 9 月，名古屋，特別講演「ABC 頚椎ダイナミックプレートの手術手技の紹介と注意点(ハンズオンセッション B)」座長)
60) オステオポローシスセミナー(平成 19 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症に伴う骨折の予防」座長)
61) 第 109 回日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 19 年 10 月，奈良，特別講演「大仏セミナー9 腰痛治療 Up to Date －腰部脊柱管狭窄症を中心に－」座長)
62) 埼玉腰痛フォーラム 2007(平成 19 年 10 月，川口市，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
63) 6th Combined Meeting of Orthopaedic Reseach Societies(2007.10, Hawaii, Session 22: Intervertebral Disc; chairperson)
64) 第 36 回東海地区整形外科教育研修会(平成 19 年 11 月，名古屋，特別講演「腰椎椎間板障害の基礎と臨床」座長)
65) 骨粗鬆症フォーラム(平成 19 年 11 月，福井，特別講演「骨粗鬆症性椎体骨折の手術」座長)
66) 平成 19 年度第 4 回東京都臨床整形外科医会統合研修会(平成 19 年 11 月，東京，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
67) ASEAN OA27 VOA06 SSHV12(2007.12, Vietnam, Two staged(posterior and anterior) surgical treatment for pyogenic abd tuberculotic spondylitis; Lecturer)
68) 第 110 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 20 年 4 月，大津，講演「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療」座長)
69) 豊田加茂整形外科学術講演会(平成 20 年 4 月，豊田，講演「腰痛治療の病診連携」演者)
70) 神奈川 LCS フォーラム 2008(平成 20 年 4 月，横浜，講演「腰部脊柱狭窄症の治療」演者)
71) 第 14 回山口県腰痛研究会(平成 20 年 5 月，山口，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の手術的治療」演者)
72) 第 10 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 20 年 5 月，岐阜，特別講演「上肢の絞扼性末梢神経障害について」座長)
73) 岐阜骨粗鬆症リバーサイドカンファレンス(平成 20 年 6 月，岐阜，講演「高齢者の骨折予防と転倒

予」座長)
74) APOA,the Spine and Pediatric Sections 2008(2008.06, Jeju Island, Symposium 2 : Cervical spondylotic myelopethy; chairperson)
75) APOA,the Spine and Pediatric Sections 2008(2008.06, Jeju Island, Surgical treatment for spondylolysis in young Athletes. Lecture)
76) The 18th Japanese-Korean Combined Orthopaedic Symposium(2008.07, Nagasaki, Symposium 1:spondyloarthropathy following hemodialysis. chairperson)
77) 岐阜県 VTE 予防セミナー(平成 20 年 7 月，岐阜，「当院におけるフォンダパリヌクスの使用経験」「下肢整形外科周術期予防の最新ストラテジー」座長)
78) 外科医部会・労災指定医部会合同講演会(平成 20 年 7 月，岐阜，講演「脊椎のスポーツ障害」演者)
79) 第 41 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会(平成 20 年 7 月, 浜松, 教育研修講演「Current status of spinal tumors in the USA」座長)
80) 整形外科学術講演会(平成 20 年 7 月，那覇，講演「脊椎感染症の診断と治療」演者)
81) 岐阜県国民健康保険運営協議会会長連絡協議会(平成 20 年 8 月，岐阜，特別講演「腰痛－運動器の生活習慣病」演者)
82) 第 7 回尾張生活習慣病研究会(平成 20 年 8 月，名古屋，講演「腰痛治療の病診連携」演者)
83) 大田腰部脊柱管狭窄症セミナー2008(平成20年8月，大田(Korea), Hospital-clinic partership in low back pain practice. Lecture)
84) SICOT/SIROT2008 XX Ⅳ Triennial World Congress (2008.08, Hong Kong, Free Papers-Spine:Cervical Spine Ⅱ. chairperson)
85) 痛みの治療フォラム in 岐阜(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「腰痛の病態と治療－新しい概念と戦略－」演者)
86) ぎふ金華山整形外科セミナー(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「整形外科医の知っておくべき医療訴訟とリスクマネジメントの知識－整形外科医と患者の安全と安心のために－」座長)
87) 第 6 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「肩甲帯腫瘍の再建と機能」座長)
88) 第 15 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会(平成 20 年 9 月，大津，特別講演「Percutaneous vertebroplasty」座長)
89) 第 42 回日本側彎症学会(平成 20 年 10 月，奈良，講演「側弯症治療のコツ 手術(前方法)」演者)
90) 8th Inspiration Meeting(2008.10~11, Rome, Round-table discussionn of clinical cases：Anterior stabilization of degenerative cervical spinal lesions. chairperson)
91) 第 43 回東海接骨学会・第 90 回中部接骨学会(平成 20 年 11 月，羽島，特別講演「頚椎症，OPLL の手術治療」演者)
92) 名市大整形外科セミナー(平成 20 年 12 月，名古屋，特別講演「スポーツ選手の腰椎分離症」演者)
93) 保険診療に関する講習会(平成 20 年 12 月，岐阜，講演「保険医と診療報酬の審査」座長)

山本眞由美：
1) 国保事業推進トップセミナー(平成 18 年 1 月，岐阜，「糖尿病予防の重要性について」演者)
2) 高度医療コンソーシアム(平成 18 年 2 月，大阪，「チーム医療と医療モデル－糖尿病診療モデル」演者)
3) 岐阜県栄養士会(平成 18 年 8 月，岐阜，「糖尿病の栄養指導をどう組み立てるか」演者)
4) 国保事業推進トップセミナー(平成 19 年 1 月，岐阜，「糖尿病予防に向けた取り組みについて」演者)
5) 全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会研究集会(平成 19 年 7 月，金沢，「キャンパス内禁煙 2 年を経過して－現状と課題－」演者)
6) 岐阜県栄養士会(平成 19 年 8 月，岐阜，「糖尿病の合併症とその予防・治療」演者)
7) 平成 19 年度国保事業推進トップセミナー(平成 20 年 1 月，岐阜，「メタボリックシンドロームについて」演者)
8) 日本健康・栄養システム学会(平成 20 年 7 月，岐阜，「糖尿病」演者)
9) 岐阜県栄養士会(平成 20 年 9 月，岐阜，「糖尿病ならびに糖尿病予備軍の指導－糖尿病対策事業，特定健康診断業務の理解を整理する－」演者)
10) 日本遠隔医療学会(平成 20 年 10 月，岐阜，「遠隔医療における『栄養療法』の可能性と課題」座長)
11) 平成 20 年度(第 46 回)全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会研究集会(平成 20 年 7 月，岐阜，「パネルディスカッション・保健管理担当職研究会報告」座長)

12） 平成 20 年度(第 46 回)全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会研究集会(平成 20 年 7 月，岐阜，シンポジウム「学生支援における IT 化の将来について」座長)
13） 平成 20 年度(第 35 回)全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会保健管理担当職研究会(平成 20 年 7 月，岐阜，招待演者「特定健診と特定保健指導にかかわる話題と学生のメタボリックシンドローム予防」演者)

田中生雅：
1） 平成 18 年度(第 44 回)全国大学保健管理協会東海･北陸地方部会研究集会(平成 18 年 7 月，浜松，シンポジウム「保健管理センター(保健室)に求められる保健サービスへの対応」演者)
2） 平成 20 年度(第 46 回)全国大学保健管理協会東海･北陸地方部会研究集会(平成 20 年 7 月，岐阜，パネルディスカッション「学生のメンタルヘルスに関する最近の話題」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

清水克時：
1） 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 18 年度)
2） 日本ストライカー株式会社臨床開発部臨床治験に関する医学専門家(平成 18 年度)
3） 運動器の 10 年日本委員会国際委員会委員(平成 18 年度)
4） 臨床治験に関する医学専門家(～現在)
5） 整形災害外科学研究助成財団選考委員(～現在)
6） 整形災害外科科学研究助成財団企画･募金委員会委員(平成 19 年 5 月)
7） 財団法人整形災害科学研究助成財団理事(平成 19 年 5 月～現在)
8） 岐阜難病連難病医療福祉相談会相談員(平成 20 年 10 月)
9） 第 10 回国際テニス・スポーツ医学会議組織委員(平成 20 年 10 月)

山本眞由美：
1） 岐阜生活習慣病運動療法研究会世話人(～現在)
2） 岐阜県保健医療推進協議会委員(～現在)
3） 恵那地域糖尿病協議会委員(～現在)
4） 岐阜市健康産業振興分科会委員(平成 19 年度)
5） 岐阜県保健医療推進協議会地域保健計画部会委員(～現在)
6） 岐阜県成人病健診管理指導協議会循環器疾患等委員(～平成 19 年 3 月)
7） 社団法人全国大学保健管理協会評議員(平成 20 年 12 月～現在)
8） 平成 20 年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムレフェリー(平成 20 年度)
9） 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員長(～現在)

田中生雅：
1） 東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会実行委員会委員長(平成 18 年度)
2） 岐阜県障害者施策推進協議会委員(～現在)
3） 岐阜県家庭における暴力防止協議会配偶者暴力等防止専門部会委員(～現在)
4） 岐阜障害者職業センター指導員(～平成 20 年 3 月)
5） 岐阜労働局セクハラカウンセラー(平成 19 年～現在)

10. 報告書

1） 田中生雅：岐阜大学保健管理センター定期健康診断時アンケート調査より：全国大学保健管理協会東海･北陸地方部会報告書：45(2006 年)
2） 山本眞由美，紀ノ定保臣，鈴木康之，高塚直能：医療情報管理システムと診療モデル-糖尿病-：医療経営人材育成教育プログラム開発プロジェクト　高度医療教育コンソーシアム：平成 17 年度経済産業省「医療経営人材育成事業運営に係る教育プログラム」実績報告書：141－176(2006 年 3 月)
3） 山本眞由美：キャンパス敷地内全面禁煙 2 年を経過して－キーワードは学生の健康－：全国大学保健管理協会　東海・北陸地方部会報告書(平成 19 年度)：28－31(2007 年)

4) 山本眞由美：糖尿病予防に向けた取り組みについて：岐阜県国民健康保険団体連合会 国保事業推進トップセミナー講演記録：24－31(2007 年 1 月)
5) 高塚直能，川口順敬，高橋孝夫，紀ノ定保臣，山本真由美：特定機能病院消化器外科における病床マネージメント：平成 18 年度経済産業省「医療経営人材育成事業運営に係る教育プログラム」報告書：578－619(2007 年 1 月)
6) 清水克時：頚椎亜全摘前方固定術後の腓骨定着と内固定材料の変化に関する研究：厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業脊柱靱帯骨化症に関する調査研究　平成 19 年度総括・分担研究報告書：106－107(2008 年 3 月)
7) 長瀬清，高塚直能，紀ノ定保臣，山本真由美：急性期病院経営における手術部マネジメント－特定機能病院手術室のケース－：平成 19 年度経済産業省「サービス産業人材育成事業」報告書(2008 年 3 月)
8) 山本眞由美：大学生の肥満と体質の関係調査‐将来の生活習慣病の発症を予防するために‐：平成 17 年度－平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書(2008 年 5 月)
9) 山本眞由美：学生支援における IT 化の将来について：全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書：49(2008 年 12 月)
10) 山本眞由美：特定健診と特定保健指導にかかわる話題と学生のメタボリックシンドローム予防：全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書：88－92(2008 年 12 月)
11) 田中生雅：精神医療機関受診中の学生の大学への適応：全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書：30－31(2008 年 12 月)

11. 報道

1) 山本眞由美：高度医療教育コンソーシアム将来の医療提供体制の在り方を論議：日刊薬業(2006 年 3 月 7 日)
2) 山本眞由美：医療の効率化考える　岐阜大と十六銀行 IT 活用でセミナー：岐阜新聞(2006 年 12 月 8 日)
3) 田中生雅：保健管理センターとメンタルヘルス−大学生の心の風景と学生相談に求められるもの−：岐阜県保険医新聞：第 358 号(2007 年 1 月)
4) 清水克時：自転車で心も健康に ツアー・オブ・ジャパン開催記念：岐阜新聞(2007 年 3 月 2 日)
5) 山本眞由美：岐阜大学－学生支援 GP に選定－生涯健康を目指した学生健康支援プログラム：中日新聞(2007 年 9 月 30 日)
6) 山本眞由美：岐阜大学－学生支援 GP に採択－大学は生涯健康のスタート地点：朝日新聞(2007 年 10 月 4 日)
7) 山本眞由美：岐阜大学－生涯健康を目指した学生健康支援プログラム－生涯健康教育の推進と健康支援の充実：朝日新聞(2007 年 10 月 31 日)
8) 山本眞由美：岐阜大学祭の安全衛生管理について：CBC(2008 年 7 月 2 日)
9) 山本眞由美：学園祭の衛生管理，監視体制強化へ，岐阜大実行委－食中毒防止に講習会－：中日新聞(2008 年 7 月 3 日)
10) 山本眞由美：学生の健康管理，岐阜で研究集会　－東海・北陸の部会－：中日新聞(2008 年 7 月 25 日)
11) 清水克時：マルホ整形外科セミナー：ラジオ NIKKEI 本社スタジオ(2008 年 9 月 3 日放送)

12. 自己評価

評価

業務面では学生の健康を守り，将来の疾病も予防する健康教育について十分な成果をあげている。学生支援 GP の予算的背景があるため，国内外へその実績を公表できるところへ来ている。

研究面では，大学生の健康に焦点をあてた，ユニークな研究課題に取りくんでいる。生活習慣病，口腔内健康，慢性頭痛，精神病理，心理分析などの側面から，データも蓄積し，学会発表等すすめてきた。現在，英文論文の発表を準備中である。

現状の問題点及びその対応策

本学学生の健康支援のニーズは年々増しており，学生支援業務と研究との両立に難渋している。

今後の展望

大学卒業生の継続的な健康調査を実施する（almni cohort study）のは，世界的に数ヶ所しかない。本学で研究フィールドとして確立させたい。

（15）生命科学総合研究支援センター（ゲノム研究分野）

1. 研究の概要

ゲノム研究分野では学内におけるゲノム・プロテオーム解析の拠点としてシーケンサー，リアルタイムPCR，DNA マイクロアレイ，MALDI-TOF/TOF 質量分析装置などに加えて共焦点レーザースキャン顕微鏡，バイオインフォマティクス関連機器を整備し，シークエンス受託サービスとともに学内生命科学研究支援を行っている。さらに 2 つの放射性同位元素実験施設もかかえており，教員はこれらの管理運営を行いながら自らも活用して，ヒト代謝病，腸内細菌，植物病原菌，微生物動態による環境モニタリングなどをテーマにゲノム・プロテオーム解析を中心とする研究を行っている。

1）ペルオキシソームのゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスによる診断，病態解明，治療法の開発

国内唯一のペルオキシソーム病診断研究センターとして全国より送られてきたサンプルの脂肪酸分析，タンパク・遺伝子解析による診断システムに加えて，患者細胞を用いて遺伝子導入や siRNA，マイクロアレイ解析等を駆使して病態解明，治療法の開発を行っている。さらに全国の検査機関とも協力して国内全てのペルオキシソーム病患者を網羅して，データベースに登録して診断，フォローアップのネットワークを形成し，患者 QOL の向上を目指している。また脂肪組織や神経組織におけるペルオキシソームの生理的機能を解析し，メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や神経変性疾患に対してペルオキシソームを中心としたメタボローム解析の共同研究を進めて病態解明，治療法の開発に取り組み，ペルオキシソームが生体において極めてメジャーなオルガネラであることを岐阜大学から発信している。

2）腸内細菌のゲノム解読プロジェクト —腸内免疫システムの解明と医薬品，健康食品の開発

ヒトの腸管は 100 兆といわれるほどの細菌が生息して巨大な生態系を作り，感染，アレルギーなどの免疫系に関与しており，そのメタゲノム解析による医薬品や研究食品の開発基盤の確立を目指している。

3）植物病原菌のゲノム・プロテオーム解析による生態解明 —食の安全性の確立

土壌病害を起こす植物病原性 Fusarium 菌のゲノム・プロテオーム解析による病原性の解明により，食の安全, 安定した食糧生産, さらには日和見感染の起因菌対策として医療の分野への貢献も目指している。

2. 名簿

教授：	下澤伸行	Nobuyuki Shimozawa
准教授：	須賀晴久	Haruhisa Suga
助教：	長瀬朋子	Tomoko Nagase

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 下澤伸行．Zellweger 症候群：大関武彦，近藤直実編．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：481－484.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 下澤伸行，鈴木康之．ペルオキシソーム病，小児科診療　2006 年；69 巻：1646－1652.
2） 須賀晴久．ムギ類赤かび病菌における近年の研究動向，日本植物病理学会報　2006 年；72 巻：121－134.
3） 下澤伸行，鈴木康之．ペルオキシソーム形成異常症–Zellweger 症候群を中心に，小児内科　2007 年；増刊 39 号：536－538.

総説（欧文）

1） Suga H. Genetic diversity in *Fusarium* spp. causing Fusarium head blight of wheat and barley and its paradoxes. Soil Microorganisms. 2006;60:99-103.
2） Shimozawa N. Molecular and clinical aspects of peroxisomal diseases. J Inherit Metab Dis. 2007;30:193-197.

原著（和文）

なし

原著（欧文）

1） Funato M, Shimozawa N, Nagase T, Takemoto Y, Suzuki Y, Imamura Y, Matsumoto T, Tsukamoto T, Kojidani T, Osumi T, Fukao T, Kondo N. Aberrant peroxisome morphology in peroxisomal

beta-oxidation enzyme deficiencies. Brain Dev. 2006;28:287-292. IF 1.464

2) Shiozawa K, Goda N, Shimizu T, Mizuguchi K, Kondo N, Shimozawa N, Shirakawa M, Hiroaki H. The common phospholipid binding activity of the N-terminal domains of PEX1, VCP/p97. FEBS J. 2006;273:4959-4971. IF 3.396

3) Sawada T, Hashimoto T, Nakano H, Suzuki T, Ishida H, Kiso M. Why does avian influenza A virus hemagglutinin bind to avian receptor stronger than to human receptor? Ab initio fragment molecular orbital studies. Biochem Biophys Res Commun. 2006;351:40-43. IF 2.796

4) Magesh S, Suzuki T, Miyagi T, Ishida H, Kiso M. Homology modeling of human sialidase enzymes NEU1, NEU3 and NEU4 based on the crystal structure of NEU2: Hints for the design of selective NEU3 inhibitors. J Mol Graph Model. 2006;25:196-207. IF 1.932

5) Villa NO, Kageyama K, Asano T, Suga H. Phylogenetic relationships of *Pythium* and *Phytophthora* species based on ITS rDNA, cytochrome oxidase II and b-tubulin gene sequences. Mycologia. 2006;98:410-422. IF 1.808

6) Takahashi N, Morita M, Maeda T, Harayama Y, Shimozawa N, Suzuki Y, Furuya H, Sato R, Kashiwayama Y, Imanaka T. Adrenoleukodystrophy: subcellular localization and degradation of adrenoleukodystrophy protein (ALDP/ ABCD1) with naturally occurring missense mutations. J Neurochem. 2007;101:1632-1643. IF 4.451

7) Starkey DE, Ward TJ, Aoki T, Gale LR, Kistler HC, Geiser DM, Suga H, Toth B, Varga J, O'Donnell K. Global molecular surveillance reveals novel Fusarium head blight species and trichothecene toxin diversity. Fungal Genet Biol. 2007;44:1191-1204. IF 3.425

8) Moriyasu Y, Maruyama-Funatsuki W, Kikuchi A, Ichimi K, Zhong B, Yan J, Zhu Y, Suga H, Watanabe Y, Ichiki-Uehara T, Shimizu T, Hagiwara K, Kamiunten H, Akutsu K, Omura T. Molecular analysis of the genome segments S1, S4, S6, S7 and S12 of a Rice gall dwarf virus isolate from Thailand;completion of the genomic sequence. Arch Virol. 2007;152:1315-1322. IF 1.839

9) Kageyama K, Senda M, Asano T, Suga H, Ishiguro K. Intra-isolate hetelogeneity of the ITS region of rDNA in Pythium helicoids. Mycol Res. 2007;111:416-423. IF 1.861

10) Sawada T, Hashimoto H. Nakano T, Suzuki Y, Kawaoka H, Ishida H, Kiso M. Influenza viral hemagglutinin complicated shape is advantageous to its binding affinity for sialosaccharide receptor. Biochem Biophys Res Commun. 2007;355:6-9. IF 2.796

11) Kuratsubo I, Suzuki Y, Shimozawa N, Kondo N. Parents of Childhood X-linked Adrenoleukodystrophy : High Risk for Depression and Neurosis. Brain Dev. 2008;30:477-482. IF 1.464

12) Morita M, Kanai M, Mizuno S, Iwashima M, Hayashi T, Shimozawa N, Suzuki Y, Imanaka T. Bicalein 5,6,7- trimethyl ether activates peroxisomal but not mitochondrial fatty acid beta-oxidation. J Inherit Metab Dis. 2008;31:442-449. IF 1.668

13) Al-Dirbashi OY, Santa T, Rashed MS, Al-Hassnan Z, Shimozawa N, Chedrawi A, Jacob M, Al-Mokhadab M. Rapid UPLC-MS/MS method for routine analysis of plasma pristanic, phytanic and very-long chain fatty acid markers of peroxisomal disorders. J Lipid Res. 2008;49:1855-1862. IF 4.336

14) Saito M, Yamashita S, Shimozawa N, Mizuguchi M, Iwamori M. Changes in the amounts of myelin lipids and molecular species of plasmalogen PE in the brain of an autopsy case with d-bifunctional protein deficiency. Neurosci Lett. 2008;442:4-9. IF 2.085

15) Suga H, Karugia GW, Ward T, Gale LR, Tomimura K, Nakajima T, Miyasaka A, Koizumi S, Kageyama K, Hyakumachi M. Molecular characterization of the Fusarium graminearum species complex in Japan. Phytopathology. 2008;98:159-166. IF 2.377

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：下澤伸行；科学研究費基盤研究(C)(2)：モデル動物を用いたペルオキシソーム代謝障害に基づく発生異常と生活習慣病の病態解明；平成 18 年度；1,200 千円

2) 研究代表者：鈴木　徹；科学研究費特定領域：テーラーメードプロバイオティクスを目指したビフィズス菌属の俯瞰的ゲノム解；平成 18－19 年度；8,100 千円(4,000：4,100 千円)

3) 研究代表者：須賀晴久；科学研究費若手研究(B)：ムギ類マイコトキシン汚染防止のための DNA マーカーを使った病原菌の動態解明；平成 18 年度；700 千円

4) 研究分担者：須賀晴久；科学研究費基盤研究(B)：土壌糸状菌による環境モニタリングシステムの開発；平成 18 年度；3,520 千円

5) 研究分担者：須賀晴久；科学研究費基盤研究(B)：有用微生物間の相互作用と植物における生体防御機構の解明；平成 18 年度；3,700 千円

6) 研究代表者：下澤伸行；科学研究費萌芽研究：代謝ネットワークに基づいたシステムバイオロジーによる遺伝病発症規定因子の探索；平成 19－20 年度；3,200 千円(2,200：1,000 千円)

2）受託研究

1） 下澤伸行：先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築；平成 18－20 年度；3,000 千円(1,000：1,000：1,000 千円)：成育医療研究委託事業研究
2） 鈴木　徹：学部を超えた微生物学教育の連携学部を超えた微生物学教育の連携：平成 18 年度；500 千円：岐阜大学教育研究活性化経費
3） 鈴木　徹：ウロン酸化キシロオリゴ糖の高純度製造法；平成 18 年度；3,000 千円：科学技術振興機構補助金データ補完
4） 須賀晴久：安全で信頼性，機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発，薬剤(チオファネートメチル)耐性を持つ赤かび病菌の遺伝子診断技術の開発；平成 18－19 年度；4,500 千円(2,000：2,500 千円)：農業・食品産業技術総合研究機構
5） 鈴木　徹：腸内細菌のイソフラボノイド代謝遺伝子解析；平成 19 年度；600 千円：岐阜県生物工学研究所
6） 下澤伸行：ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究；平成 19－20 年度；3,000 千円(1,500：1,500 千円)：厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
7） 下澤伸行：Dravet 症候群の Na チャネル遺伝子異常の研究；平成 20 年度；1,000 千円：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
8） 須賀晴久：生産・流通・加工工程における体系的な危害要因の特性解明とリスク低減技術の開発，薬剤耐性を持つ麦類赤かび病菌の遺伝子診断と伝播抑制技術の開発；平成 20 年度；4,000 千円：農業・食品産業技術総合研究機構

3）共同研究

1） 下澤伸行：サウジアラビアにおけるペルオキシソーム病の診断に関する研究；平成 20 年度；サウジアラビア・キングファイサル専門病院・研究センター

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

下澤伸行：

1） 日本小児神経学会評議員(～現在)
2） 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
3） 日本小児遺伝学会幹事(～現在)
4） 日本先天代謝異常学会評議員(～現在)
5） 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)

須賀晴久：

1） 植物病害生態研究会幹事(～現在)
2） 植物病原菌類談話会幹事(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

下澤伸行：

1） 10th. International Congress of Inborn Errors of Metabolism (2006.09, Chiba, Plenary lecture: Molecular and clinical aspects of peroxisomal disease; Speaker)
2） 第 48 回日本小児神経学会(平成 18 年 6 月，浦安，ワークショップ「遺伝性神経筋疾患の診断・治療戦略」.「ペルオキシソーム病の診断と治療」演者)
3） 第 49 回日本先天代謝異常学会，第 6 回アジア先天代謝異常学会(平成 19 年 11 月，山形，ワークシ

ョップ「先天代謝異常症における治療の進歩」.「副腎白質ジストロフィーの造血幹細胞移植療法の現状と問題点」演者)

須賀晴久：
1) 第 14 回日本微生物資源学会(平成 19 年 6 月，札幌，シンポジウム「遺伝的多様性の解析で垣間見えてきたムギ類赤かび病菌の進化・生態」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

下澤伸行：
1) 岐阜県児童福祉審議会児童処遇専門部会委員(～現在)
2) 独立行政法人医薬基盤研究所基礎的研究評価委員会専門委員(～現在)

須賀晴久：
1) サイエンスパートナーシッププログラム事業「タンパク質の定性実験と解説」(平成 20 年 10 月 14 日)
2) 先端科学技術体験講座「遺伝子組換えで大腸菌が光る」(平成 20 年 12 月 4 日)
3) サイエンスパートナーシッププログラム事業「遺伝子が語る生命現象」(平成 20 年 12 月 13 日)

ゲノム研究分野：
1) 高校生のための生命科学体験プログラム「ゲノムって何？」(平成 18 年 8 月 7 日，8 日)
2) 中学生のための自然放射線実験講座(平成 18 年 8 月 11 日)
3) 理科系教師のための組換え DNA 実験教育研修会(平成 18 年 8 月 22 日，23 日)
4) 平成 18 年度岐阜大学公開講座「よくわかる生命科学～研究の成果がどのように生かされているか～」(平成 18 年 10 月 1 日)
5) 高校生のための生命科学体験プログラム「ゲノムって何？」(平成 19 年 8 月 8 日，9 日)
6) 中学生のための自然放射線実験講座(平成 19 年 8 月 10 日)
7) 理科系教師のための組換え DNA 実験教育研修会(平成 19 年 8 月 23 日，24 日)
8) 平成 19 年度岐阜大学公開講座「よくわかる生命科学～研究の成果がどのように生かされているか」(平成 19 年 9 月 30 日)
9) 高校生のための生命科学体験プログラム「ゲノムって何？」(平成 20 年 8 月 5 日，6 日)
10) 中学生のための生命科学体験プログラム「君にもできる DNA 鑑定」(平成 20 年 8 月 20 日)
11) 中学生のための自然放射線実験講座(平成 20 年 8 月 22 日)

10. 報告書

1) 下澤伸行：ペルオキシソーム代謝異常症における発症機序の解明と治療法の開発：上原記念生命科学財団研究報告集：144－147(平成 18 年)
2) 下澤伸行：モデル動物を用いたペルオキシソーム代謝障害に基づく発生異常と生活習慣病の病態解明：平成 17－18 年度科学研究費基盤研究(C)(2)：1－71(平成 19 年 3 月)
3) 下澤伸行：遺伝性ペルオキシソーム病床例の長期予後追跡のためのデータベース作成：平成 17－19 年度厚生労働省成育医療研究委託事業研究報告書(松原班)：254－255(平成 19 年 4 月)

11. 報道

1) 授業で DNA 実験：中日新聞(2006 年 2 月 1 日)
2) 高校生が遺伝子学ぶ：中日新聞(2006 年 8 月 10 日)
3) 高校生，ゲノムを学習：岐阜新聞(2006 年 8 月 10 日)
4) 遺伝子から病態解明目指す：岐阜新聞(2006 年 8 月 15 日)
5) 自然放射線を観察：中日新聞(2006 年 8 月 16 日)
6) 研究成果を交え「生命科学」紹介：中日新聞(2006 年 10 月 2 日)
7) 専門的にゲノム体感：中日新聞(2007 年 8 月 8 日)
8) 岐大とサウジ難病克服連携ペルオキシソーム病治療研究：中日新聞(2008 年 11 月 18 日)

12. 自己評価

評価

全学的な教育研究支援業務としては生命科学総合研究支援センターと改称してより研究支援の立場を明確にし，岐阜大学における教育研究の基盤的設備の整備を行うとともに，生命科学に関する基礎研究の臨床応用への展開を進めている。研究面では全国唯一のペルオキシソーム病診断研究センターとして診断システム，患者長期フォローアップシステムを確立し，国内外の研究機関と共同で病態解明，治療法の開発に繋がる研究を行った。

1）岐阜大学のゲノム･プロテオーム研究支援：ゲノム･プロテオーム解析機器に共焦点レーザー顕微鏡，バイオインフォマティクス関連設備等を整備して全学からの利用に対応するとともに，受託シークエンスサービスでは学内 LAN を用いて迅速に結果を配信して研究支援を行っている。
2）ゲノム研究分野 RI 医学施設の開設により，学内に集約した 2 施設で全学的に安全かつ身近な RI 実験が可能な教育研究環境を整備した。
3）ペルオキシソーム病の国内診断システムを確立し，ペルオキシソーム欠損症では国内全症例のタンパク・遺伝子レベルでの診断，新規病因遺伝子の解明，岐阜大学の分類を発表するとともに，ペルオキシソームと神経発生の関わりや治療法の開発について共同研究を展開して報告した。
4）研究成果の社会への還元ならびに社会貢献としてサウジアラビアのペルオキシソーム病診断支援システムをサウジアラビア国立病院と共同で確立した。

現状の問題点及びその対応策

1）生命科学技術の進歩とともにシステムバイオロジー関連解析機器の進歩も目覚ましく，学内における生命科学の教育研究水準を高度に維持するためには，集約化した施設に設備や大型機器を設置して更新して利用を広げ，学内におけるソフトやハード面での研究情報システムを整備して部局の垣根を越えた全学的な教育研究の推進が望まれる。
2）RI 実験施設に関しては 2 施設の安定した運営と RI に精通した専任教官の配属が不可欠である。
3）研究支援センターの運営に従事しながら研究者としてのモチベーションを保つためには，自らが率先して研究テーマを設定して共同研究を展開し，大学院も含めた研究者の教育・育成に関わる姿勢が必要と思われる。

今後の展望

1）岐阜薬科大学の移転も鑑み，「地域の知の拠点」として部局，大学の枠を越えた岐阜大学地区の生命科学研究の拠点として施設，設備，組織を整備して共同研究を支援し，基礎と臨床の架け橋を目指す。
2）ペルオキシソーム病をはじめとする遺伝性代謝病の診断研究の拠点として単一遺伝子病から生活習慣病まで病態解明，治療法の開発を行い，岐阜大学より「ペルオキシソーム」を発信していく。

（16）生命科学総合研究支援センター（嫌気性菌研究分野）

1. 研究の概要

当分野では，臨床微生物学の立場から，嫌気性菌・嫌気性菌感染症に関する基礎的・臨床的研究を進めている。具体的には破傷風，ガス壊疽，ボツリヌス症など毒素産生性の嫌気性菌による外因性の感染症，おもに術後に見られる嫌気性菌と通性菌が相乗的に病原性を発揮する内因性の複数菌感染症，芽胞をもつ嫌気性菌による院内感染症などの嫌気性菌が関係する多種多様の感染症の診断，治療，そして予防に役だつような研究を細菌学的な立場から行っている。嫌気性菌の分離培養同定法の改良，嫌気性菌の病原因子，嫌気性菌の抗菌薬感受性の測定とその測定法の改良，抗嫌気性菌作用を有する物質の探索とそれらの抗菌力の評価，嫌気性菌の抗菌薬に対する耐性現象の解明，そして，嫌気性菌が優勢なヒト固有細菌叢の異常化が原因となっておこる種々の「21 世紀病」についての研究などを展開している。

2. 名簿

教授：　渡邉邦友　　Kunitomo Watanabe
准教授：　田中香お里　　Kaori Tanaka
助教：　後藤隆次　　Takatsugu Goto

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 三鴨廣繁．Q27 外科領域で注意すべき真菌症とリスクは？：炭山嘉伸，門田守人，跡見裕編．深在性真菌症 Q&A，大阪：医薬ジャーナル社；2006 年：84－86.
2） 三鴨廣繁．第Ⅲ章　市中感染症に対する手術時の抗菌薬の使い方　D．産婦人科疾患：炭山嘉伸編．周術期感染対策マニュアル　抗菌薬使用法から周術期管理まで，東京：南江堂；2006 年：62－67.
3） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．第 1 章　症状・症候からどんな検体を採取しどのように診断を進めるか　7　産婦人科領域の感染症が疑われたとき：河野茂，平潟洋一編．ベッドサイドで役立つ微生物検査ガイド　何の検査をするか・結果をどう評価するか，東京：文光堂；2006 年：50－57.
4） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．ボツリヌス中毒の特徴と対応：渡辺治雄編．食中毒検査・診療のコツと落とし穴，東京：中山書店；2006 年：20－21.
5） 渡邉邦友．4 感染症および寄生虫疾患 4－5 一般細菌感染症 1)グラム陽性球菌感染症(4)破傷風菌，(5)ガス壊疽菌群，(6)デフィシル菌，4)グラム陰性細菌感染症 20)バクテロイデス等の無芽胞嫌気性菌が関与する複数菌感染症：杉本恒明，矢崎義雄編．内科学第 9 版，東京：朝倉書店；2007 年：303－305，324－325.
6） 渡邉邦友．感染症検査 感染症遺伝子検査 クロストリジウム・ディフィシレ遺伝子検査 微生物産生物・代謝産物 ボツリヌス毒素，CD トキシン，テタノスパスミン：高久久麿監修．臨床検査データブック 2007－2008，東京：医学書院；2007 年：491－492，524－528.
7） 渡邉邦友．3.感染症 無芽胞嫌気性菌感染症：山口徹，北原光夫，福井次矢総編集．今日の治療指針，東京：医学書院：2007 年：166－167.
8） 渡邉邦友．第 3 章 1 最新の嫌気性菌の分類・命名，第 3 章 2 常在細菌叢を構成する嫌気性菌：日本化学療法学会，日本嫌気性菌感染症研究会編．嫌気性菌感染症診断・治療ガイドライン 2007，東京：共和企画；2007 年：192－209.
9） 田中香お里．第 1 章 3 薬剤感受性試験，第 3 章 3 耐性嫌気性菌：日本化学療法学会，日本嫌気性菌感染症研究会編．嫌気性菌感染症診断・治療ガイドライン 2007，東京：共和企画；2007 年：30－37，210－213.
10） 渡邉邦友．3．嫌気性菌感染症：井村裕夫編集主幹．わかりやすい内科学　第三版 感染症　東京　分光堂 2008 年：485－487.
11） 渡邉邦友．3．嫌気性菌感染症：大関武彦，近藤直実総編集．小児科学　東京　医学書院　2008 年：809－811.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 田中香お里，三鴨廣繁，渡邉邦友．バクテロイデス属，感染と抗菌薬　2006 年；9 巻：2－4.
2） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．微生物学見地からみた抗菌薬の適正使用法と薬剤耐性菌制御のための戦略，リウマチ科　2006 年；35 巻：63－68.
3） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．MRSA 感染症におけるリネゾリドの有効性，治療学　2006 年；40 巻：83－84.
4） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．注意すべき感染症と対策　5．産婦人科領域の感染症と対策，救急医学 2006 年；30 巻：216－220.
5） 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．嫌気性菌によるセプシスは存在するか，治療学　2006 年；40 巻：521－524.

6) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．周産期における B 群連鎖球菌感染症の予防に関する CDC の改訂ガイドライン　新しく発表あるいは改訂された感染症に関するガイドライン，化療の領域　2006 年；22 巻 Suppl. 1：134－137.
7) 三鴨廣繁．産婦人科領域における周術期の感染制御，PHYSICIAN'S THERAPY MANUAL　2006 年；5 巻：1－2.
8) 三鴨廣繁．よく遭遇する感染症、珍しいが知っておきたい感染症　婦人科，INFECTION FRONT　2006 年；7 巻：12－13.
9) 三鴨廣繁．特殊病態における抗菌化学療法　妊婦，日本内科学会雑誌　2006 年；95 巻：2208－2213.
10) 三鴨廣繁，渡邉邦友．腟常在菌　～その存在意義と役割～．日本腸内臨床微生物学会会誌　2006 年；8 巻：31－34.
11) 渡邉邦友，三鴨廣繁，田中香お里．潰瘍性大腸炎の成因および増悪に関わる細菌因子の一つとしての硫酸還元細菌 日本臨床　2007 年；65 巻：1337－1346.
12) 渡邉邦友．口腔内細菌叢構成嫌気性菌と嫌気性菌感染症，日本口腔感染症学会雑誌　2007 年；14 巻：3－8.
13) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友.抗菌薬を選択する上で知っておきたい嫌気性菌感染症と嫌気性菌の耐性化　アステラス製薬「感染症」　2007 年；37 巻：41－48.
14) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．特集　抗菌薬の特性を生かして上手に使うこつ 抗菌薬の PK/PD を活かす治療状況とは．感染と抗菌薬　2007 年；10 巻：102－110.
15) 渡邉邦友．偏性嫌気性菌感染症の基礎と臨床—偏性嫌気性菌の分類　臨床と微生物　2008 年；35 巻：21－28.

総説（欧文）

1) Nagayama A, Yamaguchi K, Watanabe K, Tanaka M, Kobayashi I, Nagasawa Z. Final report from thecommittee on Antimicrobial Susceptibility Testing, Japanese Society of Chemotherapy, on the agar dilution method (2007). J Infect Chemother. 2008;14:383-392.

原著（和文）

1) 三鴨廣繁，玉舎輝彦，田中香お里，渡邉邦友：クラミジア咽頭感染の現状と治療方法に関する検討，Jpn J Antibiotics．2006 年；59 巻：35－40.
2) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．耐性化防止のための抗菌薬使用　抗菌薬サイクリング療法，月刊薬事 2006 年；48 巻：1521－1527.
3) 三鴨廣繁．PK/PD に基づいた抗菌薬の適正な投与設計，PHYSICIAN'S THERAPY MANUAL (PTM) 2006 年；5 巻：9.
4) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友，山岡一清，三輪まゆみ，澤村治樹，松川洋子，佐伯浩和，浅野裕子，石郷潮美，末松寛之，松原茂規，橋渡彦典，寺地真弓，宮里正嗣，市川悦司．岐阜県下において分離された緑膿菌に関する疫学的検討　～2004 年～，Jpn J Antibiot．2006 年；59 巻：355－363.
5) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友，玉舎輝彦，和泉孝治．PK/PD 理論に基づいたガチフロキサシンの投与方法に関する臨床的検討，Jpn J Antibiot．2006 年；59 巻：364－372.
6) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友：肺炎球菌およびインフルエンザ菌に対する経口キノロン薬の Monte Carlo Simulation を用いた有効性評価，Jpn J Antibiot．2006 年；59 巻：468－473.
7) 田中香お里，仲尾賢一，三鴨廣繁，渡邉邦友：マイクロリング AN を用いた嫌気性無芽胞グラム陽性桿菌群のレベル 1 簡易同定の提案，Rinsho Biseibutshu Jinsoku Shindan Kenkyukai Shi．2006 年；17 巻：115－124.
8) 井上方晴，菊池茉甫，小森谷友絵，和泉剛，渡邉邦友，神野英毅．*Clostridium perfringens* α 毒素産生遺伝子のクローニングと大腸菌における組み換えタンパク質の発現と分泌，臨床微生物迅速診断研究会誌 2007 年；18 巻：127－135.
9) 品川長夫，田中香お里，三鴨廣繁，渡邉邦友，竹山廣光，横山隆，武末芳生，谷口正哲：穿孔性腹膜炎からの分離菌とその薬剤感受性，The Japanese Journal of Antibiotics　2007 年；60 巻：206－220.
10) 三鴨廣繁，玉舎輝彦，田中香お里，渡邉邦友：症例報告　子宮内避妊器具を装着中に子宮頸部に発症した *Actinomyces israelii* による放線菌症の 1 例．日本外科感染症学雑誌 2007 年；4 巻：139－141.
11) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．肺炎球菌およびインフルエンザ菌による感染症に対する各種カルバペネム薬のモンテカルロ・シミュレーションによる有効性評価，The Japanese Journal of Antibiotics　2007 年；60 巻：47－57.
12) 三鴨廣繁，田中香お里，渡邉邦友．Monte Carlo Simulation 法を用いた嫌気性菌感染症に対するフルオロキノロン系薬の有用性予測，The Japanese Journal of Antibiotics　2007 年；60 巻：335－343.
13) 河田幸道，石原哲，松井隆，津川昌也，松本哲朗，渡邉邦友，中島光好．複雑性尿路感染症を対象とした Sitafloxacin と Levofloxacin の二重盲検比較試験，日本化学療法学会雑誌　2008 年；56 巻(増刊 1 号)：S81－91.

原著（欧文）

1) Tanaka K, Mikamo H, Nakao K, WatanabeK. In vitro antianaerobic activity of DX-619, a new des-fluoro(6) quinolone. Antimicrob Agents and Chemother. 2006;50:3908-3913.　IF 4.390
2) Matsubara K, Mikamo H, Numa M, Yamamoto G, Kusano H, Takamine Y. Three fatal cases of invasive

serotype VI group B streptococcal infection. J Infect. 2006;53:139-142. IF 2.849

3) Ishida Y, Hayashi T, Goto T, Kimura A, Akimoto S, Mukaida N, Kondo T. Essential involvement of CX3CR1-mediated signals in the bactericidal host defense during septic peritonitis. J Immunol. 2008;181:4208-4218. IF 6.068

4) Sakai A, Watanabe K, Koketsu M, Akuzawa K, Yamada R, Li Z, Sadanari H, Matsubara K, MurayamaT. Anti-human cytomegalovirus activity of constituents from Sasa albo-marginata {Kumazasa in Japan}. Anti Chem Chemother. 2008;19:125-132.

5) Takumi S, Komatsu M, Aoyama K, Watanabe K, Takeuchi T. Oxygen induces mutation in a strict anaerobe, Prevotella melaninogenica. Free Rad Biol Medi. 2008;44:1857-1862. IF 4.813

6) Yasui K, Kano Y, Tanaka K, Watanabe K, Shimizu-Kadota M, Yoshikawa H, Suzuki T. Improvement of Bacterial transformation efficiency using plasmid artificial modification. Nuc Acids Res. 2008,1-7. IF 6.954

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：八木哲也(国立長寿医療センター病院)，研究分担者：田中香お里；長寿医療研究委託費：難治性の高齢者肺炎に対する安全で有効な治療法に関する研究(分担研究課題名　誤嚥性肺炎の起炎菌の細菌学的検討とその病態への関与の検討)；平成 19 年度；1,500 千円

2）受託研究

1） 渡邉邦友：難治性の高齢者肺炎に対する安全で有効な治療法に関する研究(分担研究課題名　誤嚥性肺炎の起炎菌の細菌学的検討とその病態への関与の検討)；平成 18 年度；1,100 千円：国立長寿医療センター

2） 三鴨廣繁：フルオロキノロン薬が *Clostridium difficile* の細胞毒素産生に及ぼす影響について；平成 18 年度；4,538.625 千円：第一製薬株式会社　研究開発本部　創薬第一研究所

3） 渡邉邦友，三鴨廣繁：CS-023 の細菌学的評価に関する受託研究；平成 18－19 年度；4,000 千円(2,000：2,000 千円)：三共株式会社 第二生物研究所

4） 三鴨廣繁，田中香お里：新規カルバペネム化合物 SMP-601 の各種嫌気性菌に対する有効性に関する研究：平成 19－20 年：1,000 千円：大日本住友製薬株式会社　研究本部

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

渡邉邦友：

1） 日本感染症学会評議員・中日本地方会理事(～現在)
2） 臨床微生物迅速診断研究会幹事(～現在)
3） 日本化学療法学会評議員(～現在)
4） 日本臨床腸内微生物学会理事(平成 20 年 9 月～現在)
5） 日本細菌学会評議員(平成 18 年～現在)
6） 日本臨床微生物学会評議員(～現在)
7） 日本化学療法学会ブレイクポイント検討委員会委員(～平成 20 年 5 月)
8） 日本化学療法学会嫌気性菌感染治療のガイドライン委員会委員(平成 18 年 7 月～平成 20 年 5 月)
9） 日本化学療法学会嫌気性菌感染治療のガイドライン改訂委員会委員(平成 20 年 9 月～現在)

三鴨廣繁：

1） 日本感染症学会評議員(～現在)
2） 日本化学療法学会評議員・抗真菌薬臨床評価委員会委員(～現在)
3） 日本臨床微生物学会評議員(～現在)
4） 日本性感染症学会評議員(～現在)
5） 日本環境感染学会評議員(～現在)
6） 日本臨床腸内微生物学会評議員(～現在)

7） 日本外科感染症学会評議員(～現在)

田中香お里：
1） 日本化学療法学会評議員(～現在)
2） 日本化学療法学会嫌気性菌感染治療のガイドライン委員会委員(平成 18 年 7 月～平成 20 年 5 月)
3） 日本化学療法学会嫌気性菌感染治療のガイドライン改訂委員会委員(平成 20 年 9 月～現在)
4） 日本臨床微生物学会評議員(～現在)

2）学会開催
なし

3）学術雑誌
渡邉邦友：
1） 臨床微生物迅速診断研究会誌(JARMAM)；編集委員(～現在)

三鴨廣繁：
1） 日本化学療法学会；編集委員(～現在)
2） 日本外科感染症学会；編集委員(～現在)

田中香お里：
1） 日本臨床微生物学会；編集委員(～平成 20 年 3 月)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長
渡邉邦友：
1） 第 51 回日本口腔外科学会総会(平成 18 年 10 月，北九州市，招待講演「熊笹の高圧加熱処理液の持つ抗菌作用と医療への応用」演者)
2） 第 43 回日本細菌学会中部支部総会(平成 18 年 10 月，岐阜市，シンポジウム「微生物感染が原因・増悪因子となる疾患についての最近の話題」座長)
3） 第 15 回日本口腔感染症学会総会(平成 18 年 11 月，大阪市，招待講演「口腔内細菌叢構成菌と嫌気性菌感染症に関する話題～嫌気性菌分類命名の変化と現在の抗菌化学療法に対応して～」演者)
4） 第 37 回日本嫌気性菌感染症研究会(平成 19 年 3 月，奈良市，教育講演「ヒト体内常在嫌気性菌研究の新展開」座長)
5） 第 10 回臨床腸内微生物学会学術集会(平成 19 年 9 月，長崎市，シンポジウム「腸内細菌制御と疾患予防・治療」座長)
6） 第 20 回臨床微生物迅速診断研究会総会(平成 19 年 7 月，京都市，シンポジウム「これからの微生物迅速診断の方向」座長)
7） 日本農芸化学学会中部支部第 153 回例会(平成 19 年 11 月，名古屋，シンポジウム「無酸素で働く微生物―嫌気性菌の世界～環境と健康の視点から～」演者)
8） 第 51 回日本感染症学会中日本地方会学術集会(平成 19 年 10 月，大阪，特別講演「薬剤耐性機構―基礎研究でわかってきたこと」座長)

三鴨廣繁：
1） 第 21 回日本環境感染学会学術集会(平成 18 年 2 月，東京，招待シンポジウム「事例から学ぶ院内感染対策　*Bacillus cereus* group によるアウトブレイクが疑われたがアウトブレイクと断定できなかった事例」演者)
2） 第 54 回日本化学療法学会総会(平成 18 年 5 月，京都，招待シンポジウム「嫌気性菌感染症治療のガイドライン」司会・演者)
3） 第 19 回臨床微生物迅速診断研究会(平成 18 年 6 月，松山，招待シンポジウム「それって本当に本当？迅速診断！！　産婦人科領域」演者)
4） 第 43 回日本細菌学会中部支部総会(平成 18 年 10 月，岐阜，招待シンポジウム「微生物感染が原因・増悪因子となる疾患についての最近の話題　潰瘍性大腸炎手術後に起こる回腸嚢炎における硫化水素還元細菌の関与」演者)
5） 第 54 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 18 年 12 月，福岡，招待シンポジウム「感染制御学

からみた化学療法のあり方　抗菌薬関連下痢症/腸炎の現状と課題」演者)

田中香お里：
1) 第 46 回中部医学検査学会(平成 19 年 9 月，大垣市，シンポジウム「嫌気性菌を知って，整理整頓ポイントをつかもう」演者)
2) 第 50 会日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 55 会日本化学療法学会西日本支部総会(平成 19 年 10 月，神戸市，レクチャーセッション 2「細菌検査-薬剤感受性と嫌気性菌についての基礎知識」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1) 田中香お里, 仲尾賢一, 三鴨廣繁, 渡邉邦友 : 第 17 回 JARMAM(迅速微生物迅速診断研究会)賞(2007 年度)

9. 社会活動

渡邉邦友：
1) 岐阜県院内感染対策協議会委員(平成 18 年度)

三鴨廣繁：
1) 平成 18 年度岐阜県教育委員会　学校・地域保健推進事業講師(平成 18 年度)
2) 岐阜県医師会 STD(性感染症)実態調査検討委員会副委員長(平成 18 年度)
3) 岐阜県院内感染対策協議会委員(平成 18 年度)
4) 岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター　スポーツドクター(平成 18 年度)
5) 社団法人日本感染症学会専門医問題作成委員(平成 18 年度)

10. 報告書

1) 鈴木徹，渡邉邦友，田中香お里：テーラーメードプロバイオティクスを目指したビフィズス菌属の俯瞰的ゲノム解析 : 2006 年文部科学省研究補助金 特定領域研究「ゲノム」4 領域度報告書 : 295 (2007 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究・教育・診療支援は十分にその責務を果たしていると考えるが，教員の研究面においては達成率が低いことを認めざるを得ない。

現状の問題点及びその対応策

現状では，分野の専任技術職員が存在しないため，分野の教員のみで，すべての案件に対応しなければならない。生命科学総合研究支援センターとしての責務である支援業務を果たすことにほとんどの時間が割かれ，十分な研究体制がとれていないことが最大の課題である。

今後の展望

前述した問題点を解決するために，専任の技術職員を 2 名配置していただけるよう働きかけている。学内支援センターとしての責務以外に，少しでもそれぞれの教員独自の研究を進めるための体制作りを考えている。

（17）人獣感染防御研究センター（プリオン研究部門）

1. 研究の概要

①新規抗プリオン化合物を約 200 種類有機合成した。
②当初のリード化合物である GN8 よりも活性の高い新規化合物を約 20 種類見出した。
③抗プリオン化合物を最適化することにより，リードよりも活性が一桁高い化合物の創製に成功しており，研究の進展に応じて活性が向上している状況にある。
④プリオンタンパク質と各種抗プリオン化合物との結合部位を同定し，最適化の方向を明らかにした。
⑤リード化合物とは骨格の異なる抗プリオン化合物を 4 種類見出した。
⑥プリオンの部分ペプチドの線維形成を解析することにより，プリオンの異常化に関与すると考えられる部位を同定した。
⑦タンパク質と化合物との相互作用を部位ごとに，厳密に評価するためのフラグメント MO 法プログラム（PAICS）を新規に開発し，リオンタンパク質と抗プリオン物質との相互作用に適用した。
⑧化学物質の蛋白質に対するゆらぎ抑制作用を評価するための粗視化プログラムを新規に開発し，抗プリオン物質のプリオン蛋白質のゆらぎに対する効果を調べた。
⑨分子軌道法により，神経変性を引き起こす低分子物質，クプリゾンと銅イオンとの相互作用を解析し，銅イオンの荷電状態に異常があることを突き止めた。
⑩抗プリオン物質とプリオン蛋白質との相互作用を分子動力学法により解析し，抗プリオン活性が高くなる原因を解明した。
⑪論理的創薬法の適用により，抗インフルエンザウイルス作用を有する物質を複数発見した。
⑫論理的創薬法の適用により，抗 AIDS 作用を有する物質を複数発見した。

2. 名簿

教授：	桑田一夫	Kazuo Kuwata
助教：	鎌足雄司	Yuji Kamatari
助教：	武藤淳二	Junji Muto
助教：	木村　力	Tsutomu Kimura
助教：	山本典史	Norifumi Yamamoto
助教：	中村寛則	Hironori Nakamura
助教：	石川岳志	Takeshi Ishikawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 桑田一夫．プリオン：河野　茂編．ウイルスハンドブック No.16 中枢神経系ウイルス，東京：株式会社日本医学館；2008 年：44－45.

著書（欧文）

1） Kuwata K. Semi-classical quantization of protein dynamics: Novel NMR relaxation formalism and its application to prion. In: Kitamoto T, ed. PRIONS- Food and drug safety, Tokyo: Springer; 2006:155-170.

総説（和文）

1） 桑田一夫．β-ラクトグロブリン分子の立体構造形成反応　平成 19 年度日本酪農科学シンポジウム「牛乳α-ラクトアルブミンとβ-ラクトグロブリンの構造と機能の新展開」，Milk Science　2007 年；56 巻：61－64.
2） 松本友治，鎌足雄司，武藤淳二(細川)，中村寛則，桑田一夫．構造ダイナミクスから生まれた抗プリオン化合物－論理的アプローチによる創薬研究，化学　2008 年；63 巻：40－44.
3） 桑田一夫．プリオン病治療薬の論理的開発をめざして－蛋白質のダイナミクス解析から構造変換制御物質の探索へ Rational drug discovery for prion diseases－，蛋白質 核酸 酵素　2008 年；53 巻：727－732.
4） 桑田一夫．プリオン，蛋白質・核酸・酵素 6 月号増刊「キーワード：蛋白質の一生」　2008 年；53 巻：991.
5） 桑田一夫．ダイナミクスと安定性が交叉する領域の熱力学－量子暗号熱力学とプリオン－，熱測定　2008 年；35 巻：140－147.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 桑田一夫．連載 話題のウイルス No.12 プリオン，Drug Delivery System（DDS） 2006 年；21 巻：156－157.

2） 桑田一夫．バイオインフォーマティクスによるプリオン病治療薬の開発，化学療法の領域 2006 年；22 巻：87－93.

3） 山口圭一，松本友治，児玉耕太，岸 直人，桑田一夫．プリオン病の発症と伝播機構－特集 アミロイドの謎は解けるか？：プリオン病・アルツハイマー病・透析アミロイドーシスなどの病態を紐解く－，細胞工学 2007 年；26 巻：151－155.

4） 後藤祐児，桑田一夫，関島良樹，田中元雅，内木宏延，永井義隆，松崎勝巳，樋口京一．アミロイドーシス発症の分子機構解明を目指して：現状と展望，夢－特集 アミロイドの謎は解けるか？：プリオン病・アルツハイマー病・透析アミロイドーシスなどの病態を紐解く－， 細胞工学 2007 年；26 巻：181－185.

5） 武藤淳二（細川），鎌足雄司，松本友治，中村寛則，桑田一夫：正常型プリオン蛋白質構造安定化への挑戦－特集 異常型プリオン蛋白質への挑戦（後編）－，臨床獣医 2007 年；25 巻：10－14，41.

原著（欧文）

1） Kimura K, Nagaki M, Nishihira J, Kuwata K, Moriwaki H. Role of macrophage migration inhibitory factor for CTL-induced liver injury in hepatitis B transgenic mice. Clin Vaccine Immunol. 2006;13:415-419. IF 1.995

2） Kimura K, Moriwaki H, Nagaki M, Saio M, Nakamoto Y, Naito M, Kuwata K, Chisari FV. Pathogenic role of B cells in anti-CD40 caused necroinflammatory liver disease. Am J Pathol. 2006;168:786-795. IF 5.487

3） Kodama K, Shoji Y, Nakashima H, Katayama Y. The features and shortcomings for gene delivery of current non-viral carriers. Curr Med Chem. 2006;13:2155-2161. IF 4.944

4） Oishi J, Kawamura K, Kang HJ, Kodama K, Sonoda T, Murata M, Niidome T, Katayama Y. An intracellular kinase signal-responsible gene carrier for disordered cell-specific gene therapy. J Control Release. 2006;110:431-436. IF 4.756

5） Sukegawa KH, Kato Z, Nakamura H, Tomatsu S, Fukao T, Kuwata K, Orii T, Kondo N. Effect of Hunter disease (mucopoly saccharidosis typeII) mutations on molecular phenotypes of iduronate-2-sulfatase : Enzymatic activity, protein processing and structural analysis. J Inherit Metab Dis. 2006;29:755-761. IF 1.668

6） Kimura K, Moriwaki H, Nagaki M, Saio M, Nakamoto Y, Naito M, Kuwata K, Chisari FV. Pathogenic role of B cells in anti-CD40-induced necroinflammatory liver disease. Am J Pathol. 2006;168:786-795. IF 5.487

7） Kremer W, Kachel N, Kuwata K, Akasaka K, Kalbitzer HR. Species specific differences in the intermediate states of human and hamster prion protein detected by high pressure NMR spectroscopy. J Biol Chem. 2007;282:22689-22698. IF 5.581

8） Kuwata K, Nishida N, Matsumoto T, Kamatari YO, Hosokawa-Muto J, Kodama K, Nakamura HK, Kimura K, Kawasaki M, Takakura Y, Shirabe S, Takata J, Kataoka Y, Katamine S. Hot spots in prion protein for pathogenic conversion. Proc Natl Acad Sci USA. 2007;104:11921-11926. IF 9.598

9） Nakamura HK, Takano M, Kuwata K. Modeling of a propagation mechanism of infectious prion protein; a hexamer as the minimum infectious unit. Biochem Biophys Res Commun. 2007;361:789-793. IF 2.749

10） Kamatari YO, Nakamura HK, Kuwata K. Strange kinetic phase in the extremely early folding process of β-lactoglobulin. FEBS Lett. 2007;581:4463-4467. IF 3.263

11） Kimura K, Nagaki M, Kakimi K, Saio M, Saeki T, Okuda Y, Kuwata K, Moriwaki H. Critical role of CD44 in hepatotoxin-mediated liver injury. J Hepatol. 2008;48:952-961. IF 6.642

12） Kato Z, Stern JN, Nakamura HK, Kuwata K, Kondo N, Strominger JL. Positioning of autoimmune TCR-Ob.2F3 and TCR-Ob.3D1 on the MBP85-99/HLA-DR2 complex. Proc Natl Acad Sci USA. 2008;105:15523-15528. IF 9.598

13） Yamaguchi K, Matsumoto T, Kuwata K. Critical region for amyloid fibril formation of mouse prion protein: unusual amyloidogenic properties of helix 2 peptide. Biochemistry. 2008;47:13242-13251. IF 3.368

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：桑田一夫；文部科学省科学研究費補助金特定領域研究：原子分解能かつナノ秒時間分解能でのプリオン・フォールディング反応の観測；平成 18－19 年度；11,300 千円(5,500：5,800 千円)

2） 研究代表者：水澤英洋(東京医科歯科大学大学院脳神経病態学(神経内科))，研究分担者：桑田一夫；厚生労働省難治性疾患克服研究事業:プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究（H16-難治-013）；平成 18－20 年度；6,000 千円(2,000：2,000：2,000 千円)

3） 研究代表者：桑田一夫；文部科学省科学研究費補助金特定領域研究；細胞内プリオンタンパク質の立体構造，ダイナミクス，及び立体構造変換反応の解明；平成 20－21 年度；5,800 千円(2,900：2,900 千円)

4) 研究代表者：武藤淳二；文部科学省科学研究費補助金萌芽研究：プリオン蛋白質のデュアルピンポイント蛍光標識法の確立とその応用に関する研究；平成 19－20 年度；3,600 千円(1,800：1,800 千円)
5) 研究代表者：山本典史；文部科学省科学研究補助金若手研究(B)：プリオン病発症メカニズムの解明：プリオン蛋白質・胴イオン複合体の構造と性質；平成 20 年度；2.860 千円
6) 研究代表者：石川岳志；文部科学省科学研究費補助金若手研究(スタートアップ)：プログラム開発とプリオンタンパク質の相互作用解析への応用；平成 20 年度；1,140 千円
7) 研究代表者：山口圭一；文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)：プリオンのアミロイド線維に選択的に結合する低分子化合物の探索とその作用機構の解明；平成 19－20 年度；3,300 千円(2,100：1,200 千円)

2）受託研究
1) 桑田一夫：論理的創薬による蛋白質立体構造制御法の確立とプリオン病治療薬開発への応用；平成 18－22 年度；361,000 千円(80,000：80,000：67,000：67,000：67,000 千円)：独立行政法人医薬基盤研究所
2) 研究代表者：北尾彰朗(東京大学分子細胞生物学研究所細胞機能情報研究センター創生研究分野)，研究分担者：桑田一夫；平成 19 年度戦略的創造研究推進事業（CREST タイプ）研究領域「マルチスケール・マルチフィジックス現象の統合シミュレーション」研究課題「バイオ分子間相互作用形態の階層的モデリング」；平成 19－23 年度；27,000 千円(3,000：6,000：6,000：6,000：6,000 千円)
3) 研究代表者：萩原正敏(東京医科歯科大学・大学院疾患生命科学研究部/難治疾患研究所)，研究分担者：桑田一夫；平成 19 年度科学技術試験研究委託事業「難治感染症に対する新規治療薬開発のためのイメージング研究」；平成 19－23 年度；19,500 千円(6,500：6,500：6,500 千円)
4) 中村寛則：平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金政策創薬総合研究事業「論理的創薬手法による HIV-1 プロテアーゼ二量体化を阻害する低分子化合物の探索」；平成 18－20 年度；12,000 千円(4,000：4,000：4,000 千円)

3）共同研究
1) 桑田一夫：論理的創薬による蛋白質立体構造制御法の確立とプリオン病治療薬開発への応用；平成 18－22 年度；361,000 千円(80,000：80,000：67,000：67,000：67,000 千円)：長崎大学
2) 桑田一夫，山口圭一：アミロイドの構造生物学研究；平成 18－20 年度；6,000 千円(2,000：2,000：2,000 千円)：大阪大学蛋白質研究所
3) 桑田一夫：マルチスケール・マルチフィジックス現象の統合シミュレーション；平成 19－23 年度；27,000 千円(3,000：6,000：6,000：6,000：6,000 千円)：東京大学
4) 桑田一夫，中村寛則：新規抗インフルエンザ薬の開発；平成 19－23 年度；19,500 千円(6,500：6,500：6,500 千円)：理化学研究所

5. 発明・特許出願状況
1) 中村寛則：ヒト免疫不全ウイルスの増殖阻害剤(特許)；平成 20 年(特願 2008-226642)

6. 学会活動
1）学会役員
桑田一夫：
1) 日本生理学会評議員(～現在)
2) 日本磁気共鳴医学会評議員(～現在)
3) 臨床ストレス応答学会評議員(～現在)

2）学会開催
なし

3）学術雑誌
なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

桑田一夫：

1) 日本生物物理学会　特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の化学」第 3 回公開ワークショップ(平成 18 年 1 月，岡崎，招待講演「Dynamics of　Prion in Water」演者)
2) 社団法人 日本耳鼻咽喉科学会　第 56 回中部地方部会連合会(平成 20 年 7 月，岐阜，招待講演「論理的創薬法の確立とプリオン病への応用」演者)
3) 日本ヒトプロテオーム機構第 6 回大会「創薬，バイオマーカー探索に向けて」(平成 20 年 7 月，吹田，招待講演「プリオン病と論理的創薬－Application of Dynamics Based Drug Discovery (DBDD) to Prion Diseases－」演者)
4) 厚生労働科学研究費補助金　難知性疾患克服研究事業　アミロイドーシスに関する調査研究班「アミロイドーシス 夏のワークショップ 2008」(平成 20 年 8 月，金沢，招待講演「タンパクの立体構造を制御する化合物をデザインする」演者)
5) 理論創薬セミナー（公開講座）(平成 20 年 11 月，東京，招待講演「理論的にデザインされた低分子化合物によるタンパク質のコンフォーメイション制御 －21 世紀医学の新戦略－」演者)
6) 立命館大学理工学研究所シンポジウム 「タンパク質 NMR 研究の最前線」(平成 20 年 11 月，草津，招待講演「低分子化合物により，タンパク質のコンフォーメイションを制御する」演者)
7) 情報計算化学生物学会（CBI 学会）第 292 回 CBI 研修講演会「神経変性疾患の標的と創薬－Ⅰ」(平成 20 年 12 月，東京，招待講演「構造生物学的アプローチによる抗プリオン化合物の開発」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1) 桑田一夫：第六回杉田玄白賞　奨励賞(平成 19 年度)
2) 桑田一夫：magic bullet 賞(平成 20 年度)

9. 社会活動

桑田一夫：

1) 東京高等裁判所，東京地方裁判所及び大阪地方裁判所所属専門委員(平成 19 年度～現在)

10. 報告書

1) 桑田一夫：原子分解能かつナノ秒時間分解能でのプリオン・フォールディング反応の観測：平成 19 年度科学研究費補助金　特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の化学」研究状況報告書：92－93(2007 年 3 月)
2) 桑田一夫：プリオン部分ペプチドが作るオリゴマーの立体構造決定：平成 14 年度－平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金　特定領域研究「タンパク質の一生」研究成果報告書：112(2007 年 5 月)
3) 桑田一夫：原子分解能かつナノ秒時間分解能でのプリオン・フォールディング反応の観測：平成 19 年度科学研究費補助金　特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の化学」研究成果報告書：32(2008 年 3 月)
4) 桑田一夫：厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究」平成 17 年度－平成 19 年度分担研究報告書：47－50(2008 年 3 月)
5) 桑田一夫，松本友治，山口圭一，鎌足雄司，中村寛則，山本典史，石倉孝一，木村力，武藤淳二：独立行政法人　医薬基盤研究所　保健医療分野における基礎研究推進事業「論理的創薬による蛋白質立体構造制御法の確立とプリオン病治療薬開発への応用」平成 19 年度報告書：1－42，65－115(2008 年 4 月)
6) 桑田一夫：原子分解能かつナノ秒時間分解能でのプリオン・フォールディング反応の観測：平成 20 年度科学研究費補助金　特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の化学」研究成果等の報告書：56(2008 年 7 月)
7) 岐阜大学　人獣感染防御研究センター　第 1 回外部評価報告書(2007 年 11 月)

11. 報道

1) 桑田一夫：ヤコブ病 治療薬へ前進：日本経済新聞(2007 年 7 月 3 日)
2) 桑田一夫：異常プリオン抑制物質：中日新聞(2007 年 7 月 3 日)
3) 桑田一夫：プリオン異常か防ぐ物質発見：朝日新聞(2007 年 7 月 3 日)
4) 桑田一夫：感染性プリオンへの変化防止 BSE 治療に期待：毎日新聞(2007 年 7 月 3 日)
5) 桑田一夫：プリオン異常化抑制 ヤコブ病、BSE 治療に道：岐阜新聞(2007 年 7 月 4 日)

6） 桑田一夫：感染性プリオンへの変化防ぐ物質：毎日新聞(2007 年 7 月 4 日)
7） 桑田一夫：抗プリオン物質を開発 国際学会賞を受賞：岐阜新聞(2008 年 10 月 17 日)
8） 桑田一夫：国際学会で受賞：毎日新聞(2008 年 10 月 16 日)
9） 桑田一夫：国際学会の「マッジックバレット賞」受賞　BSE 特効薬開発を研究：中日新聞(2008 年 10 月 25 日)

12. 自己評価

評価

人獣感染防御研究センターの目的・計画が，順調に達成されている，と評価する。

現状の問題点及びその対応策

人獣感染防御研究センターには，NMR3 台（500, 600, 800（予定）MHz)，X 線回折装置、クライオ電顕（200kV)，ビアコア等，医学研究に有用な最先端の実験装置が多数あり，共同利用が可能となっている。今後，医学研究科を含む学内外の研究機関等との共同利用・共同研究を推進したい。

今後の展望

疾患関連タンパク質を標的とする論理的創薬を，国内外の研究機関との共同研究を通じて推進する。

（18）大学院連合創薬医療情報研究科（医療情報学専攻）

1. 研究の概要

本研究科は，ポストゲノム時代の創薬科学，医療科学及び生物・生命科学の分野を工学，薬学，医学などの学問領域から「創薬」をテーマとして，生体データや代謝情報，患者情報などの「医療情報」により解析する高度な教育研究を行う。このことにより，自らが解明，創造（開発），検証，応用に展開できる人材となり，人類の健康増進と生命・健康科学領域の発展に寄与できる倫理観に富んだ高度専門職業人及び研究者を養成することを目標としている。以下，大学院連合創薬医療情報研究科医療情報学専攻のうち医学部所属教員について記す。

1）ケトン体代謝異常症（脂肪酸代謝異常症を含む）

ケトン体代謝異常症の分野では世界的にも岐阜大学といわれており，サクシニル-CoA:3-ケト酸 CoA トランスフェラーゼ（SCOT）およびβケトチオラーゼ欠損症については世界各地より臨床データー及び細胞が集まり，phenotype/genotype の関連などの研究を世界に先駆け進めている。フィンランドのグループとの共同研究で，ヒトチオラーゼの 3 次構造決定，変異蛋白の構造的解析をおこなっており，また島根大学との共同研究で，脂肪酸β酸化系異常症の蛋白遺伝子解析も行って成果が出ている。

2）アレルギー

小児病態学教室で，アレルギー専門医としてアレルギーの臨床に携わりながら，アレルギーと関連する遺伝子多型の研究に参加し，いくつかの候補遺伝子多型を報告してきた。2004 年からは，アレルギー疾患の発症の予知予防に関する出生コホート研究を開始し，本年で 3 年までのフォローが終了し，現在結果をまとめているところである。アトピーに関連する遺伝子多型の解析，臍帯血，生後 6 ヶ月，1 歳 2 ヶ月の採血結果や 1 歳 2 ヶ月の寝具中の埃中の抗原量の測定, 疾患発症などの関連で興味深い結果が出てきている。

3）先天性免疫不全症

IgG サブクラス欠損症の病因となる遺伝子異常を世界に先駆け明らかにし（J Clin Invest）Ataxia-telangiectasia の病因遺伝子 ATM についての解析でもいくつかの成果を出してきた（Blood, Oncogene, Gene Chromosome Cancer など）。

4）小児神経疾患

脊髄性筋萎縮症の原因蛋白 SMN の機能についての解析をスタートしている。

5）神経細胞障害の発現機序解明，並びにその防御に関する研究

①遅発性神経細胞死：一過性前脳虚血後海馬 CA1 細胞に特異的に発現する遅発性神経細胞死は実験的脳虚血モデルとして汎用されているがその発現機序は解明されていない。我々はその機序を明らかにするとともに，創薬の観点から，その発現予防・治療を試みている。

②網膜神経細胞死 : 虚血再灌流にともなう網膜細胞死モデルの開発を手がけ，最近では化学物質を用いた視細胞選択的細胞死モデル創製も開発した。これらのモデルを用い，網膜神経細胞死のメカニズムを明らかにするとともに，予防・治療薬の開発に取り組んでいる。

6）ES 細胞による神経障害再生に関する研究

再生医療の基礎的研究の一環として，網膜神経細胞障害モデルにマウス由来 ES 細胞やヒト由来 ES 細胞を移植し, その生着率の亢進, ガン化の抑制, 神経への分化の促進をめざした研究を行っている。今後，ヒト由来人工多能性幹細胞（iPS 細胞）での検討も行う。

7）好中球の活性化ならびにアポトーシス発現機序の解明

好中球は活性酸素種を産生し，生体防御能を有すとともに組織障害性を併せ持つ。好中球の活性化機構・アポトーシス形成能を解明し病態との関連，創薬への応用に取り組んでいる。

8）医療系大学生・大学院生の新たなる教育法の研究・開発・実践

岐阜大学医学部が先駆的に取り組んできた，問題解決型学習である PBL テュトーリアルの長所を生かし, 欠点を補う新たなる教育法の開発を手がけている。既にインターネットを活用した双方向型学習法「楽位置楽 The Tutorial」を開発・実践してきたが，この大学院教育での応用を目指している。

2. 名簿

教授：　深尾　敏幸　　Toshiyuki Fukao
教授：　丹羽　雅之　　Masayuki Niwa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 深尾敏幸．有機酸代謝異常症：大関武彦，古川　漸，横田俊一郎編．今日の小児治療指針　第 14 版，東京：医学書院；2006 年：168－169.
2) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ‘05 秋．第 18 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2006 年：112.
3) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’06 冬・第 19 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2006 年：110.
4) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’06 春・第 20 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2006 年：185.
5) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’06 夏・第 21 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2007 年：237.
6) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’06 秋・第 22 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2007 年：89.
7) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’07 冬・第 23 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2007 年：120.
8) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’07 春・第 24 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2007 年：152.
9) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’07 夏・第 25 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2007 年：121.
10) 丹羽雅之．中枢神経作用薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：73－101.
11) 丹羽雅之．消化器作用薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：143－153.
12) 丹羽雅之．抗悪性腫瘍薬(抗癌薬)：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：191－203.
13) 丹羽雅之．抗炎症薬・解熱鎮痛薬・抗アレルギー薬・免疫抑制薬：植松俊彦，金丸光隆編．新体系看護学全書 5 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学，東京：メヂカルフレンド社；2007 年：205－224.
14) 深尾敏幸．DNA，遺伝子，ゲノム：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：181－184.
15) 深尾敏幸．遺伝性疾患の分類と頻度：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：185－187.
16) 深尾敏幸．単一遺伝子病：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：188－190.
17) 深尾敏幸．尿素サイクル異常症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：221－222.
18) 深尾敏幸．糖代謝異常症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：223－226.
19) 深尾敏幸．ビリルビン代謝異常症とポルフィリン代謝異常症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：237－239.
20) 深尾敏幸．毛細血管拡張性失調症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：355－356.
21) 深尾敏幸．その他の免疫異常症：佐治勉，有坂治，大澤真木子，近藤直実，竹村司編．講義録小児科学，東京：メジカルビュー社；2008 年：359－360.
22) 深尾敏幸．極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症，長鎖 3-ヒドロキシアシル-CoA 脱水素酵素欠損症，短鎖 3-ヒドロキシアシル-CoA 脱水素酵素欠損症中鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症，短鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症，2，4 ジエノイル-CoA 還元酵素欠損症：大関武彦，近藤直実総編集．小児科学　第 3 版，東京：医学書院；2008 年：475－479.
23) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’07 秋・第 26 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2008 年：100.
24) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’08 冬・第 27 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2008 年：130.
25) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ’08 春・第 28 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2008 年：152.
26) 丹羽雅之．解熱鎮痛薬・抗炎症薬：野村隆英・石川直久編．シンプル薬理学　改訂第 4 版，東京：南江堂；2008 年：229－245.

著書（欧文）

1) Kondo N, Kato Z, Kaneko H, Fukao T, Matsui E, Aoki M. Molecular mechanisms of hygiene hypothesis. In: (Holgate S, Matone G, Ring J eds. Cellular and Melecular Targets in Allergy and Clinical Immunology. Cambridge: Hogrefe & Huber Publishers; 2007:36-37.
2) Hara A, Niwa M, Aoki H, Taguchi A, Yamada Y, Mori H. New research on neuronal networks. In:

Neuronal Network Research Horizons, ed Weiss ML, Nova Science Publish; 2007:99-118.

3) Suzuki Y, Niwa M, Shibata T, Chirasak K, Ramesh JC, Evans P, Takahashi Y. Internet PBL: International Collaborative Learning Experiences, Title of the book: Problem-Based Learning in eLearning Breakthroughs, ed. Tan O-S, Singapore: Publisher: Thomson Learning; 2007:131-146.

4) Hara A, Oka N, Aoki H, Taguchi A, Yamada Y, Niwa M, Mori H. OCT-3/4 Expressing Cells as Cancer Stem Cells in Human Immature Teratoma: Cancer Differentiation Potential. In: Saitama H (ed); New Cell Differentiation Research Topics. New York: Nova Science Publisher ; 2008:1-6.

総説（和文）

1) 深尾敏幸，近藤直実．注目すべきアレルゲンとその病態 イヌ，ネコ飼育とアレルギーの発症，臨床免疫・アレルギー科　2006 年；46 巻：604－612.

2) 折居恒治，深尾敏幸．けいれん，意識障害を起こす疾患の治療・管理のポイント．有機酸代謝異常症，小児内科　2006 年；38 巻：452－454.

3) 深尾敏幸．小児疾患の診断治療基準　ataxia telangiectasia，小児内科　2006 年；38 巻（臨時増刊号）：232－233.

4) 寺本貴英，青木美奈子，松井永子，近藤　應，川本典生，金子英雄，深尾敏幸，近藤直実．RS ウイルス感染と喘息発症–感染による喘息の発症，増悪の機序，アレルギー・免疫　2006 年；13 巻：1031－1037.

5) 今井七重，福富真智子，榎本ひとみ，平林詩子，岩越浩子，木村　豪，小澤　亮，櫻井里美，深尾敏幸，福富悌，折居忠夫．病児保育園での保育中の症状の変化についての検討，保育と保健　2006 年；12 巻：31－33.

6) 福富　悌，名田匡利，青木雄介，鈴木啓子，新井隆広，深尾敏幸，近松由美子，岩越浩子．麻黄湯のインフルエンザの合併症状に対する効果の検討，漢方と免疫・アレルギー　2006 年；20 巻：44－53.

7) 近藤直実，松井永子，桑原愛美，川本典生，青木美奈子，寺本貴英，金子英雄，深尾敏幸．気管支喘息の発症予防，日本小児科学会雑誌　2007 年；111 巻：23－27.

8) 近藤直実，松井永子，青木美奈子，新井隆広，金子英雄，深尾敏幸，桑原愛美．環境が生体に及ぼす影響，日本小児アレルギー学会誌　2007 年；21 巻：92－95.

9) 深尾敏幸．ケトン体代謝異常症　特にアセトン血性嘔吐症と鑑別すべきサクシニル-CoA : 3-ケト酸 CoA トランスフェラーゼ欠損症を中心に，日本小児科学会雑誌　2007 年；111 巻：727－739.

10) 深尾敏幸．ペット飼育環境と小児アレルギー，アレルギーの臨床　2007 年；356 巻：129－135.

11) 川本典生，深尾敏幸，松井永子，川本美奈子，金子英雄，近藤直実．臍帯血を用いた出生コホート研究による小児アレルギー疾患の評価，アレルギーの臨床　2007 年；27 巻：77－82.

12) 松井永子，川本典生，深尾敏幸，近藤直実．乳幼児期の免疫応答性の変遷とアレルギー疾患発症，アレルギー・免疫　2008 年；15 巻：170－174.

13) 深尾敏幸．質疑応答　小児のケトーシス，日本医事新報　2008 年；4329 巻：89－90.

総説（欧文）

1) Matsui E, Kaneko H, Fukao T, Teramoto T, Kondo N. Tailor-made Medicine and GenePolymorphisms in Bronchial Asthma. International Review of Asthma. 2006;8:64-72.

原著（和文）

1) 近藤直実，平山耕一郎，松井永子，寺本貴英，金子英雄，深尾敏幸，折居建治，川本美奈子，舩戸道徳，大西秀典，川本典生，森田秀行，木村豪，名田匡利，徳見哲司，堀友博，渡邊倫子．小児気管支喘息患児と親又は保護者の QOL 調査票簡易改訂版 2008(GIFU)，アレルギー　2008 年；57 巻：1022－1033.

2) 平林詩子，嶋井真奈美，荒川典子，福富真智子，岩越浩子，深尾敏幸，安藤恵美子，寺澤大祐，小関道夫，福富悌．病児保育における症状に合わせた遊びの検討，保育と保健　2008 年；14 巻：46－49.

3) 森田秀行，金子英雄，大西秀典，近藤應，松井永子，深尾敏幸，近藤直実．免疫寛容誘導のための食物アレルギー主要抗原タンパクの基礎的検討，日本小児アレルギー学会誌　2008 年；22 巻：233－238.

原著（欧文）

1) Gueven N, Fukao T, Luff J, Paterson C, Kay G, Kondo N, Lavin MF. Regulation of the Atm promoter in vivo. Genes Chromosomes Cancer. 2006;45:61-71. IF 4.532

2) Funato M, Shimozawa N, Nagase T, Takemoto Y, Suzuki Y, Imamura Y, Matsumoto T, Tsukamoto T, Kojidani T, Osumi T, Fukao T, Kondo N. Aberrant peroxisome morphology in peroxisomal beta-oxidation enzyme deficiencies. Brain Dev. 2006;28:287-292. IF 1.464

3) Teramoto T, Fukao T, Tomita Y, Terauchi Y, Hosoi K, Matsui E, Aoki M, Kondo N, Mikawa H. Pharmacokinetics of beclomethasone dipropionate in an hydrofluoroalkane-134a propellant system in japanese children with bronchial asthma. Allergol Int. 2006;55:317-320.

4) Zhang G, Fukao T, Sakurai S, Yamada K, Michael Gibson K, Kondo N. Identification of Alu-mediated, large deletion-spanning exons 2-4 in a patient with mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase deficiency. Mol Genet Metab. 2006;89:222-226. IF 2.550

5) Kawamoto N, Kaneko H, Takemura M, Seishima M, Sakurai S, Fukao T, Kasahara K, Iwasa S, Kondo N. Age-related changes in intracellular cytokine profiles and Th2 dominance in allergic children. Pediatr Allergy Immunol. 2006;17:125-133. IF 2.454

6) Fukao T, Sakurai S, Rolland MO, Zabot MT, Schulze A, Yamada K, Kondo N. A 6-bp deletion at the splice donor site of the first intron resulted in aberrant splicing using a cryptic splice site within exon 1 in a patient with succinyl-CoA: 3-ketoacid CoA transferase (SCOT) deficiency. Mol Genet Metab. 2006;89:280-282. IF 2.550
7) Sukegawa-Hayasaka K, Kato Z, Nakamura H, Tomatsu S, Fukao T, Kuwata K, Orii T, Kondo N. Effect of Hunter disease (mucopolysaccharidosis type II) mutations on molecular phenotypes of iduronate-2-sulfatase: enzymatic activity, protein processing and structural analysis. J Inherit Metab Dis. 2006;29:755-761. IF 1.688
8) Hara A, Niwa M, Kumada M, Aoki H, Kunisada T, Oyama T, Yamamoto T, Kozawa O, Mori H. Intraocular injection of folate antagonist methotrexate induces neuronal differentiation of embryonic stem cells transplanted in the adult mouse retina. Brain Res. 2006;1085:33-42. IF 2.218
9) Hara A, Niwa M, Aoki H, Kumada M, Kunisada T, Oyama T, Yamamoto T, Kozawa O, Mori H. A new model of retinal photoreceptor cell degeneration induced by a chemical hypoxia-mimicking agent, cobalt chloride. Brain Res. 2006;1109:192-200. IF 2.218
10) Niwa M, Hotta K, Hara A, Hirade K, Ito H, Kato K, Kozawa O. TNF-alpha decreases hsp 27 in human blood mononuclear cells: involvement of protein kinase C. Life Sci. 2006;80:181-186. IF 2.257
11) Sakurai S, Fukao T, Haapalainen AM, Zhang G, Yamada S, Lilliu F, Yano S, Robinson P, Gibson MK, Wanders RJA, Mitchell GA, Wierenga RK, Kondo N. Kinetic and Expression Analyses of Seven Novel Mutations in Mitochondrial Acetoacetyl-CoA Thiolase (T2): Identification of a Km Mutant and an Analysis of the Mutational Sites in the Structure. Mol Genet Metab. 2007;90:370-378. IF 2.550
12) Kondo M, Fukao T, Shinoda S, Kawamoto N, Kaneko H, Kato Z, Matsui E, Teramoto T, Nakano T, Kondo N. Lymphocyte responses to chymotrypsin- or trypsin V-digested β-lactoglobulin in patients with cow's milk allergy. Allergy Asthma Clin Immunol. 2007;3:1-9.
13) Yamada K, Fukao T, Zhang G, Sakurai S, Ruiter JPN, Wanders RJA, Kondo N. Single-base substitution at the last nucleotide of exon 6 (c.671G >A), resulting in the skipping of exon 6, and exons 6 and 7 in human Succinyl-CoA:3-ketoacid CoA transferase (SCOT) gene. Mol Genet Metab. 2007;90:291-297. IF 2.550
14) Haapalainen A, Merilinen G, Piril P, Kondo N, Fukao T, Wierenga R. Crystallographic and kinetic studies of human mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase (T2): the importance of potassium and chloride ions for its structure and function. Biochemistry. 2007;46:4305-4321. IF 3.368
15) Yamada K, Fukao T, Suzuki H, Inoue R, Kondo T, Kondo N. Vitamin K-Deficient Intracranial Hemorrhage as the First Symptom of Cytomegalovirus Hepatitis with Cholestasis. Tohoku J Exp Med. 2007;212:335-339. IF 1.133
16) Funato M, Kaneko H, Matsui E, Teramoto T, Kato Z, Fukao T, Okusu K, Kondo N. Refractory osteomyelitis caused by bacille Calmette-Guerin vaccination: a case report. Diagn Microbiol Infect Dis. 2007;59:89-91. IF 2.553
17) Aoki M, Fukao T, Kaneko H, Mizunaga S, Mitsuyama J, Sawamura H, Seishima M, Kondo N. Clinical and bacteriological evaluation of the efficacy of piperacillin in children with pneumonia. J Infect Chemother. 2007;13:224-229.
18) Fukao T, Zhang G, Aoki Y, Arai T, Teramoto T, Kaneko H, Sugie H, Kondo N. Identification of Alu-mediated, large deletion-spanning introns 19-26 in PHKA2 in a patient with X-linked liver glycogenosis (hepatic phosphorylase kinase deficiency). Mol Genet Metab. 2007;92:179-182. IF 2.550
19) Ozeki M, Funato M, Kanda K, Ito M, Teramoto T, Kaneko H, Fukao T, Kondo N. Clinical improvement of diffuse lymphangiomatosis with pegylated interferon alfa-2b therapy: Case report and review of the literature. Pediatr Hematol Oncol. 2007;24:513-524. IF 0.720
20) Funato M, Kaneko H, Ozeki M, Suzuki H, Orii K, Teramoto T, Fukao T, Kondo N.A positive Donath-Landsteiner test in paroxysmal cold haemoglobinuria. Eur J Haematol. 2007;79:462. IF 2.163
21) Fukao T, Kursula P, Owen EP, Kondo N. Identification and characterization of a temperature-sensitive R268H mutation in the human succinyl-CoA:3-ketoacid CoA transferase (SCOT) gene. Mol Genet Metab. 2007;92:216-221. IF 2.550
22) Fukao T, Zhang G, Rolland M-O, Zabot M-T, Guffon N, Aoki Y, Kondo N. Identification of an Alu-mediated tandem duplication of exons 8 and 9 in a patient with mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase (T2) deficiency. Mol Genet Metab. 2007;92:375-378. IF 2.550
23) Gobin-Limballe S, Djouadi F, Aubey F, Olpin S, Andresen BS, Yamaguchi S, Mandel H, Fukao T, Ruiter JP, Wanders RJ, McAndrew R, Kim JJ, Bastin J.Genetic basis for correction of very-long-chain acyl-coenzyme A dehydrogenase deficiency by bezafibrate in patient fibroblasts: toward a genotype-based therapy. Am J Hum Genet. 2007;81:1133-1143. IF 11.092
24) Aoki H, Hara A, Niwa M, Motohashi T, Suzuki T, Kunisada T. An in vitro mouse model for retinal ganglion cell replacement therapy using eye-like structures differentiated from ES cells. Exp Eye Res. 2007;84:868-875. IF 2.651
25) Hara A, Taguchi A, Niwa M, Aoki H, Yamada Y, Ito H, Nagata K, Kunisada T, Mori H. Localization of septin 8 in murine retina, and spatiotemporal expression of septin 8 in a murine model of photoreceptor cell degeneration. Neurosci Lett. 2007;423:205-210. IF 2.085

26) Kondo M, Fukao T, Omoya K, Kawamoto N, Aoki M, Teramoto T, Kaneko H, Kondo N. Protein-losing enteropathy associated with egg allergy in a 5-month-old boy. J Investig Allergol Clin Immunol. 2008;18:63-66. IF 1.254
27) Funato M, Kaneko H, Ozeki M, Kanda K, Fukao T, Kondo N: Anaphylactoid transfusion reactions associated with a positively charged white-cell reduction filter: a case report. Transfus Apher Sci. 2008;38:199-201. IF 0.970
28) Jin R, Kaneko H, Suzuki H, Arai T, Teramoto T, Fukao T, Kondo N. Age-related changes in BAFF and APRIL profiles and upregulation of BAFF and APRIL expression in patients with primary antibody deficiency. Int J Mol Med. 2008;21:233-238. IF 1.847
29) Bai CY, Matsui E, Ohnishi H, Kimata K, Kasahara K, Kaneko H, Kato Z, Fukao T, Kondo N. A Novel Polymorphism in the 5-lipoxygenase Gene Associated with Bronchial Asthma in Japanese Children. Int J Mol Med. 2008;21:139-144. IF 1.847
30) Kondo M, Kaneko H, Fukao T, Suzuki K, Sakaguchi H, Shinoda S, Kato Z , Matsui E, Teramoto T, Nakano T, Kondo N. The response of bovine beta-lactoglobulin-specific T-cell clones to single amino acid substitutions of T-cell core epitope. Pediatr Allergy Immunol. 2008;19:592-598. IF 2.454
31) Yamada K, Yamamoto Y, Uchiyama A, Ito R, Aoki Y, Uchida Y Nagasawa H, Kimura H, Ichiyama T, Fukao T, Kohno Y. A successfully treated case of neonatal herpes simplex type 1 infection complicated by hemophagocytic lymphohistiocytosis and acute hepatic failure. Tohoku J Exp Med. 2008;214:1-5. IF 1.133
32) Funato M, Kaneko H, Ozeki M, Kanda K, Fukao T, Kondo N. Pediatric synovial sarcoma of the right masseter muscle: A case report and review of the literature. Int J Pediatr Otorhi Extra. 2008;3:105-108. IF 0.851
33) Suzuki H, Kaneko H, Rong J, Kawamoto N, Asano T, Matsui E, Kasahara K, Fukao T, Kondo N. Induction of α1 and α2 gene expression in selective IgA deficiency. Molecular Medicine Report. 2008;1:395-399.
34) Yotsumoto Y, Hasegawa Y, Fukuda S, Kobayashi H, Endo M, Fukao T, Yamaguchi S. Clinical and molecular investigations of Japanese cases of glutaric acidemia type 2. Mol Genet Metab. 2008;94:61-67. IF 2.550
35) Fukao T, Boneh A, Aoki Y, Kondo N. A Novel Single-Base Substitution (c.1124A>G) that Activates a 5-Base Upstream Cryptic Splice Donor Site within Exon 11 in the Human Mitochondrial Acetoacetyl-CoA Thiolase Gene. Mol Genet Metab. 2008;94:417-421. IF 2.550
36) Kuratsubo I, Suzuki Y, Shimozawa N, Kondo N. Parents of childhood X-linked adrenoleukodystrophy: High risk for depression and neurosis. Brain Dev. 2008;30:477-482. IF 1.464
37) Orii KE, Fukao T, Song X-Q, Mitchell GA, Kondo N. Liver-Specific Silencing of the Human Gene Encoding Succinyl-CoA: 3-Ketoacid CoA Transferase. Tohoku J Exp Med. 2008;215:227-236. IF 1.133
38) Ozeki M, Funato M, Kanda K, Ito M, Teramoto T, Kaneko H, Fukao T, Kondo N. Clinical Improvement of Diffuse Lymphangiomatosis with Pegylated Interferon ALFA-2B Therapy. Pediatr Hemat Oncol. 2008;24:513-524. IF 0.720
39) Purevsuren J, Fukao, T, Hasegawa Y; Fukuda S, Kobayashi H, Yamaguchi S. Study of deep intronic sequence exonization in a Japanese neonate with a mitochondrial trifunctional protein deficiency. Mol Genet Metab. 2008;95:46-51. IF 2.550
40) Kawamoto M, Matsui E, Kaneko H, Fukao T, Teramoto T, Kasahara K, Kondo N. IL-10 plays an important role as an immune-modulator in the pathogenesis of atopic diseases. Molecular Medicine Reports. 2008;1:837-842.
41) Arai T, Kaneko H, Ohnishi H, Matsui E, Fukao T, Kawamoto N, Kasahara K, Kondo N. Hypothermia Augments NF-kappa B Activity and the Production of IL-12 and IFN-gamma. Allergol Int. 2008;57:331-338.
42) Teramoto T, Fukao T, Hirayama K, Asano T, Aoki Y, Kondo N. Escherichia coli O-157-induced hemolytic uremic syndrome: Usefulness of SCWP score for the prediction of neurological complication. Pediatrics International. 2008;50:1-3. IF 0.737
43) Aoki H, Hara A, Niwa M, Motohashi T, Suzuki T, Kunisada T. Transplantation of cells from eye-like structures differentiated from embryonic stem cells in vitro and in vivo regeneration of retinal ganglion-like cells. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2008;246:255-265. IF 1.590
44) Hara A, Aoki H, Taguchi A, Niwa M, Yamada Y, Kunisada T, Mori H. Neuron-like differentiation and selective ablation of undifferentiated embryonic stem cells containing suicide gene with Oct-4 promoter. Stem Cells Dev. 2008;17:619-627. IF 3.224
45) Taguchi A, Hara A, Saito K, Hoshi M, Niwa M, Seishima M, Mori H. Localization and spatiotemporal expression of IDO following transient forebrain ischemia in gerbils. Brain Res. 2008;1217:78-85. IF 2.218

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：深尾敏幸；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：ケトン体代謝異常症の分子病態－蛋白 3 次機造変化とスプライシング異常を中心に－；平成 18－19 年度；3,500 千円(1,900：1,600

千円)

2) 研究代表者：山口清次，研究協力者：深尾敏幸；厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業：タンデムマス等の新技術を導入した新しい新生児マススクリーニング体制の確立に関する研究；平成 19－20 年度；700 千円(400：300 千円)
3) 文部科学省特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)：能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育：平成 15－18 年度；60,000 千円(15,000：15,000：15,000：15,000 千円)
4) 研究代表者：丹羽雅之；岐阜大学活性化経費：CoCl2 の選択的視神経障害モデルの確立；平成 18 年度；900 千円
5) 研究代表者：丹羽雅之；文部科学省科学研究費基盤研究(C)(2)：コバルトクロライド誘発視細胞選択的障害モデルの発現機序解明ならびにその防御・治療；平成 19―20 年度；3,500 千円(2,700：800 千円)
6) 研究代表者：高橋優三，研究協力者：丹羽雅之；知的クラスター創成事業「テーマⅠ：低侵襲微細手術支援・教育訓練システムの開発：医療教育訓練ロボット」；平成 19－20 年度；46,432 千円(23,200：23,232 千円)
7) 平成 19 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)採択「臨床医学教育を強化向上させる ICT：e-Learning で培う医の心と技」；平成 19－21 年度；69,973 千円(23,993：21,980：24,000 千円(予定))

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

深尾敏幸：

1) 日本先天代謝異常学会評議員(～現在)
2) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
3) 日本小児科学会東海地方会幹事(平成 18 年 4 月～現在)
4) 日本人類遺伝学会指導医(平成 18 年 4 月～現在)
5) 日本小児科学会代議員(平成 20 年 4 月～現在)

丹羽雅之：

1) 日本薬理学会評議員(～現在)
2) 日本炎症・再生医学会評議員(～現在)
3) 日本医学教育学会評議員(～現在)
4) 日本臨床薬理学会評議員(～現在)

2）学会開催

丹羽雅之：

1) 第 19 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 1 月，岐阜)
2) 第 20 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 4 月，つくば)
3) 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 8 月，岐阜)
4) 第 22 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 18 年 10 月，横浜)
5) 第 23 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 1 月，岐阜)
6) 第 24 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 4 月，東京)
7) 第 25 回医学教育セミナーとワークショップ／第 7 回日本小児医学教育研究会(平成 19 年 7 月，岐阜)
8) 第 26 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 19 年 10 月，徳島)
9) 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 1 月，名古屋)

10） 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 5 月，大阪)
11） 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 8 月，岐阜)
12） 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 10 月，東京)

3）学術雑誌
なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長
深尾敏幸：
1） 10th International congress of inborn errors of metabolism(2006.09, Chiba,「Mutation update of human mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase (T2) deficiency」演者)
2） 10th International congress of inborn errors of metabolism(2006.09, Chiba,「Mutation update of succinyl-CoA:3-ketoacid CoA transferase deficiency」演者)
3） 2008 Annual symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (2008.08,「CpG islands around exon 1 in succinyl-CoA:3-ketoacid CoA transferase (SCOT) gene were hypomethylated even in human and mouse hepatic tissues where SCOT gene expression was completely suppressed」speaker)
4） 2008 Annual symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism(2008.08,「A novel single-base substitution(c.1124A>G)that activates 5-base upstream cryptic splice donor site within exon 11 in the human mitochondrial acetoacetyl-CoA thiolase gene」speaker)
5） 第 11 回広島先天代謝異常研究会(平成 20 年 2 月，広島，特別講演「ケトン体代謝とその異常症」演者)
6） 第 7 回東北代謝異常症治療研究会(平成 20 年 7 月，仙台，特別講演「ケトン体代謝とその異常症」演者)
7） 第 10 回岐阜プライマリーケアカンファランス(平成 20 年 7 月，岐阜，特別講演「低血糖，高アンモニア血症，代謝性アシドーシス」演者)
8） 先端創薬医療シンポジウム(平成 20 年 10 月，岐阜，講演「遺伝子と病気」演者)
9） 第 45 回日本小児アレルギー学会(平成 20 年 12 月，横浜，シンポジウム 10「アレルゲンの意義とその多様な機能」演者)

丹羽雅之：
1） 6th Asia-Pacific Conference on Problem-Based Learning(2006.01, Tokyo, Symposium 2 “E-PBL”:「Web-based Internet PBL-tutorial/Rakuichi The Tutorial」Symposist)
2） 第 45 回日本薬学会中国四国支部例会(2006 年 6 月，福山，学会招待講演「新しい医療系教育の流れと PBL/テュトーリアル」演者)
3） 先端創薬医療シンポジウム(平成 20 年 10 月，岐阜，講演「細胞死と病気，その再生」演者)

8. 学術賞等の受賞状況
なし

9. 社会活動
深尾敏幸：
1） 岐阜県小児保健協会常任理事(～現在)
2） 岐阜県予防接種健康被害調査専門医師集団専門医師(～現在)
3） 岐阜市保育所児童の健康を考える会委員　委員長(～現在)
4） 岐阜県小児救急医療協議会委員(～現在)
5） 岐阜市保健医療審議会委員(～現在)

10. 報告書
1） 近藤直実，金子英雄，近藤應，深尾敏幸，篠田紳司，加藤善一郎，青木美奈子，川本典生：食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質(アレルゲン)の確定，予防・予知法の確立に関する研究　食物アレルゲンの免疫応答および非即時型反応に関する研究：平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金研究報告書第 1 分冊(海老澤班)：90－92(2006 年 3 月)

2) 近藤直実，金子英雄，近藤應，深尾敏幸，篠田紳司，加藤善一郎，青木美奈子，川本典生：食物アレルゲンの免疫応答および非即時型反応に関する研究：平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金 総合・分担研究報告書(海老澤班)：22－24(2006 年 3 月)
3) 近藤直実，金子英雄，近藤應，深尾敏幸，篠田紳司，加藤善一郎，青木美奈子，川本典生：食物アレルゲンの免疫応答および非即時型反応に関する研究：平成 15 年度－17 年度厚生労働科学研究費補助金 総合研究報告書(海老澤班)：22－24(2006 年 3 月)
4) 折居建治，深尾敏幸，金子英雄，近藤直実：Ataxia telangiectasia(毛細血管拡張性運動失調症)の病態に関す分子生物学的解析：平成 17 年度厚生科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括・分担研究報告書(宮脇班)：49－51(2006 年 3 月)
5) 金子英雄，鈴木啓子，金　栄，深尾敏幸，近藤直実：IgA 欠損症の病態と病因遺伝子の解析：厚生労働省　難治性疾患克服研究事業　原発性免疫不全症候群に関する調査研究　平成 18 年度第 1 回班会議総会プログラム(宮脇班)：6(2007 年 1 月)
6) 近藤直実，深尾敏幸，松井永子，金子英雄，青木美奈子，近藤　應，川本典生：アレルギー性疾患の発症・重症化の予知に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告会抄録集(海老澤班)：125(2007 年 2 月)
7) 近藤直実，深尾敏幸，金子英雄，松井永子，青木美奈子：アトピー性皮膚炎発症と母乳の関連，特に母乳成分の解析に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告会抄録集(河野班)：143(2007 年 2 月)
8) 金子英雄，鈴木啓子，深尾敏幸，近藤直実：IgA 欠損症の病態と病因遺伝子の解析　原発性免疫不全症候群に関する調査研究：平成 18 年度厚生科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業　総括・分担研究報告書(宮脇班)：41－43(2007 年 3 月)
9) 近藤直実，深尾敏幸，岩砂眞一，白木　誠，松井永子，金子英雄，青木美奈子，近藤　應，川本典生：アレルギー疾患の発症・重症化の予知に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　総括・分担研究報告書(海老澤班)：9－11(2007 年 3 月)
10) 近藤直実，深尾敏幸，岩砂眞一，白木　誠，松井永子，金子英雄，青木美奈子，近藤　應，川本典生：アレルギー性疾患の発症・重症化の予知に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告書　厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業事務局　発行　第 3 分冊(海老澤班)：161－163(2007 年 3 月)
11) 近藤直実，深尾敏幸，金子英雄，松井永子，青木美奈子：アトピー性皮膚炎発症と母乳の関連，特に母乳成分の解析に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告書　厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業事務局　発行　第 3 分冊(河野班)：210－212(2007 年 3 月)
12) 近藤直実，篠田紳司，金子英雄，青木美奈子，松井永子，寺本貴英，深尾敏幸：免疫機能低下を有する小児に対する予防接種の検討(第 3 報)免疫維持に関する検討：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　医薬品・医療機器等レギュラーサイエンス総合研究事業　総括・分担研究報告書(下田班)：85－87(2007 年 4 月)
13) 近藤直実，深尾敏幸，金子英雄，松井永子，青木美奈子：アトピー性皮膚炎発症と母乳の関連，特に母乳成分の解析に関する研究：平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　総括・分担研究報告書(河野班)：20－22(2007 年 4 月)
14) 近藤直実，深尾敏幸，松井永子，金子英雄，川本美奈子，川本典生：アレルギー性疾患の発症・重症化の予知に関する研究：平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告会抄録集(海老澤班)：98(2008 年 2 月)
15) 近藤直実，篠田紳司，松井永子，川本美奈子：小児喘息 QOL 研究の総括　ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL の向上に関する研究：平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告会抄録集(須甲班)：73(2008 年 2 月)
16) 近藤直実，川本美奈子，深尾敏幸，金子英雄，松井永子，大西秀典：アトピー性皮膚炎発症と母乳の関連，特に母乳成分の解析に関する研究：平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金　免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業　研究報告会抄録集(河野班)：8(2008 年 2 月)
17) 丹羽雅之：第 24 回医学教育セミナーとワークショップ，アナウンスメント：医学教育 38 巻 121(2007 年 1 月)
18) 丹羽雅之：第 25 回医学教育セミナーとワークショップ，ニューズ：医学教育 38 巻 334(2007 年 10 月)
19) 丹羽雅之：第 26 回医学教育セミナーとワークショップ，アナウンスメント：医学教育 38 巻 354(2007

年 10 月)
20) 丹羽雅之:第 27 回医学教育セミナーとワークショップ, アナウンスメント:医学教育 38 巻 410(2007 年 12 月)
21) 丹羽雅之 : 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ, アナウンスメント : 医学教育 38 巻 86(2008 年 4 月)
22) 丹羽雅之 : 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ, ニューズ : 医学教育 38 巻 359(2008 年 10 月)
23) 丹羽雅之:第 30 回医学教育セミナーとワークショップ, アナウンスメント:医学教育 39 巻 346(2008 年 10 月)
24) 丹羽雅之:第 31 回医学教育セミナーとワークショップ, アナウンスメント:医学教育 39 巻 469(2008 年 12 月)

11. 報道

1) 深尾敏幸 :「研究室から　大学はいま」: 岐阜新聞(2006 年 4 月 4 日)
2) 連合創薬医療情報研究科－研究室紹介 : 日経新聞, 朝日新聞(2007 年 6 月 27 日)
3) 丹羽雅之 :「研究室から　大学はいま」: 岐阜新聞(2007 年 11 月 13 日)

12. 自己評価

評価

研究成果は量的にある程度の結果を示せたと思うが, 質的には更なる努力が必要である。

現状の問題点及びその対応策

連合創薬医療情報研究科は 2007 年 4 月 1 日に発足したばかりで学年進行中の研究科である。研究活動の拠点ともなる施設も現在仮住まいであり, 本格的な活動は来年度医学部キャンパス内に完成予定の岐阜薬科大学への移転後とならざるを得ない。また研究科スタッフ間での共同研究やその方向性がまだ不十分であり, 現状では母体分野の研究が主となっている。移転後は母体分野の特性をさらに高めるとともに, 研究科として新たなプロジェクトの立ち上げ等を通じ, 領域・専攻を超えた教員間の連携を高める必要がある。

今後の展望

今後さらに医学・工学・薬学との連携の強みを生かした研究を進め, 創薬への足がかりを固めたい。